



東洋大学

在学中保管

履修要覧

Faculty of Life Sciences

生命科学部

2021

建学の理念と創立者 井上円了

建学の理念

○建学の精神

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

○東洋大学の教育理念

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

○東洋大学の心

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。

東洋大学は、明治20（1887）年、哲学者・井上円了が創設した「私立哲学館」によってその歴史が始まりました。円了は幕末の安政5（1858）年、越後国長岡藩西組浦村（現在の新潟県長岡市浦）のお寺の長男として生まれ、明治14年、設立間もない東京大学文学部哲学科にただひとりの1年生として入学しました。勉学を通して「洋の東西を問わず、真理は哲学にあり」と確信します。当時のわが国は欧米文化至上主義の時代で、円了は西洋化に踊らされる日本を憂えていたと思われます。ここでいう哲学とは、「万物の原理を探り、その原理を定める学問」であり、それは観念的演繹的な哲学ではなく、事実と実証に基づく哲学であるという点が強調されました。

円了は創立前に「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であります。政治、法律はもとより科学や芸術まで、その根底には哲学がなくてはなりません」と述べています。この考えから明治20年「私立哲学館」という哲学専修の私立学校を創立しました。これが現在の東洋大学の前身にあたります。

円了が教育で目指した哲学は、いわゆる「哲学者」の養成ではなく、思想や精神を錬磨する術（すべ）であり、他に応用する能力も身につけなければならないものであると説いています。

哲学という言葉が初めて使われた明治時代から、哲学の欠如が問われている現在までの125年以上にわたり、東洋大学も激動の歴史を歩みながら、創立者井上円了の教育理念を継承してきました。

哲学館創立以降に、円了は「余資なく、優暇なき者」のために「社会教育」と「開かれた大学」を目指して活動を開始しました。その一つに、学校開設の翌年から『哲学館講義録』を発行して、通学できない者にも勉学の機会を与えました。これは当時としては画期的なことであり、この精神は現在の通信教育部に受け継がれています。

さらに、円了は30代から生涯続けることになる全国巡講を始めています。統計の残っている明治39年から大正7年までの13年間で、全国60市、2198町村において5291回の講演を行い、社会教育に力を入れました。明治の日本に新しい教育の扉を開こうとした円了の情熱がうかがえます。この心を引き継いで現在の東洋大学では「開かれた大学」を目指し、講師派遣事業や公開講座など、地域のみならず全国の人々に生涯学習の場を提供しています。

生命科学部

I 履修要綱
第1章 学修計画の基礎 試験と成績評価
第2章 生命科学科 履修方法と学科教育課程表
第3章 応用生物科学科 履修方法と学科教育課程表
II 生命科学部 学生支援プログラム
III 諸資格
IV 学籍および納付金
V その他
VI 教員紹介（プロフィール）

卒業まで大切に使用・保管してください。

この履修要覧は、皆さんが学業を進めていくうえで必要不可欠な、学部の基本的な事項を収録したものです。再配布はしませんので、卒業まで大切に保管してください。記載内容は2021年4月現在のものです。記載内容の変更については掲示にてお知らせします。

生命科学部の教育研究上の目的

1. 人材の養成に関する目的

生命科学は、生命現象を遺伝子・分子レベルから細胞レベル、さらに個体レベルで明らかにし、地球社会に貢献することを目的とする学問領域です。この生命科学を教育研究することにより、生命の総合的理解の上に立って、地球社会の発展に貢献する創造的思考能力と倫理観を併せ持った人材を育成します。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

生命科学における「生命」「環境」「健康」を3大テーマとし、「生命科学科」「応用生物科学科」の2学科で各々特徴ある教育に取り組みます。特に、本学部の特色として、生命現象の原理解明と生物資源の利用に関する学問領域とともに、地球環境およびヒトの健康の維持に関する学問領域の教育を推進しています。これにより、学生に生命科学の学問領域全般を体系的に修得させ、実社会での問題を解決する能力、新しい分野を切り拓いていく能力などを身につけさせることを教育目標としています。

生命科学部の卒業の認定及び学位授与に関する方針

- 1) 極限環境に生育する生物からヒトにいたるまでの生命現象に関する基礎知識と生命現象を解析する基礎的技術を修得した上で、専門的な知識を獲得すること。
- 2) 創造的思考能力を磨くことにより、「生命」「環境」「健康」の各分野における先端科学や高度な技術開発に挑戦していくことができること。
- 3) 高い倫理性と幅広い視野、豊かな人間性と自立心を備え、地球社会の発展に貢献するという強い意志を有すること。

生命科学部長

目 次

生命科学部の教育研究上の目的
生命科学部の卒業の認定及び学位授与に関する方針

I 履修要綱

第1章 学修計画の基礎・試験と成績評価

第1節 学修にあたって	8
1 カリキュラムの概要	
2 学期	
3 セメスタ制	
4 単位制	
5 修業年限と在学年数	
6 学士の学位授与	
第2節 授 業	11
1 授業の期間	
2 授業の時間帯	
3 休講	
4 補講・集中講義	
第3節 Web履修登録について	13
1 履修登録の流れ	
2 登録時の注意事項	
3 シラバスについて	
4 科目の記号と番号(科目ナンバリング)	
第4節 試 験	16
1 試験の種類	
2 学期末試験	
3 平常試験	
4 試験の注意事項	
第5節 成績評価	19
1 成績の評価	
2 G P A制度	
3 成績の発表	
4 成績に関する問い合わせ(成績調査)	
5 学修指導	
6 卒業再試験について	

第2章 生命科学科 履修方法と学科教育課程表

生命科学科の教育研究上の目的

生命科学科3つの教育方針

1 カリキュラム上の特徴	27
2 選択必修科目の各分野内容と特徴	
3 生命科学科卒業要件	
4 年次別履修単位数制限	
5 卒業論文着手条件	
6 履修上の注意	
基盤教育科目	
専門教育科目	
開放領域について	
卒業要件を上回って修得した単位について	
生命科学科教育課程表(2021年度以降入学生用)	
生命科学科の開放領域	

第3章 応用生物科学科 履修方法と学科教育課程表

応用生物科学科の教育研究上の目的

応用生物科学科3つの教育方針

- 1 カリキュラム上の特徴 47
- 2 コース内容と特徴
- 3 応用生物科学科卒業要件
- 4 年次別履修単位数制限
- 5 卒業論文着手条件
- 6 履修上の注意
 - 基盤教育科目
 - 専門教育科目
 - 開放領域について
 - 卒業要件を上回って修得した単位について
 - 応用生物科学科教育課程表（2021年度以降入学生用）
 - 応用生物科学科の開放領域

II 生命科学部学生支援プログラム

生命科学部学生支援プログラム

- 1 英語単位認定制度 64
- 2 Toyo Global Leader (TGL) プログラム
- 3 英語特別教育科目 LEAPプログラム
- 4 大学院開講科目履修制度
- 5 成績優秀者表彰制度
- 6 聴講制度（群馬県内大学単位互換制度）
- 7 実務研修
- 8 学外実習
- 9 東京外国語大学の単位互換制度

III 諸資格

諸資格

- 1 教職課程（教育職員免許状） 74
 - 教育職員免許状について
 - 教育職員免許状の取得条件について
 - 教員免許状更新制について
 - 教職課程登録料について
 - 教職の履修登録について
 - 教育実習について
 - 介護等体験について
 - 教職実践演習について
 - 教育職員免許状一括申請について
 - 休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合について
 - 教員採用試験について
 - 教員採用に関する支援について
- 2 食品衛生管理者および食品衛生監視員（任用資格）
- 3 危険物取扱者（甲種）
- 4 バイオ技術者認定試験（中級・上級）
- 5 技術士補
- 6 公害防止管理者試験（国家試験）
- 7 その他学部の学びに関連する資格

IV 学籍および納付金

- 1 学籍（学籍異動に関する手続） 94
- 2 納付金に関する取扱

V その他

- 1 国際教育センター 海外留学・研修プログラム 106
- 2 板倉キャンパスの情報環境について
- 3 学則（学籍に関する事項の抜粋）
- 4 東洋大学生命科学部規程

VI 教員紹介（プロフィール）	115
板倉校舎案内図	128

I 履修要綱

第1章 学修計画の基礎・試験と成績評価

第1節 学修にあたって

1 カリキュラムの概要

東洋大学は、全学的な教育目標「東洋大学スタンダード 2021」をふまえ、哲学教育・グローバル教育・キャリア教育を軸として学力と人間力をともに養成し、グローバル人財の育成を実現するカリキュラムを編成しています。

(1) 東洋スタンダード 2021

東洋大学は、建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」に基づき、学生に以下の力を身につけさせることを宣言します。

1. 「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力
2. 「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動できる力
3. 「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に貢献できる人間力
4. 変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力
5. グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力

(2) 基盤教育科目・ 学科専門教育科目

本学部、各学科の人材養成の目的とその他教育研究上の目的を実現するために必要なカリキュラムが構成されています。

基盤教育科目において幅広い知識・教養を身につけ、学科専門教育科目において、学問領域を深く体系的に学ぶことができるよう、本学の学士課程教育が構成されています。

基盤教育科目	
哲学・思想	<p>「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力</p> <p>理論哲学や実践哲学、倫理観を確立するとともに、自ら考え、判断し、行動する能力、総合的視野に立ち、他分野の人々と協働できる能力を身につける。そのために古今東西の賢人たちが残した哲学・思想に耳を傾け、それらについて深く考えることで思考を錬磨し、自らのものの見方・考え方の基盤を築くとともに、多角的なものの見方・考え方を受容する力の獲得を目指す。</p>
学問の基礎	<p>「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指すし、地球環境と人類社会に貢献できる人間力</p> <p>変化の激しい現代社会を生きるための教養とは、幅広い知識の修得のみならず、グローバルな視野を持ち、歴史的かつ多元的な視点で物事を深く考え、自然やものの成り立ち、科学と社会との関係を正しく理解したうえで適切な判断ができる能力を意味する。人文・社会・自然科学の諸分野における先人の知恵に学び、それらを横断する学際的な探求活動を通じて、教養を身につける。</p>
国際人の形成	<p>グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力</p> <p>地球とともに生きる市民のひとりであることを自覚し、多様な伝統や文化を越えて、個を尊重しながら共生、協働していくための素養を身につける。そのために複数の言語を使う力を伸ばすとともに、柔軟で論理的な思考力、異なる価値観を認めあうための受容力と発信力を高め、自らの考えを的確に伝えられる、そして相手の考えを多角的、多元的に理解できるコミュニケーション能力の伸長を目指す。</p>
キャリア・市民形成	<p>「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動できる力</p> <p>人生100年時代を迎え、さまざまに多様化が進む現代社会で「よく生きる」ためには、社会的・職業的な課題の理解力、判断力、行動力が必要である。これらの養成のために、法律、会計、IT、情報、環境など、社会や組織を理解するための基本を学ぶとともに、他者と協働し、自ら行動するためのコミュニケーション力、調整力、キャリア開発力を身に着ける。</p>
総合・学際	<p>変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力</p> <p>グローバル化と技術革新の進展がもたらす現代社会の課題について、複数の学問視点や複合・学際領域など多様な視点から、さまざまなひとや組織と協働して、柔軟で斬新な解を見いだす力を身につける。そのために、分野を超えて最新の技術動向や研究成果を学ぶ授業を展開し、対話をとおして、その知識や技能を応用して発展的・創造的に思考・発想する力を養成する。</p>
健康・スポーツ科学	<p>多様化するグローバル社会に対して、知徳体のバランスの取れた健康的な人材を育成することを目指し、スポーツの価値の中核である「楽しさ」「喜び」を享受し、スポーツの持つ価値を最大化させる「人」「社会」「世界」を様々な結びつける人間力となるコミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性、課題発見・解決能力等を身につける。</p>
専門教育科目	
学科専門教育科目	カリキュラムの中心となる最も多く履修・修得する必要がある学科専門教育科目群です。必修・選択必修・選択科目に分かれています。
教職科目	教育職員免許状を取得するために開設されています。

2 学 期

1年を次の学期に分けます。

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年の3月31日まで

※ただし、授業開始日や終了日、履修登録期間は年度によって異なるので、学生生活ハンドブックやToyoNet-Gで確認してください。

3 セメスタ制

セメスタ制は、上記のように1年を2つの学期(セメスタ)に分け、4年間で8つのセメスタを段階的に積み上げて卒業するシステムです。半年単位で授業が完結することによって、授業効果を高め、学生が集中して学ぶことができ、学生の理解度を把握しやすくなるメリットがあります。

セメスタ制の仕組み

1 学 年	第1セメスタ
	第2セメスタ
2 学 年	第3セメスタ
	第4セメスタ
3 学 年	第5セメスタ
	第6セメスタ
4 学 年	第7セメスタ
	第8セメスタ
卒 業	

4 単位制

(1) 単位制とは

授業科目の履修には単位制が採用されています。単位制とは、授業科目にそれぞれ定められた単位があり、一定の基準(科目の単位数に見合う授業時間)に沿って、その授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目の単位が認定される制度です。

従って、学科教育課程表に基づく卒業要件を満たした場合に卒業として認定し、学士の学位が与えられます。

(2) 単位数の計算方法

授業科目には学習時間に応じた単位数が定められており、卒業要件等の基準は修得すべき単位数として規定されています。1単位は、授業や自習(予習・復習)を含め45時間の学修を行う計算になっており、次の基準により設定されています。

授業科目の区分と1単位あたりの学修時間

授業科目等	授業実施	学習時間		
		授業時間	自習時間 (予習・復習時間)	合計
講義・演習	15週	15時間	30時間	45時間
外国語科目	15週	30時間	15時間	45時間
実験・実技・実習	15週	45時間	0時間	45時間

5 修業年限と在学年数

修業年限は4年です。

在学年数は、通算して8年が限度となります。この場合において、休学年数は在学年数に算入しません。

卒業要件（卒業に必要な単位数）を満たし、修業年限を経過した者には、学士（生命科学）の学位が授与されます。

第2節 授 業

1 授業の期間

本学で行われる授業には、1年間の春学期・秋学期の2学期（セメスタ）に分割し、15週間単位で授業を行うセメスタ授業と、各セメスタを2分割し、8週間単位で授業を行うクォーター授業があります。また、夏季・春季休暇期間等に、集中講義や実習等の授業が行なわれる場合があります。これをセッション授業といいます。

春学期（4月1日～9月30日）						秋学期（10月1日～3月31日）							
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
春セメスタ授業期間				夏セッション	秋セメスタ授業期間				春セッション				
第1クォーター		第2クォーター			第3クォーター		第4クォーター						
						夏季休暇							
						春季休暇							

※学則上の学期日程と実際の学年暦（授業カレンダー）は異なることがあります。

学籍異動等の取り扱いは、学則上の学期日程（春：4月1日～9月30日、秋：10月1日～3月31日）で取り扱います。

※学年暦（授業カレンダー）の詳細は、年度ごとに発行される『学生生活ハンドブック』の「年度行事予定」で確認してください。

※各年度の授業時間割・開講形態・履修登録期間等は『授業時間割表』（4月初旬に配布）にて、お知らせします。また、追加の周知事項がある場合、ToyoNet-Gや掲示板で随時お知らせします。

2 授業の時間帯

授業時間は、1時限（1コマ）90分とし、各時限の区切りは次の表のとおりです。

時 限	時 間 帯
1	9：30 ～ 11：00
2	11：10 ～ 12：40
昼休み	12：40 ～ 13：20
3	13：20 ～ 14：50
4	15：00 ～ 16：30
5	16：40 ～ 18：10
6	18：20 ～ 19：50

一部の実験・実習科目および補講等については上記の時限、時間帯と異なる場合があります。

（詳細は授業時間割表およびToyoNet-G・掲示で確認してください）

3 休 講

教員のやむを得ない理由，学会等への参加，大学の行事などにより授業を休講にすることがあります。

授業の休講は，食堂内電子掲示板，ToyoNet-Gでお知らせします。

なお，次の場合は板倉事務課窓口にお問い合わせをして，その指示を受けてください。

- (1) 休講の指示がなく授業開始時刻を30分以上経過しても授業が開始されない場合。
- (2) その他特別にやむを得ない状況のとき。

※休講に関して電話で問い合わせることはできません。

4 補講・集中講義

次のような場合で，補講・集中講義を実施するときは，その内容を事前に中央掲示板に掲示します。

- (1) 授業が休講となったとき。
- (2) その他の理由で，特別に補講・集中講義を必要とするとき。

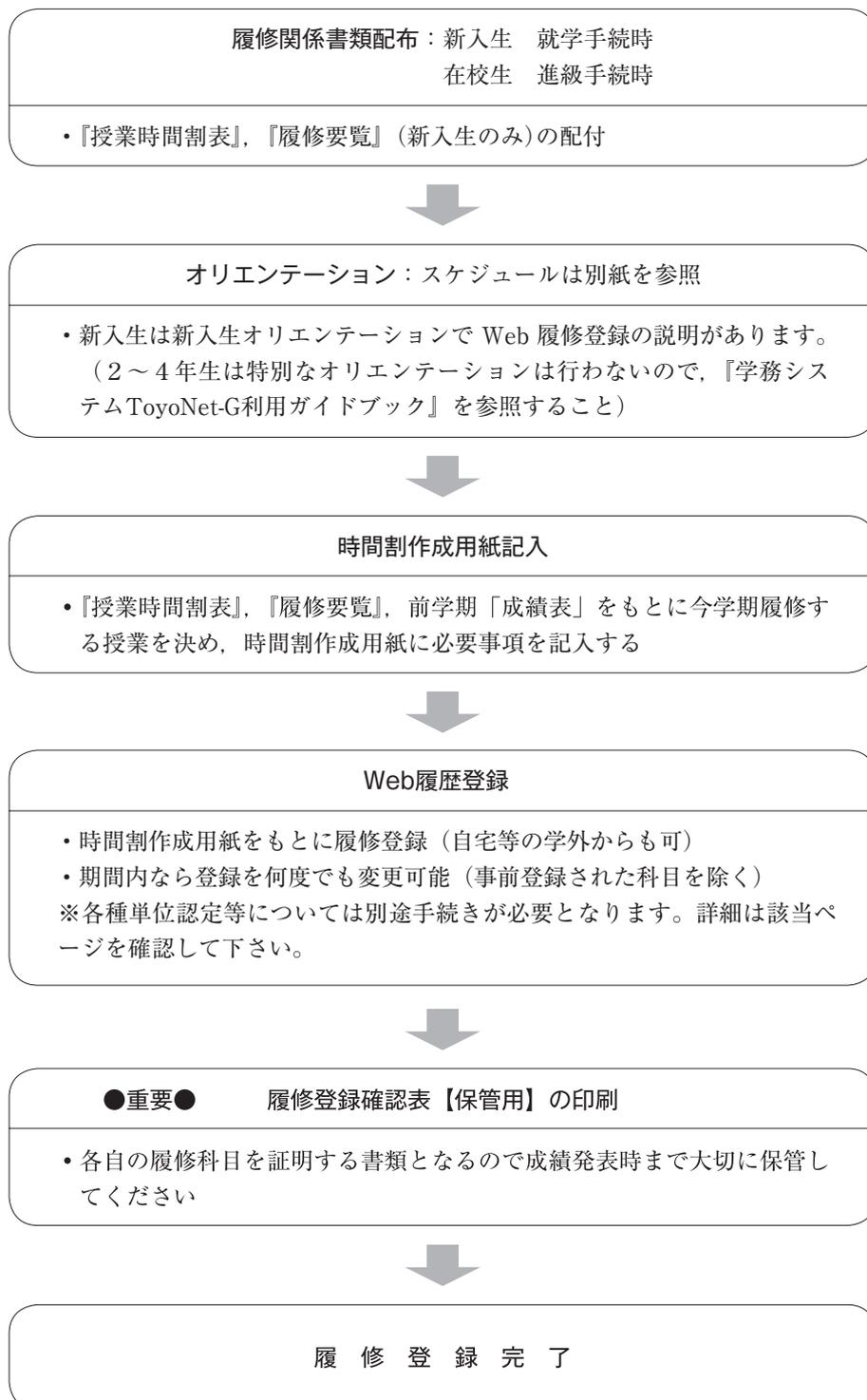
なお，補講は原則として各学期の補講時間あるいは，補講調整期間に行います。

第3節 Web履修登録について

詳細については『学務システム ToyoNet-G利用ガイドブック』を参照してください。

1 履修登録の流れ

※春学期の開始時（4月）
と秋学期の開始時（9月
下旬）の年2回行います。



2 登録時の注意事項

- (1) 履修登録にあたっては、履修要覧及び授業時間割表を熟読のうえ、時間割作成用紙に必要事項を記入してください。
- (2) 学科教育課程表に示された配当学年に従って履修登録してください。
- (3) 履修登録期間以降の追加・訂正・削除は一切認めません。
(ただし、履修取消についてはこの限りではありません。P19, 20「GPA制度」参照)
- (4) 授業時間割及び講義内容等に変更があった場合は、ToyoNet-Gに掲示しますので確認してください。
- (5) 履修登録確認表は必ず印刷して、履修内容を確認し保管してください。

3 シラバスについて

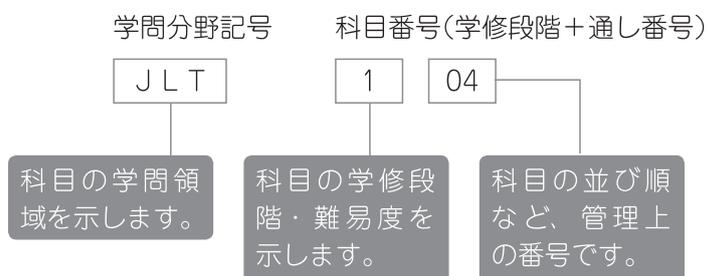
シラバス（講義要項）には、授業の内容（概要）や到達目標など、科目の履修を通じて身につけることのできる知識、能力、また各回の授業の進め方や内容、成績評価方法・基準、使用テキストや予習・復習の指示などが、予め学生に示されています。

履修する科目を決めるにあたって、シラバスを熟読することはもちろん、次回の授業の準備学習や復習の際の振り返りに用いるなど、シラバスを活用することによって学習効果を高めるよう努めてください。

シラバスはToyoNet-Gにて公開しています。

4 科目の記号と番号
(科目ナンバリング)

各授業科目には、記号と番号が付いています（教育課程表を参照）。
記号と番号の意味は以下のとおりです。



学問分野記号

教育課程表上の各科目に付されている学問分野記号は次のとおりです。

ALG	代数学	ECO	経済学	LHM	生命・健康・医療情報学
ALS	水圏生命科学	EDP	教育心理学	LIE	英米・英語圏文学
AMC	応用分子細胞生物学	EDU	教育学	MAT	数学
ANC	分析化学	EER	環境技術・環境負荷低減	MEE	計測工学
APA	動物生理・行動	EES	自然共生システム	MOB	分子生物学
APB	応用生物化学	EHP	環境・衛生系薬学	MTE	環境モデリング・保全修復技術
APM	応用微生物学	EIA	環境影響評価	NBI	ナノバイオサイエンス
ARS	地域研究	ENG	語学（英語）	NGN	神経生理学・神経科学一般
BAA	解析学基礎	ESR	地球・資源システム工学	ORC	有機化学
BAB	基礎生物学	ESS	教科教育学	PCE	化工物性・移動操作・単位操作
BAC	細菌学（含真菌学）	EVB	進化生物学	PHT	哲学・思想
BAM	基礎医学	FAS	学問の基礎（基盤教育）	PHY	物理学
BCH	生物有機化学	FMA	数学基礎・応用数学	PMB	植物分子・生理科学
BEB	生体医工学・生体材料学	FOS	食品科学	PNS	植物栄養学・土壌学
BIC	生物分子化学	FRA	語学（フランス語）	POL	政治学
BIO	生物物理学	FSS	機能物性化学	PPS	植物保護科学
BIP	生物系薬学	FUB	機能生物化学	PUL	公法学
BIS	生物多様性・分類	FUL	基礎法学	PSY	心理学
BLS	生物科学	GCD	遺伝・染色体動態	SEE	構造工学・地震工学・維持管理工学
BMS	生体分子科学	GCO	地球宇宙化学	SEM	ゼミナール／基礎演習
BOA	境界農学	GEB	ゲノム生物学	SEP	固体地球惑星物理学
BPC	生物物理・化学物理・ソフトマターの物理	GLG	地質学	SGB	遺伝育種科学
BRC	生体関連化学	GPH	生理学一般	SGS	システムゲノム科学
BSB	基盤・社会脳科学	HOS	園芸科学	SHS	科学社会学・科学技術史
BSC	基礎化学	HPH	衛生学・公衆衛生学	SOC	社会学
CEB	細胞生物学	HSS	健康・スポーツ科学	SPA	語学（スペイン語）
CHI	語学（中国語）	HUG	人文地理学	STB	構造生物化学
CIV	キャリア/インターシップ/ボランティア系科目	HUI	人間情報学	STP	層位・古生物学
CUA	文化人類学・民俗学	IAS	総合動物科学	STS	統計科学
DEB	発生生物学	IHR	国際人の形成	THI	情報学基礎理論
DEV	持続可能システム	INC	無機化学	THE	卒業論文／卒業制作
EAH	食生活学	ITS	総合・学際	TYS	自校教育科目
ECD	キャリア・市民形成	JPN	語学（日本語）		
ECE	生態・環境	KOR	語学（韓国語）		

科目番号（学修段階＋通し番号）

100番台	主に大学1年生を対象とした授業（1年次レベル）
200番台	主に大学2年生を対象とした授業（2年次レベル）
300番台	主に大学3年生を対象とした授業（3年次レベル）
400番台	主に大学4年生を対象とした授業（4年次レベル）
500番台	大学院レベル

※上記の科目番号は授業の難易度を示すものとして付されています。教育課程表に記載されている配当学年（履修可能年次）と異なる場合があります。

第4節 試 験

1 試験の種類

履修した科目の単位を修得するためには、その授業科目の授業に3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。

この成績評価を行うための試験は、筆記（レポートを含む）または口頭により行います。

2 学期末試験

学期末試験とは、各学期の最終週（試験・補講調整期間）に行うテスト等を指します。例年、春学期は7月下旬～8月上旬、秋学期は1月下旬～2月上旬に実施予定で、学期末試験時間割に従って実施します。（ToyoNet-Gで各自の時間割を確認してください）試験の日、時限、場所（教室）、方法等は、次により発表します。

試験の種類	発表の方法	発表の時期	確認方法
学期末試験	ToyoNet-G	試験開始の約1週間前	ToyoNet-Gの「学生メニュー」>「学期末試験」>「試験時間割表照会」

※発表内容に変更が生じたときは、随時ToyoNet-Gの情報を更新します。

3 平常試験

平常試験とは、各授業科目の担当教員が平常の授業時間内で行うテスト等を指します。

4 試験の注意事項

(1) 学期末試験の受験資格

次のいずれかに該当するときは、試験を受験することができません。

- (1) 履修登録をしていないとき。
- (2) 受験に際して有効な学生証を携帯していないとき。
- (3) 休学及び停学中のとき。
- (4) 試験開始後20分を経過したとき。

(2) 平常・学期末試験上の注意事項

受験にあたっては、次のことに注意してください。

- (1) 履修登録確認表に記載されていない科目を受験しても無効です。
- (2) 学期末試験、平常試験ともに通常授業実施時間帯で試験が行われます。
- (3) 試験会場は平常授業時と異なる場合があるので、ToyoNet-Gの情報を確認してください。
- (4) 1科目で試験会場が2カ所以上になる場合、学籍番号で試験会場を指定するので、必ず指定された試験会場を受験してください。
- (5) 試験に際しては、すべて監督者の指示に従ってください。
- (6) 学期末試験では、学生証がないと受験できないので必ず携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示してください。（平常試験でも求められる場合がありますので、学生は必ず携帯すること。）
- (7) 試験会場に持ち込みできるものは、筆記用具・時計機能だけの時計・持ち込み

が許可されたもののみです。スマートフォン、スマートウォッチ等の通信機能が付いた機器は机上に置けません。試験の妨げにならないよう電源を必ず切って、かばんにしまってください。なお、上記の機器、音楽プレーヤーを時計代わりに使用することはできません。

8. 筆記用具（ボールペン、鉛筆、消しゴム）を必ず持参してください。貸出は一切行いません。
9. 試験中の飲食は禁止します。
10. 答案用紙の、学部・学科・学年・学籍番号・氏名欄には必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください（ただし、インクが消しゴム等で消せないものに限る）。
11. 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入してください。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効です。
12. 学期末試験は試験開始後20分までに入室しないと受験資格を失います。また退出は開始後30分を経過し、監督者の指示があった後にのみ許可します。途中退室した場合、再入場は認めません。
13. 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書（コピー可）等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けてください。
14. 不正行為を行った場合は、学則（第57条）に基づき処分されます。不正行為についての規程と処分内容はP17、P18を参照してください。平常試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明をよく確認してください。
15. 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間に余裕をもって入場してください。

平常・学期末試験における不正行為

不正行為（本学の規則に反する行為、または学生の本分に反する行為）を平常・学期末試験において行った場合は、学則第57条に則り処分されます。

1. 処分の種類

処分は、譴責、停学又は無期停学とする。

2. 処分とその対象となる不正行為

(1) 譴責の対象となる行為

- ア 持ち込みが認められているものの貸借。
- イ 他人の答案の覗き見、答案を故意に他人に見せ又はそれを見る行為。
- ウ 試験監督者又は監督補助者からの注意を無視した行為。
- エ その他アからウに準ずる行為。

(2) 停学1ヵ月の対象となる行為

- ア 解答用紙を交換する行為。
- イ 許可されていないものの持込み。
- ウ 書込みを許可されていない持込許可教材、机上、手掌等へ書込みをしての受験、又は、これに類似する行為。
- エ 試験監督者又は監督補助者からの注意に対する暴言。

- オ その他アからエに準ずる行為。
- (3) 無期停学の対象となる行為
 - ア 替え玉受験。
 - イ 在学中における再度の不正行為。
 - ウ 試験監督者又は監督補助者からの注意に対する暴力行為。
 - エ その他、極めて悪質な行為。

3. 処分に伴う措置

- (1) 処分の種別にかかわらず、不正行為のあった試験科目の単位は、当該年度(学期)において認定しない。また、上記「2.(2)」及び「2.(3)」の停学の対象となる行為については、当該年度(学期)の試験期間において実施される全ての試験科目の単位を認定しない。
- (2) 停学期間は当該学部教授会で処分に関する意見を決定した日から起算することを原則とする。
- (3) 決定した処分内容については、不正行為者が所属する学部の学部長が、本人及び保証人と面接のうえ、通達する。
- (4) 停学期間中は、不正行為者に対してその所属学部が教育的指導を行う。
- (5) 「譴責の対象となる行為ア及びイ」、「停学1ヵ月の対象となる行為ア」、「無期停学の対象となる行為ア」の不正行為は、その当事者全てが上記(1)～(4)の措置の対象となる。

4. 不服申立て

不正行為の指摘を受けた学生は、不服申立てをすることができる。

(3) レポート

各授業科目の担当教員からレポート提出の指示があったときは、下記の注意事項を厳守して、提出日に必ず提出してください。

レポート作成上の注意事項

- (1) レポート作成にあたっては、担当教員の指示に従うこと。
- (2) レポートの用紙サイズについて、特に指示があった場合は、これに従うこと。
- (3) レポートには、次の項目を必ず記載すること。
 - 科目名、教員名、題目、学籍番号、氏名
- (4) レポートの左側上部をホッチキスで止めること。
- (5) レポート提出について
 - ・担当教員の指示を受け、直接担当教員に提出すること。
 - ・板倉事務課窓口では、特別指示のない限り、レポート郵送先・教員の連絡先の照会に応じることはできません。

第5節 成績評価

1 成績の評価

成績の表示は次の通りです。

【東洋大学成績評価基準】

合 否	成績表示	点 数	基 準
合 格	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を取めている。
	A	89～80	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標を達成している。
	C	69～60	到達目標を最低限達成している。
不 合 格	D	59～40	到達目標を達成していない項目があるが、学修行動を改めることにより達成する可能性がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。

※「評価対象外」とは、授業期間を通じ出席不良、または不受験・レポート未提出のため成績評価の判断ができないものを指します。

※上表のほかに、留学先大学での学修成果などを単位認定する場合、「T」を合格の評価として使用する場合があります。

2 GPA制度

単位や成績評価、単位の質自体を保証していくことを目的としてGPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

GPAとは、授業科目ごとの成績に対して、4.3～0.0のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

生命科学部では、2017年度入学生からGPA2.0を上回ることを「卒業時の目安」として設定しています。GPA2.0を下回ったとしても卒業は可能ですが、卒業時にGPA2.0を上回るように努力してください。

〔GPAの算出方法〕

$$GPA = \frac{(Sの修得単位数 \times 4.3) + (Aの修得単位数 \times 4.0) + (Bの修得単位数 \times 3.0) + (Cの修得単位数 \times 2.0) + (Dの修得単位数 \times 1.0) + (Eの修得単位数 \times 0.0) + (*の修得単位数 \times 0.0)}{\text{総履修登録単位数}}$$

※対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。

※対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, *」とし、認定の評価「T」は対象となりません。

※再履修で評価を受けた成績については、最新の成績が反映されます。

※GPAは計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までを表示します。

GPAは、「成績表」に直近と累積の値が記載され、海外留学の際の学力指標や学内奨学金の採用基準となる他、成績優秀者の表彰や、学内の学習指導に利用されることがあります。

(履修取消について)

卒業要件に関わる科目については授業開始の一定期間経過後に履修取消が可能です。履修科目の取り消しを希望する場合は、定められた期間にToyoNet-Gにて手続きしてください。なお、履修科目の追加・変更はできません。

3 成績の発表

第1クォーターについては6月下旬、春学期、第2クォーターについては9月中旬～下旬、第3クォーターについては11月下旬、秋学期、第4クォーターについては3月中旬～下旬にToyoNet-Gで発表します。

4 成績に関する問い合わせ(成績調査)

成績発表後、次の①～④に該当する科目については、成績調査受付期間にToyoNet-Gで成績調査申請を行い、成績評価の確認をすることができます。成績調査申請した科目の評価については定められた回答確認期間に各自で必ず確認してください。なお、電話での問い合わせや手続きはできません。

- ①履修登録をしたが、成績評価の記載がない科目
 - ②履修登録をしていなかったが、成績評価が記載されている科目
 - ③履修登録し、授業へ出席・受験したにもかかわらず、成績表に「*」印が表示されている場合
 - ④履修登録し、シラバスにある成績評価基準を満たしているが、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、確認を求めたい科目
- ※④の場合については成績の再考を求めるものではないので、十分に注意すること。

5 学修指導

学修指導として、専任教員から、本人への指導および保証人への連絡を行う場合があります。

6 卒業再試験について

生命科学部の4年次第8セメスタ以上（卒業当該学期のみ）において、卒業単位が不足する学生が対象となります。

再試験の受験資格、再試験の対象としない科目などについては、「生命科学部卒業再試験実施に関わる内規」に基づき実施されます。

生命科学部卒業再試験実施に関わる内規（抜粋）

（目的）

第1条 この内規は、不受験者および単位不足者の取り扱いに関する規程第2条に基づき、生命科学部学生の単位不足者に対する卒業再試験に関して必要な事項を定める。

（受験資格）

第2条 4年次生で、卒業を希望する者であり、卒業に必要な単位数に6単位以内の不足があり、かつ3科目以内である者とする。

（対象科目）

第3条 卒業再試験の対象となる科目は、次のすべてに該当する科目とする。

- （1）原則として卒業当該学期に履修登録を行っている科目であること
- （2）単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目であること

（対象除外科目）

第4条 次の科目は、卒業再試験対象科目から除外する。

- （1）演習、実習、実験、実技、ゼミナール関係科目
- （2）卒業研究、卒業論文
- （3）不正行為等により無効となった科目
- （4）通常の評価において「E」「*（評価不能）」と判定された科目
- （5）科目の性質上、担当教員と学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとする。

（再試験手続）

第5条 再試験は、卒業当該学期で発表される単位充足者発表時に、定められた時間内に面接を受けた上で所定の手続きを行うものとする。

- （1）再試験手続きを行わなかった場合は、自動的に受験する権利は消滅する。
- （2）受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができる。
- （3）他学部開講科目を受験する場合は、当該学部の卒業再試験の規定に従うものとする。
- （4）代理人での手続きは認めない。

（再試験受験料）

第6条 再試験受験料は次の通りとする。

1科目5,000円

（再試験の評価）

第7条 卒業再試験の成績評価は次の通りとする。

- （1）成績評価基準は、それぞれの科目において定期試験で実施した基準と同等とする。
- （2）再試験の結果、合格した者の成績評価の上限は「C」評価とする。

第2章 生命科学科

履修方法と学科教育課程表



生命科学科の教育研究上の目的

1. 人材の養成に関する目的

極限環境に生息する微生物から人間がもつ高度な脳に至るまで、生命現象には未解明の部分が多く残されています。バイオサイエンスの進歩は、“いのち”の謎を解き明かすだけでなく、豊かな人類社会の形成や地球環境の保全に貢献する技術を提供できることから、新たな産業の創成にも欠かせないものとなっています。生命科学科では、「先端サイエンスの幅広い知識と技術を修得し、地球社会の諸問題に対応でき、かつ広い分野で活躍できる人材を育成する」ことを目的にしています。

具体的には、将来の生命科学を探求する研究者・技術者、高度な生命科学の知識・技術や思考を生かせる職業に国内外で携わる人材、及び、次代を担う生徒達の教育に携わる教員を育成します。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

- 1) 生命現象を分子レベル、細胞レベル、個体レベル、さらには地球環境レベルで理解する幅広い知識を修得する。
- 2) “いのち”の不思議に迫るための生命科学の様々な技術を修得する。
- 3) 生命科学の未知の領域に挑戦する論理的かつ独創的な考え方ができる。
- 4) 地球生物社会全体と“いのち”に対する深い生命倫理観を醸成させる。
- 5) 国際的に活躍できるよう、異文化に対する理解や語学力を培う。

生命科学科長

生命科学科3つの教育方針

1. 卒業の認定及び学位授与に関する方針

生命科学科では、生命の総合的理解を通じて地球社会に貢献するという観点から、地球社会の諸問題に対応でき、広い分野で活躍できる人材を養成するという教育目標のもとに、次の基準を満たす学生に卒業を認定し、学位を授与します。

- 1) 生命科学に関する幅広い知識と高い生命倫理観・専門技術者倫理観を身につけている。
- 2) 生命科学の専門的知識と実験技術を駆使して、創造的な研究活動を行う能力を身につけている。
- 3) 様々な課題に対して自主的・主体的に取り組み、論理的な思考を通して解決への筋道を立てることができる。
- 4) プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力に優れ、他者と連携・協調することができる。
- 5) 社会の構成員として必要な教養を身につけ、社会貢献に対する意識とそれを実践するための能力を備えている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針

生命科学科では、学科の掲げる教育目標および「卒業の認定及び学位授与に関する方針」に求める学修成果の修得を実現するため、以下の方針でカリキュラム（教育課程）を編成します。

履修科目は、基盤教育科目と専門教育科目に大別されます。専門教育科目はさらに必修科目、選択必修科目、選択科目に分けられます。それぞれの科目の目的と履修学年について以下に記します。

- 1) (基盤教育科目について) 基盤教育科目では、本学の建学の精神に則り、自己の哲学や倫理観を養う科目と、語学科目をはじめグローバル社会に対応する能力を育む科目、社会の構成員として活躍するためのキャリア形成を支援する科目を設置する。
- 2) (初年次の必修科目について) 高校で学んだ生物や化学の知識をもとに、生命科学全般の基礎知識を構築する上で初年次に履修すべき必修科目を設置する。
- 3) (選択必修科目について) 選択必修科目は、「基礎科学」、「生命科学基盤」、「生命科学」に分かれる。1、2年次では、各分野の先端知識を学修する上で基盤となる「生命科学基盤」科目を設置する。3年次以降では、「バイオ分子科学分野」、「動物・人間科学分野」、「植物科学分野」、「微生物科学分野」の各分野の先端研究の情報や知識を学修することを目的とした、より専門性の高い「生命科学」科目を配置する。
- 4) (生命科学研究のための基礎的実験科目について) 生命科学研究を実施する上で必要となる基本実験手法を修得することを目的として、1年次から3年次にかけて「化学実験」、「生物学実験」、「生命科学実験Ⅰ」、「生命科学実験Ⅱ」を必修科目として配置しており、実験実習と課題への取り組みを通じて、自主的・主体的に問題解決する能力を養う。
- 5) (生命科学研究に従事して専門性を高める科目について) 3年次の後半から4年次にかけて研究室単位で開講する科目を配置する。「生命科学輪講Ⅰ～Ⅲ」では、ゼミナール形式の授業を通じて、各研究室での研究活動の遂行に必要な知識を修得するとともに、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養う。4年次では、3年次までの学修課程で身につけた生命科学の専門的知識と実験技術を駆使した活動に従事する。ここでは生命科学科の特徴であるバイオ分子科学、動物・人間科学、植物科学、微生物科学の各分野に関する専門知識と実験技術をもとにして、「卒業研究」に取り組み、「卒業論文」を作成することを通じて、創造的な研究活動を実践する能力を養う。

3. 入学者の受入れに関する方針

<学科が求める人材像>

生命科学科では、学士課程教育を行うにあたり、次のような学生を受け入れることとします。

- 1) 科学全般、特に生命科学に興味・関心をもつ学生。
- 2) 自らの考えをまとめ、他者にわかりやすく説明することができる学生。
- 3) 自ら設定した目標を達成するための強い意志をもつ学生。
- 4) 生物・健康・環境などに関する問題に関心を持ち、解決に向けた活動、研究を通して社会に貢献したいと考えている学生。
- 5) 積極的に新しい分野を開拓する意欲と創造力をもつ学生。

<入学までに取り組むべき事項>

生命科学の知識や技術、思考を活かして国内外で活躍できる人材、生命科学の発展に寄与する研究者や技術者を目指す者として、特に次の点について入学時までに意識的に取り組むことを求めます。

- 1) 高等学校で履修した科目（特に生物および化学）について教科書レベルの知識を十分に修得する。
- 2) 論説文などの論理的な文章を十分理解できるとともに、自らの考えを論理的に表現できるようになる。
- 3) 現代社会が直面する諸問題について関心を持ち、かつその背景も含めた基礎的知識を獲得する。

1 カリキュラム上の特徴

生命科学は地球上に存在するさまざまな生命現象を、分子、細胞、個体および環境レベルで探求する学問です。生命科学科では、必修科目、選択必修科目、選択科目というカテゴリーに分類された専門教育科目を一定単位数履修します。必修科目では、生命科学を学ぶ上で必要な基礎科目として、基礎化学、生物学、生化学、基礎分子生物学などを学びます。また、基礎的な実験手法、論理的思考および表現方法を習得するために、化学実験、生物学実験、生命科学実験を段階的に配置しています。4年次では配属された研究室で卒業研究に着手することで、主体的に研究活動に取り組む能力を養います。選択必修科目では、生命科学の科目を基礎科学・動物・植物・微生物の分野に分け、各分野を基礎から専門まで体系的に幅広く学び、さらに3年次以降は専門性の高い科目を配置しています。また、選択科目では必修科目や選択必修科目の内容を補完する生命科学周辺分野の科目を配置しています。これらの専門教育科目を履修することにより、幅広い視野をもって生命現象を探究することのできる人材を目指しています。

2 選択必修科目の各分野 内容と特徴

【基礎科学・生命科学科目】

すべての生命は多種多様かつ膨大な数の分子から構成された分子集合体です。生命の不思議を探究するためには、個々の分子の性質や働き、さらには分子同士の間で働く分子間相互作用の理解と測定手法の修得が必要になります。これらを元に、バイオセンサーや超分子システムや、ナノテクデバイスの開発などのための応用力を身につけます。

第1学年	第2学年	第3学年
物理Ⅰ（2） 無機化学（2） 物理Ⅱ（2） 生物統計学（2）	有機化学（2） 地球環境学（2） 物理化学（2） 生物有機化学（2） 分析化学（2） 危険物管理概論（2）	遺伝子工学（2） ライフサイエンス英語（2） ゲノムインフォマティクス（2） 生命科学ゼミナールⅡ（2） メディカルバイオテクノロジー（2） 放射線生物学（2）

※（ ）内は単位数です。

【生命科学基盤・生命科学科目】

動物・人間科学分野

動物のからだの発生過程とその生理機能は、複雑かつ緻密に制御されています。本分野では、遺伝子やタンパク質に支えられている、ヒトを含む動物のからだのしくみの持つ普遍性と多様性を探求します。あわせて、幹細胞や、脳神経系などに関する専門知識を修得し、生命倫理を育みつつ、胚培養や再生医学、創薬など生命科学の社会への応用に至る視点を養います。

第1学年	第2学年	第3学年
発生・再生生物学（2）	動物生理学（2） 細胞機能学（2）	脳科学（2） 神経生物学（2） 生殖生物学（2）

※（ ）内は単位数です。

植物科学分野

植物は大きな移動能力を持ちませんが、周囲の環境に応答し、独立栄養生物として私たちの生活を支えています。本分野では、このメカニズムを分子・遺伝子レベルで学びます。あわせて、生産性や環境耐性の高い植物の開発による食糧問題への貢献や、高機能成分を持つ植物の開発による医療・健康問題への貢献をめざして、必要となる知識や技術を身につけます。

第1学年	第2学年	第3学年
	植物科学(2) 植物分子栄養学(2)	植物生化学(2) 植物環境生理学(2)

※()内は単位数です。

微生物科学分野

地球上には高温、強アルカリ性などの極限環境を好む生物や、放射線、紫外線、化学薬剤などさまざまな環境ストレスに対応する生物が存在しています。本分野では、生命が備えている環境に適応するメカニズムを学びます。その中で、環境保全や医療診断技術、さらには創薬や食料資源確保などの分野に役立つ知識や分析技術を身につけます。

第1学年	第2学年	第3学年
基礎微生物学(2)	微生物利用学(2) 微生物生理学(2)	極限環境微生物学(2) 真核微生物学(2)

※()内は単位数です。

生命科学科 カリキュラムマップ

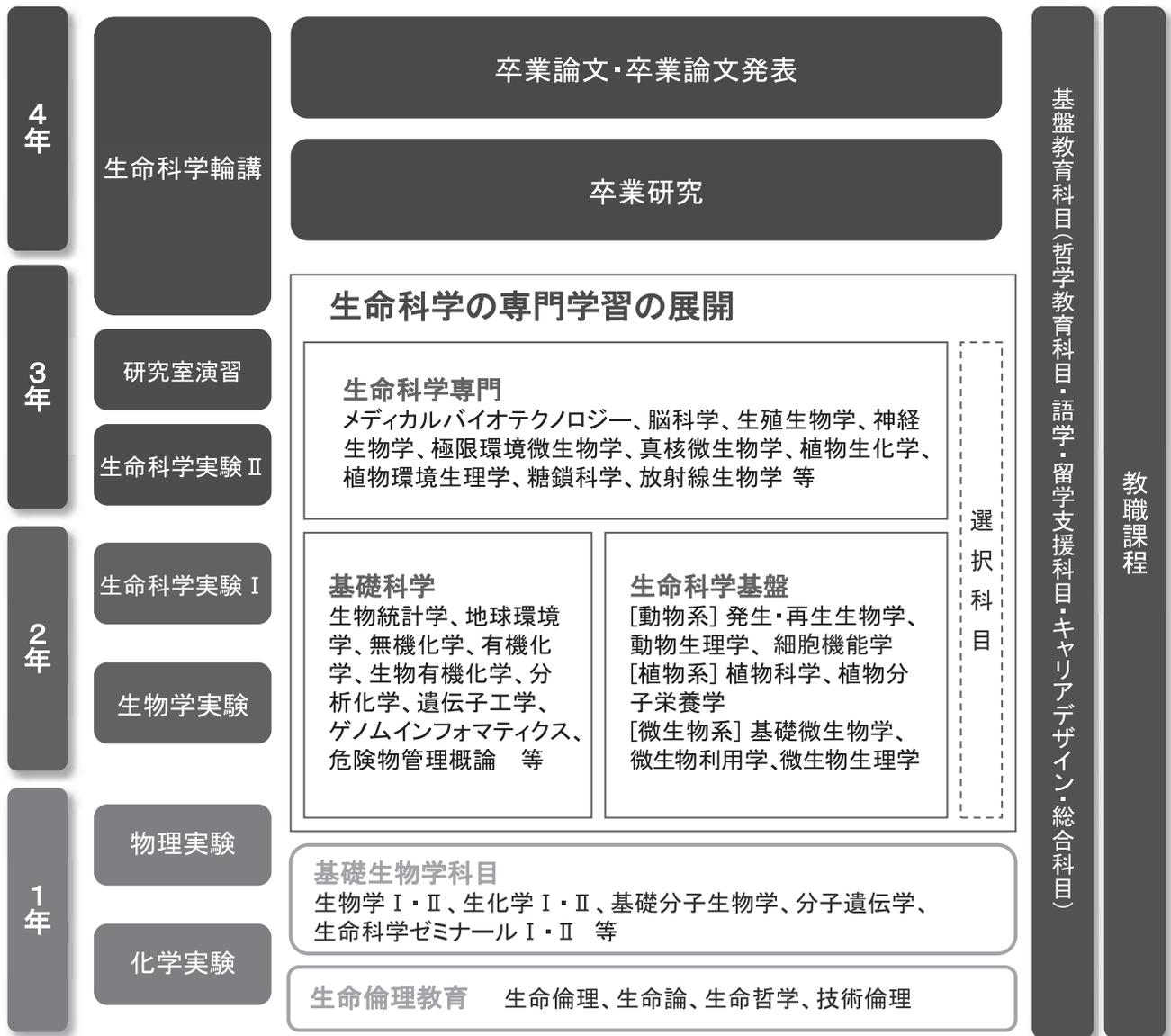
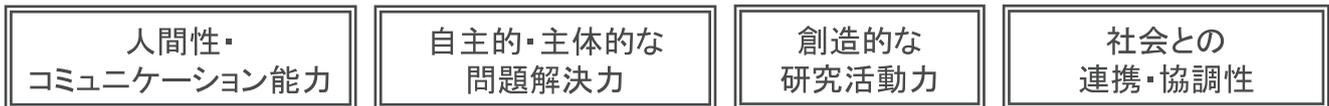
製薬・化学・食品・環境企業への就職

大学院進学

理科教員
(中学・高校)

公務員等

卒業後「バイオ関連企業の研究職・技術職、研究者をめざした大学院進学」



生命科学科に入学

学科キーワード 細胞・神経・脳／健康・再生医科学／バイオナノ分子／エネルギー・環境
 極限環境微生物／バイオテクノロジー／植物／ゲノム・遺伝子

生命科学科

3 生命科学科卒業要件

卒業に必要な単位数は、124単位以上で、次の表に掲げる所定の単位を修得しなければなりません。

生命科学部 生命科学科			
授業科目区分		卒業要件単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		4単位以上
	学問の基礎	人文科学	4単位以上
		社会科学	
		自然科学	
	国際人の形成	世界の伝統と文化	24単位以上
		グローバル社会の実際	
		語学	
	キャリア・市民形成		必修科目6単位
健康・スポーツ科学			
総合・学際			
専門教育科目	必修		50単位
	選択必修	基礎科学	8単位以上
		生命科学基盤	12単位以上
		生命科学	8単位以上
	選択		
合計		124単位以上	

4 年次別履修単位数制限

下記のとおり年次別に履修できる単位数が制限されています。

	年 間	卒業に必要な単位として認められる科目		卒業に必要な単位として認められない科目
		春学期	秋学期	
1年次	48	24	24	制限なし
2年次	48	24	24	
3年次	48	24	24	
4年次	48	24	24	

<卒業に必要な単位として認められる科目>

基盤教育科目、専門教育科目、開放領域（他学部他学科）

<卒業に必要な単位として認められない科目>

教職課程の各教科の指導法、教育の基礎的理解に関する科目

（理科指導法ⅠA、教職概論、教育心理学等（P77, 79参照））

自由科目（P32参照）

※既に単位を修得した科目は履修できません。

5 卒業論文着手条件

卒業研究・卒業論文に着手するのは4年次のはじめ（第7セメスタ）からです。着手するためには3年次（第6セメスタ）の終了時に下記の条件を満たしていなければなりません。

修得単位は、卒業に必要な科目として認められている科目のものとしします。

生命科学部 生命科学科			
授業科目区分		卒業論文着手要件単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		4単位以上
	学問の基礎	人文科学	4単位以上
		社会科学	
		自然科学	
	国際人の形成	世界の伝統と文化	24単位以上
		グローバル社会の実際	
		語学	
	キャリア・市民形成		必修科目 6単位
健康・スポーツ科学			
総合・学際			
専門教育科目	必修		36単位
	選択必修	基礎科学	8単位以上
		生命科学基盤	12単位以上
		生命科学	8単位以上
	選択		
合計		106単位以上	

上記の単位数に加え、TOEICのスコアが400点以上であること（ただし、それに満たない者は、生命科学科オリジナル英語ポイントの加算を可とする）。

以上の条件が一つでも足りなければ、卒業研究・卒業論文に着手することができず、卒業時期が延期となります。

6 履修上の注意

基盤教育科目

【基盤教育科目】

基盤教育科目では、合計24単位以上を修得しなければなりません。

【共通教養科目】

哲学・思想、学問の基礎では、それぞれ4単位以上を修得しなければなりません。

語学では、必修6単位を修得しなければなりません。

専門教育科目

【専門教育科目】

専門教育科目では、4年間で必修50単位、選択必修28単位を含め、合計90単位以上を修得しなければなりません。

【必修】

必修として、1年次9科目19単位、2年次4科目10単位、3年次3科目7単位、4年次5科目14単位の計50単位を修得しなければなりません。

【選択必修】

選択必修には、基礎科学と生命科学基盤、生命科学の区分があります。

基礎科学から8単位以上、生命科学基盤から12単位以上、生命科学から8単位以上合計28単位以上を修得しなければなりません。

開放領域について

制限単位数内ならば、生命科学部応用生物科学科、食環境科学部食環境科学科で開講している一部の科目を履修することができます(P42参照)。修得した単位は卒業単位「開放領域(他学部他学科)」に含みます。

なお、履修にあたっては、開講学部・学科の指示に従ってください。

自由科目

所属学科の教育課程表にない科目は、「自由科目」として履修することができます。修得した単位は卒業単位に含みません。申請用紙(板倉事務課窓口で配布)に記入の上、授業担当教員から許可印または署名を受け、板倉事務課窓口へ提出してください。

自由科目は履修単位数制限(24単位)に含まれません。

配当学年(セメスタ)は開講している学部・学科の配当学年(セメスタ)に従ってください。

卒業要件を上回って修得した単位について

各要件を上回って修得した単位は、卒業要件の単位として換算されます。

※124(卒業単位) - 114(要件単位) = 残り10単位は基盤教育科目・専門教育科目・開放領域(他学部他学科)のどの領域から修得しても換算されます。

2021年度以降入学生用

生命科学部生命科学科 教育課程表（科目一覧表）

※科目区分における（ ）内の数字は、その区分の最低必要単位数です。

卒業要件	科目群名	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
基盤教育科目 (24単位以上)	哲学・思想 (4単位以上)	選択必修	TYS101	井上円了と東洋大学	1～4	2	
		選択必修	PHT101	生命倫理	1～4	2	
		選択必修	PHT102	哲学入門	1～4	2	
		選択必修	PHT103	生命哲学	1～4	2	
		選択必修	PHT104	生命論	1～4	2	
	学問の基礎 (4単位以上)	人文科学	選択必修	PSY101	心理学	1～4	2
			選択必修	CUA101	文化人類学入門	1～4	2
			選択必修	HUG101	人文地理学入門	1～4	2
		社会科学	選択必修	ECO101	経済学入門	1～4	2
			選択必修	PSY102	スポーツ社会学	1～4	2
			選択必修	SOC101	ソーシャルサーベイ概論	1～4	2
			選択必修	POL101	政治学入門	1～4	2
			選択必修	FUL101	法学入門	1～4	2
		自然科学	選択必修	SOC102	社会学入門	1～4	2
			選択必修	BSC101	現代化学	1～4	2
			選択必修	SHS101	科学技術論	1～4	2
			選択必修	PHY101	現代物理	1～4	2
			選択必修	EVB101	生命科学史	1～4	2
			選択必修	BAB101	現代生物学	1～4	2
	国際人の形成	世界の伝統と文化	選択	MAT101	数学の世界	1～4	2
			選択	EAH101	食と健康	1～4	2
			選択	LIE101	欧米の文学と文化	1～4	2
		グローバル社会の実際	選択	IHR101	異文化と社会事情	1～4	2
			選択	EAH102	日本の食文化	1～4	2
			選択	IHR102	文化間コミュニケーション	1～4	2
			選択	IHR103	短期海外フィールドワーク	1～4	1
			選択	IHR104	英語ビジネス実務	1～4	2
			選択	IHR105	海外文化研修	1～4	2
			選択	IHR106	留学のすすめ	1～4	2
			選択	IHR107	異文化理解概論	1～4	2
			選択	IHR108	海外研修Ⅰ	1～4	2
			選択	IHR109	海外研修Ⅱ	1～4	2
選択			IHR110	海外実習Ⅰ	1～4	2	
選択			IHR111	海外実習Ⅱ	1～4	2	
選択			IHR112	短期海外研修Ⅰ	1～4	1	
選択			IHR113	短期海外研修Ⅱ	1～4	1	
選択			IHR114	短期海外研修Ⅲ	1～4	1	
選択			IHR115	短期海外研修Ⅳ	1～4	1	
選択	IHR116	短期海外実習Ⅰ	1～4	1			
選択	IHR117	短期海外実習Ⅱ	1～4	1			
選択	IHR118	短期海外実習Ⅲ	1～4	1			
選択	IHR119	短期海外実習Ⅳ	1～4	1			

卒業要件	科目群名		必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
基盤教育科目(24単位以上)	国際人の形成	語学	必修	ENG101	Integral English I	1	1
			必修	ENG102	Integral English II	1	1
			必修	ENG103	English Communication I	1	1
			必修	ENG104	English Communication II	1	1
			必修	ENG201	English Speech & Presentation	2	1
			必修	ENG202	English Reading & Writing	2	1
			選択	ENG105	Applied English I	1～4	1
			選択	ENG106	Applied English II	1～4	1
			選択	ENG107	TOEIC Foundation	1～4	1
			選択	CHI101	中国語 I	1～4	1
			選択	CHI102	中国語 II	1～4	1
			選択	KOR101	ハングル I	1～4	1
			選択	KOR102	ハングル II	1～4	1
			選択	FRA101	フランス語 I	1～4	1
			選択	FRA102	フランス語 II	1～4	1
			選択	SPA101	スペイン語 I	1～4	1
			選択	SPA102	スペイン語 II	1～4	1
			選択	ECD101	テクニカルライティング	1～4	2
			選択	ECD102	アカデミックライティング	1～4	2
			選択	ENG108	Business English Communication	1～4	2
			選択	ENG109	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	1～4	2
			選択	ENG110	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	1～4	2
			選択	ENG111	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	1～4	2
			選択	ENG112	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1～4	2
			選択	ENG113	Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1～4	2
			選択	ENG114	Pre-Study Abroad: Writing	1～4	1
			選択	JPN101	日本語 I	1	1
			選択	JPN201	日本語 II	2	1
			選択	JPN102	日本語と日本社会	1	1
			選択	JPN202	日本語と日本文化	2	1
			選択	JPN103	* Japanese for Beginners: Theory	1～4	2
			選択	JPN104	* Japanese for Beginners: Practice	1～4	2
			選択	JPN105	* Integrated Japanese I Theory	1～4	2
			選択	JPN106	* Integrated Japanese I Practice	1～4	2
選択	JPN107	* Integrated Japanese II Theory	1～4	2			
選択	JPN108	* Integrated Japanese II Practice	1～4	2			
選択	JPN109	* Integrated Japanese III Theory	1～4	2			
選択	JPN110	* Integrated Japanese III Practice	1～4	2			
選択	JPN111	* Japanese Reading I	1～4	1			
選択	JPN112	* Japanese Reading II	1～4	1			
選択	JPN113	* Japanese Reading III	1～4	1			
選択	JPN114	* Japanese Listening I	1～4	1			
選択	JPN115	* Japanese Listening II	1～4	1			
選択	JPN116	* Japanese Listening III	1～4	1			

※が付いている科目はすべて、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目です。

卒業要件	科目群名		必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
基盤教育科目 (24単位以上)	国際人の形成	語学	選択	JPN117	* Japanese Writing I	1～4	1	
			選択	JPN118	* Japanese Writing II	1～4	1	
			選択	JPN119	* Japanese Writing III	1～4	1	
			選択	JPN120	* Project Work I	1～4	1	
			選択	JPN121	* Project Work II	1～4	1	
			選択	JPN122	* Project Work III	1～4	1	
			選択	JPN123	* Japanese Culture and Society A	1～4	2	
			選択	JPN124	* Japanese Culture and Society B	1～4	2	
			選択	JPN125	* Introduction to Japanology A	1～4	2	
			選択	JPN126	* Introduction to Japanology B	1～4	2	
	キャリア・市民形成			選択	PUL101	日本国憲法	1～4	2
				選択	ARS101	産官学連携概論	1～4	2
				選択	HUI101	情報処理基礎	1～4	2
				選択	HUI102	情報処理演習	1～4	2
				選択	CIV101	キャリアデザインⅠ	1	2
				選択	CIV201	キャリアデザインⅡ	2	2
	健康・スポーツ科学			選択	HSS101	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1～4	1
				選択	HSS102	スポーツ健康科学実技Ⅱ	1～4	1
				選択	HSS103	スポーツ健康科学実技Ⅲ	1～4	1
				選択	HSS104	スポーツ健康科学実技Ⅳ	1～4	1
				選択	HSS105	スポーツと健康Ⅰ	1～4	2
				選択	HSS106	スポーツと健康Ⅱ	1～4	2
	総合・学際			選択	ITS101	全学総合 A	1～4	2
				選択	ITS102	全学総合 B	1～4	2
				選択	ITS103	全学総合 C	1～4	2
				選択	ITS104	全学総合 D	1～4	2
				選択	ITS105	全学総合 E	1～4	2
				選択	ITS106	全学総合 F	1～4	2
				選択	ITS107	全学総合 G	1～4	2
				選択	ITS108	全学総合 H	1～4	2
				選択	ITS109	全学総合 I	1～4	2
				選択	ITS110	全学総合 J	1～4	2
				選択	ITS111	全学総合 K	1～4	2
				選択	ITS112	全学総合 L	1～4	2
				選択	ITS113	全学総合 M	1～4	2
	専門教育科目 (90単位以上)	必修科目 (50単位)			BSC102	基礎化学	1	2
				PMB101	生物学Ⅰ	1	2	
				SEM101	生命科学ゼミナールⅠ	1	2	
				BIC101	生命実験化学	1	2	
				BSC103	化学実験	1	3	
				MOB101	基礎分子生物学	1	2	
				FUB101	生化学Ⅰ	1	2	
				PMB102	生物学Ⅱ	1	2	
				ORC101	基礎有機化学	1	2	

※が付いている科目はすべて、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目です。

卒業要件	科目群名	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
専門教育科目(90単位以上)	必修科目 (50 単位)	FUB201	生化学Ⅱ	2	2	
		BAB201	生物学実験	2	3	
		MOB201	分子遺伝学	2	2	
		BLS201	生命科学実験Ⅰ	2	3	
		SEE301	生命科学特別講義	3	2	
		MOB301	生命科学実験Ⅱ	3	3	
		SEM301	生命科学輪講Ⅰ	3	2	
		THE401	生命科学輪講Ⅱ	4	2	
		THE402	卒業研究Ⅰ	4	4	
		THE403	生命科学輪講Ⅲ	4	2	
		THE404	卒業研究Ⅱ	4	4	
		THE405	卒業論文	4	2	
	選択必修	基礎科学 (8 単位以上)	PHY102	物理Ⅰ	1	2
			INC101	無機化学	1	2
			PHY103	物理Ⅱ	1	2
			BLS101	生物統計学	1	2
			ORC201	有機化学	2	2
			ESR201	地球環境学	2	2
			BPC201	物理化学	2	2
			ORC202	生物有機化学	2	2
			ANC201	分析化学	2	2
			EER201	危険物管理概論	2	2
			AMC301	遺伝子工学	3	2
			SEE302	ライフサイエンス英語	3	2
		GEB301	ゲノムインフォマティクス	3	2	
		SEM302	生命科学ゼミナールⅡ	3	2	
		生命科学基盤 (12 単位以上)	BAB102	基礎微生物学	1	2
			DEB101	発生・再生生物学	1	2
			APA201	動物生理学	2	2
			PMB201	植物科学	2	2
			APM201	微生物利用学	2	2
			CEB201	細胞機能学	2	2
			PMB202	植物分子栄養学	2	2
APM202			微生物生理学	2	2	
生命科学 (8 単位以上)		BRC301	メディカルバイオテクノロジー	3	2	
		BSB301	脳科学	3	2	
	PMB301	植物生化学	3	2		
	APM301	極限環境微生物学	3	2		
	NGN301	神経生物学	3	2		
	DEB301	生殖生物学	3	2		
	BRC302	糖鎖科学	3	2		
	PMB302	植物環境生理学	3	2		
	APM302	真核微生物学	3	2		
	BIO301	放射線生物学	3	2		

卒業要件	科目群名	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
専門教育科目 (90単位以上)	選択	ALG101	微分積分学	1	2
		ECE101	生態学	1	2
		BAM101	人体の構造と機能	1	2
		BAA101	解析学	1	2
		SEE101	技術倫理	1	2
		SEP101	地学	1	2
		BIS101	生物資源科学	1	2
		PHY104	物理実験	1	3
		ALS101	学外実習	1	2
		ALG201	線形数学	2	2
		BIP201	薬物生体作用学	2	2
		FOS201	フードエンジニアリング	2	2
		SOC201	公害防止総論	2	2
		GLG201	地学概論 (実験を含む)	2	2
		BEB201	医用工学概論	2	2
		CEB202	細胞工学	2	2
		FOS202	食品化学	2	2
		HPH201	公衆衛生学	2	2
		CIV202	実務研修 I	2	1
		CIV203	実務研修 II	2	2
		ANC301	機器分析 I	3	2
		GPH301	病態生理学	3	2
		FOS301	食品安全学	3	2
		IAS301	血液・免疫学概論	3	2
		EER301	水圏環境科学	3	2
		SEM303	研究室演習	3	3
		ANC302	機器分析 II	3	2
		BAM301	病態組織学	3	2
		GPH302	医生理学	3	2
		FUL301	知的財産法	3	2
		FOS302	HACCP 論	3	2

科目群名	科目 ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
他学部他学科科目	PNS201	植物代謝化学	2	2
	APM203	環境微生物学	2	2
	STP201	古生物学	2	2
	SGB301	動物バイオテクノロジー	3	2
	BRC303	酵素工学	3	2
	EHP301	生態毒性学	3	2
	ASS201	食品流通学	2	2
	HLS201	食品物性論	2	2
	THI201	食品品質管理学	2	2
	HLS202	美味しさの科学	2	2
	HLS203	味とニオイの科学	2	2
	CPH301	食品添加物概論	3	2
	HLS301	スパイスの科学	3	2
	ECO301	マーケティング入門	3	2
HLS302	ソムリエ講座	3	2	
教職科目	ESS301	理科指導法 I A	3	2
	ESS302	理科指導法 I B	3	2
	ESS303	理科指導法 II A	3	2
	ESS304	理科指導法 II B	3	2
	EDU101	教育学概論	1	2
	EDU102	教職概論	1	2
	EDU103	教育の制度と経営	1	2
	EDP201	教育心理学	2	2
	EDU104	特別支援教育基礎論	1	2
	EDU105	教育課程論	1	2
	EDU201	道徳教育論	2	2
	EDU301	総合的な学習の時間の指導法	3	2
	EDU202	特別活動の理論と方法	2	2
	EDU203	教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	2	2
	EDU204	生徒指導論（進路指導論を含む）	2	2
	EDP202	教育相談	2	2
	ESS401	教育実習 I（事前・事後指導を含む）	4	5
	ESS402	教育実習 II（事前・事後指導を含む）	4	3
EDU401	教職実践演習（中・高）	4	2	

2021年度以降入学生用

生命科学部生命科学科 教育課程表

		1		2		3		4		
		授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	
基盤教育科目 (24)	哲学・思想 (4)	井上円了と東洋大学 生命論	2 2	生命倫理	2	哲学入門	2	生命哲学	2	
	学問の 基礎 (4)	人文科学	心理学	2	文化人類学入門	2	人文地理学入門	2		
		社会科学	経済学入門 法学入門	2 2	スポーツ社会学 社会学入門	2 2	ソーシャルサーベイ概論	2	政治学入門	2
		自然科学	現代化学 現代生物学	2 2	科学技術論 数学の世界	2 2	現代物理 食と健康	2 2	生命科学史	2
	世界の伝統 と文化	世界の伝統 と文化	欧米の文学と文化	2	異文化と社会事情	2	日本の食文化	2		
		グローバル 社会の実際	文化間コミュニケーション	2	短期海外フィールドワーク	1	英語ビジネス実務	2	海外文化研修	2
			留学のすすめ	2	異文化理解概論	2				
			海外研修 I	2	海外研修 II	2	海外実習 I	2	海外実習 II	2
	短期海外研修 I		1	短期海外研修 II	1	短期海外研修 III	1	短期海外研修 IV	1	
	国際人の 形成	必修 (6)	短期海外実習 I	1	短期海外実習 II	1	短期海外実習 III	1	短期海外実習 IV	1
			(外国語科目)							
			Integral English I	1	English Speech & Presentation	1				
			Integral English II	1	English Reading & Writing	1				
		語 選 択	English Communication I	1						
			English Communication II	1						
			Applied English I	1	Applied English II	1	TOEIC Foundation	1*1		
			中国語 I	1	中国語 II	1	ハンゲル I	1	ハンゲル II	1
			フランス語 I	1	フランス語 II	1	スペイン語 I	1	スペイン語 II	1
			テクニカルライティング	2	アカデミックライティング	2	Business English Communication	2		
	学 選 択	(留学支援科目 (LEAP))								
		IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking		2	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing		2			
		IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking		2*2	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing		2*2			
		Pre-Study Abroad: Listening/Speaking		2*2	Pre-Study Abroad: Writing		1*1			
		(留学生対象科目)								
日本語 I		1	日本語 II	1						
日本語と日本社会		1	日本語と日本文化	1						
(交換留学生のための初修日本語・日本文化科目)										
Japanese for Beginners: Theory			2*2	Japanese for Beginners: Practice		2*2				
Integrated Japanese I Theory			2*2	Integrated Japanese I Practice		2*2				
Integrated Japanese II Theory			2*2	Integrated Japanese II Practice		2*2				
Integrated Japanese III Theory			2*2	Integrated Japanese III Practice		2*2				
Japanese Reading I	1*1	Japanese Reading II	1*1	Japanese Reading III	1*1					
Japanese Listening I	1*1	Japanese Listening II	1*1	Japanese Listening III	1*1					
Japanese Writing I	1*1	Japanese Writing II	1*1	Japanese Writing III	1*1					
Project Work I	1*1	Project Work II	1*1	Project Work III	1*1					
Japanese Culture and Society A	2	Japanese Culture and Society B	2	Introduction to Japanology A	2	Introduction to Japanology B	2			
キャリア・ 市民形成	日本国憲法	2	産官学連携概論	2						
	情報処理基礎	2	情報処理演習	2						
	キャリアデザイン I	2	キャリアデザイン II	2						
健康・スポーツ科学	スポーツ健康科学実技 I	1	スポーツ健康科学実技 II	1	スポーツ健康科学実技 III	1	スポーツ健康科学実技 IV	1		
	スポーツと健康 I	2	スポーツと健康 II	2						
総合・学際	《特設テーマ：東洋大学フィロソフィ～自校について学ぶ～》									
	全学総合 A	2	全学総合 B	2	全学総合 C	2				
	《特設テーマ：数理・データサイエンス・AI》									
	全学総合 D	2	全学総合 E	2						
	全学総合 F	2	全学総合 G	2	全学総合 H	2	全学総合 I	2		
	全学総合 J	2	全学総合 K	2	全学総合 L	2	全学総合 M	2		

※ *印は春学期・秋学期ともに開講している科目です。

		1		2		3		4	
		授業科目	春秋	授業科目	春秋	授業科目	春秋	授業科目	春秋
専 門 教 育 科 目 (90)	必 修 (50)	基礎化学	2	生化学Ⅱ	2	生命科学特別講義	2	生命科学輪講Ⅱ	2*2
		生物学Ⅰ	2	生物学実験	3	生命科学実験Ⅱ	3	卒業研究Ⅰ	4*4
		生命科学ゼミナールⅠ	2	分子遺伝学	2	生命科学輪講Ⅰ	2	生命科学輪講Ⅲ	2*2
		生命実験化学	2	生命科学実験Ⅰ	3			卒業研究Ⅱ	4*4
		化学実験	3					卒業論文	2*2
		基礎分子生物学	2						
		生化学Ⅰ	2						
		生物学Ⅱ	2						
		基礎有機化学	2						
選 択 必 修 (90)	基礎科学 (8)	物理Ⅰ	2	有機化学	2	遺伝子工学	2		
		無機化学	2	地球環境学	2	ライフサイエンス英語	2		
		物理Ⅱ	2	物理化学	2	ゲノムインフォマティクス	2		
		生物統計学	2	生物有機化学	2	生命科学ゼミナールⅡ	2		
	生命科学 基盤 (12)	基礎微生物学	2	動物生理学	2				
		発生・再生生物学	2	植物科学	2				
				微生物利用学	2				
				細胞機能学	2				
				植物分子栄養学	2				
				微生物生理学	2				
生命科学 (8)					メディカルバイオテクノロジー	2			
					脳科学	2			
					植物生化学	2			
					極限環境微生物学	2			
					神経生物学	2			
					生殖生物学	2			
					糖鎖科学	2			
					植物環境生理学	2			
					真核微生物学	2			
					放射線生物学	2			
選 択	微積分学	2	線形数学	2	機器分析Ⅰ	2			
	生態学	2	薬物生体作用学	2	病態生理学	2			
	人体の構造と機能	2	フードエンジニアリング	2	食品安全学	2			
	解析学	2	公害防止総論	2	血液・免疫学概論	2			
	技術倫理	2	地学概論(実験を含む)	2	水圏環境科学	2			
	地学	2	医用工学概論	2	研究室演習	3			
	生物資源科学	2	細胞工学	2	機器分析Ⅱ	2			
	物理実験	3	食品化学	2	病態組織学	2			
	学外実習	2*2	公衆衛生学	2	医生理学	2			
			実務研修Ⅰ	1	知的財産法	2			
			実務研修Ⅱ	2	HACCP論	2			

※ *印は春学期・秋学期ともに開講している科目です。

※ 開講学期は変更となる場合があります。

※ 斜体になっている科目は「食品衛生管理者および食品衛生監視員（任用資格）」を得るために必要な科目です。
詳細は P88 ページを参照してください。

生命科学科の開放領域 ……生命科学部応用生物科学科・食環境科学部食環境科学科の専門教育科目（実験・演習・卒業論文を除く）で生命科学科の学生が履修可能な科目
 （他学部他学科）

2021年度以降入学生

1	2	3	4
授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
生命科学部 応用生物科学科 専門教育科目			
	植物代謝化学 環境微生物学 古生物学	動物バイオテクノロジー 酵素工学 生態毒性学	
食環境科学部 食環境科学科 専門教育科目			
	食品流通学 食品物性論 食品品質管理学 美味しさの科学 味とニオイの科学	食品添加物概論 スパイスの科学 マーケティング入門 ソムリエ講座	



第3章 応用生物科学科

履修方法と学科教育課程表



応用生物科学科の教育研究上の目的

1. 人材の養成に関する目的

応用生物科学科は、学部の教育理念である「生命の総合的理解の上に立って、地球社会の発展に貢献する創造的思考能力と倫理観を併せ持った人材を育成する」に沿って、生物が持っている優れた機能を活用して、環境、健康、資源、食糧などの社会の諸問題を解決し、人類の持続的発展を目指す国際的な人材の育成を目的としています。また、地域産業にも目を向け、地域社会の活性化にも貢献するベンチャー的行動力を持った人材教育を目指しています。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

- 1) 社会人としての一般教養、社会的マナーを身につける。
- 2) 生命科学とその応用に関する幅広い専門知識を修得する。
- 3) 専門知識を社会に還元するための実践的能力、技術を修得する。
- 4) 産業界の活性化に貢献できる知識と行動力を身につける。
- 5) 国際的に活躍できるように、コミュニケーション能力や語学力を培う。
- 6) 物事を多面的かつ論理的に考察し、その内容を的確に情報発信できる能力を身につける。

3. その他の教育研究上の目的

何事にも好奇心を持ち、チャレンジ精神旺盛で、かつ客観的な視野と判断力をもとにした問題解決に積極的な行動力を持つ人材育成を目指すとともに、人にも生き物にも優しい心の涵養を図っています。

応用生物科学科長

応用生物科学科3つの教育方針

1. 卒業の認定及び学位授与に関する方針

応用生物科学科の学位授与の要件は次のとおりです。

- 1) 幅広い教養をもち、生命科学とその応用に関する深い専門知識を有する。
- 2) 生命科学の知識や技術を活かし、環境、健康、資源、食糧などの人類社会の諸問題を解決するための課題探求能力および問題解決能力を有する。
- 3) 物事を多面的かつ論理的に考察し、その内容を的確に情報発信し、国内外の他者とのコミュニケーションを通じて、より良い社会の構築に貢献する能力を有する。
- 4) 人類社会の諸問題に関心をもち、これら問題の解決のため生命科学の知識や技術を活かす意欲がある。
- 5) 東洋大学の建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」に基づいて考えて行動できる。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針

応用生物科学科では、「生物が持っている優れた機能を活用」する能力を身に付け、環境、健康、資源、食糧などの社会問題の解決に貢献できる人材を育成するために、以下のような教育を実施します。

- 1) 本学の建学の精神「独立自活」、「知徳兼全」を涵養する基盤教育科目を配置し、グローバル人材を育成するための哲学教育、語学教育、キャリア教育を行う。
- 2) 生命科学に関する基礎知識を学修する科目群を1,2年次の必修科目に配置するほか、自身の方向性・将来性を模索するための手がかりとして「応用生物科学序論」を開講する。
- 3) 1年次後半以降、系統的に専門性を養うための「応用動物コース」、「植物資源利用コース」、「微生物利用コース」、「生命環境コース」の4つのコースを配置する。
- 4) 化学実験、バイオテクノロジー実験、生物学実験、生化学実験、分子生物学実験などの実験科目、および、学外実習、微生物学体験実習、野外フィールド実習などの実習科目により、生命科学とバイオテクノロジーに関する基礎的な知識や技術を修得する。
- 5) 条件を満たした学生は、3年次後半に「研究室演習」を履修でき、早期に卒業研究に取り組むことが可能となる。
- 6) 3年次後半以降、原著論文を読むためのスキルを修得し、物事を多面的かつ論理的に考察する能力、および、その内容を的確に情報発信できるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養うための「応用生物科学輪講Ⅰ～Ⅲ」を配置する。
- 7) 4年次では、1年次から3年次までの学修内容を基にして、卒業研究を実施、卒業論文の執筆を行うことで、発想力、論理的思考力、問題解決力、表現力など総合的能力の向上をはかり、生物の機能を活用できる専門性を養う。

3. 入学者の受入れに関する方針

<学科が求める人物像>

応用生物科学科では、学士課程教育を行うにあたり、次のような能力を備えていると判断される者を受け入れることとします。

- 1) 高等学校で履修する理科（化学・生物）、外国語、数学などについて、高等学校卒業相当の知識を有している。
- 2) 自分が学習した内容を的確に表現し、伝えることができる。
- 3) 環境、健康、資源、食糧などの諸問題に関心を持ち、これら問題の解決のため社会に貢献する意欲がある。
- 4) 対話などにより他者との相互理解に努め、自ら学び行動する態度を有する。

<入学までに習得すべき学習等への取り組み>

応用生物科学科に入学する者として、次のように学習等に取り組んでもらうことを求めます。

- 1) 高等学校で履修する科目、特に理科（化学・生物）、外国語（英語）、数学について、教科書レベルの知識を十分に修得しておくこと。
- 2) 目的意識を持って課題等に取り組み、自らの考えを的確に表現できるようになること。
- 3) 環境、健康、資源、食糧などの諸問題について知識を深めること。

1 カリキュラム上の特徴

応用生物科学科では、必修、選択必修、選択という3つのカテゴリーに分類された専門教育科目を一定単位数修得します。必修科目では、専門教育科目を学修する上で必要な基礎科目、基礎生物学、基礎化学、生化学、分子生物学などを学び、研究室に配属された後は卒業研究に着手します。選択必修科目では、3年次春学期まで各セメスタに学生実習を配置し、生命科学に関する基礎的な実験実習を行います。また、学生が興味を持ったバイオテクノロジー分野について専門的かつ系統的に修得することができるように、専門共通科目に加えて、動物を対象とする「応用動物コース」、植物を対象とする「植物資源利用コース」、微生物を対象とする「微生物利用コース」、地球環境の維持・修復を対象とする「生命環境コース」の4つのコースを設けています。選択科目では、必修科目、選択必修科目の内容を補完する科目を配置しています。1年次には、必修科目を中心に生命科学に関する基礎的な知識を幅広く学びます。1年次秋学期からコースを選択し、将来の目標に向かって基礎から応用まで段階的に学修します。コースは3年次から変更することも可能で、履修状況に応じたフレキシブルな学修体制を取っています。

2 コース内容と特徴

【応用動物コース】

世界人口の爆発的な増加や、特に先進国で見られる超高齢化社会への移行などに伴い、健康・医療問題がこれまで以上に大きな注目を集めています。「応用動物コース」では、動物個体や動物細胞の生理や構造などに関する基礎知識を修得し、さらにそれらを応用するバイオテクノロジー技術を修得することによって、創薬、再生医療、予防・健康医療など多くのライフイノベーション分野に対応できる思考力、応用力と高い倫理観を醸成します。

第1学年	第2学年	第3学年
動物生理学（2）	細胞生物学（2） 細胞工学（2）	病態生理学（2） 動物バイオテクノロジー（2）

※（ ）内は、単位数です。

【植物資源利用コース】

食糧問題、環境破壊などの社会問題に対し、我々が持続可能な社会を構築するためには、植物の有効活用が必要です。本コースでは、植物生理学、植物代謝化学、植物機能利用学、植物遺伝育種学、植物バイオテクノロジーの5科目を配置し、植物の優れた機能に関する基礎知識を学び、それを応用するバイオテクノロジー技術を修得します。これにより、環境ストレス耐性植物や多収量作物の開発といった農業・園芸分野で活躍できる人材育成を目的としています。

第1学年	第2学年	第3学年
植物生理学（2）	植物代謝化学（2） 植物機能利用学（2）	植物遺伝育種学（2） 植物バイオテクノロジー（2）

※（ ）内は、単位数です。

【微生物利用コース】

微生物は食品や医薬品の生産などの分野で利用され、再生可能資源、健康食品、環境分野などにおいても微生物の潜在的機能の利用が期待されています。「微生物利用コース」は、微生物の特徴や利用に関する微生物学、微生物利用学、環境微生物学、酵素工学に加え、極限環境に生息する微生物の機能や応用に関する極限環境微生物学を学ぶことにより、微生物に関する幅広い知識を身につけ、食品、医療、健康、資源などの分野に活かせる人材の育成を目的としています。

第1学年	第2学年	第3学年
微生物学（2）	微生物利用学（2） 環境微生物学（2）	極限環境微生物学（2） 酵素工学（2）

※（ ）内は、単位数です。

【生命環境コース】

人為改変による環境変化は、自然環境が持つ回復作用の速度を大きく超えて、世界各地で環境問題やヒト健康問題が発生しています。「生命環境コース」では、環境計測技術、環境生態系影響、環境浄化技術およびヒト健康影響を専門に学びます。また環境倫理学、生態毒性学、環境分子生物学、生命環境科学および生態制御学という必修科目を通じて、地球環境およびヒト健康の維持のために必要な先端的な学問研究を追求します。

第1学年	第2学年	第3学年
環境倫理学（2）	生命環境科学（2） 環境健康科学（2）	生態毒性学（2） 生態管理学（2）

※（ ）内は、単位数です。

応用生物科学科 カリキュラムマップ



3 応用生物科学科卒業要件

卒業に必要な単位数は、124単位以上で、次の表に掲げる所定の単位を修得しなければなりません。

生命科学部 応用生物科学科			
授業科目区分		卒業要件単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		4単位以上
	学問の基礎	人文科学	4単位以上
		社会科学	
		自然科学	
	国際人の形成	世界の伝統と文化	24単位以上
		グローバル社会の実際	
		語学	
	キャリア・市民形成		必修科目6単位
健康・スポーツ科学			
総合・学際			
専門教育科目	必修		51単位
	コース選択必修		90単位以上
	選択		8単位以上
合計		124単位以上	

4 年次別履修単位数制限

下記のとおり年次別に履修できる単位数が制限されています。

	年 間	卒業に必要な単位として認められる科目		卒業に必要な単位として認められない科目
		春学期	秋学期	
1年次	48	24	24	制限なし
2年次	48	24	24	
3年次	48	24	24	
4年次	48	24	24	

<卒業に必要な単位として認められる科目>

基盤教育科目，専門教育科目，開放領域（他学部他学科）

<卒業に必要な単位として認められない科目>

教職課程の各教科の指導法，教育の基礎的理解に関する科目

（理科指導法IA，教職概論，教育心理学等（P78, 79参照））

自由科目（P52参照）

※既に単位を修得した科目は履修できません。

5 卒業論文着手条件

卒業研究・卒業論文に着手するのは4年次のはじめ（第7セメスタ）からです。着手するためには3年次（第6セメスタ）の終了時に下記の条件を満たしていなければなりません。

修得単位は、卒業に必要な科目として認められている科目のものとしします。

生命科学部 応用生物科学科			
授業科目区分		卒業論文着手条件単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		4単位以上
	学問の基礎	人文科学	4単位以上
		社会科学	
		自然科学	
	国際人の形成	世界の伝統と文化	24単位以上
		グローバル社会の実際	
		語学	
	キャリア・市民形成		必修科目6単位
健康・スポーツ科学			
総合・学際			
専門教育科目	必修		37単位
	コース選択必修		74単位以上
	選択		8単位以上
合計		110単位以上	

以上の条件が一つでも足りなければ、卒業研究・卒業論文に着手することができず、卒業時期が延期となります。

6 履修上の注意

基盤教育科目

【基盤教育科目】

【共通教養科目】

基盤教育科目では、合計24単位以上を修得しなければなりません。

哲学・思想、学問の基礎では、それぞれ4単位以上を修得しなければなりません。

語学では、必修6単位を修得しなければなりません。

専門教育科目

【専門教育科目】

専門教育科目では、4年間で必修51単位、選択必修8単位を含め、合計90単位以上を修得しなければなりません。

【必修】

必修では、1年次7科目16単位、2年次6科目14単位、3年次3科目7単位、4年次5科目14単位の計51単位を修得しなければなりません。

【選択必修】

選択必修には、4つのコース必修（応用動物、植物資源利用、微生物利用、生命環境）があります。応用動物、植物資源利用、微生物利用、生命環境の4つのコースの中から1コースを選択して8単位を修得しなければなりません。コース選択の希望調査は1年次第1セメスタ開講の応用生物科学序論で行い、1年次秋学期からコース分けされます。

なお、コース変更については、3年次第5セメスタ初めに1回のみ認めます。変更を希望する場合は、3年次第5セメスタ時の履修登録期間に変更手続きを行ってください。

※自分の選択したコースで卒業要件の基準を上回って修得した単位は、選択科目の卒業単位として換算します。

なお、選択しなかったコースの単位も、選択の卒業単位として換算されます。

開放領域について

制限単位数内ならば、生命科学部生命科学科、食環境科学部食環境科学科で開講している一部の科目を履修することができます(P62参照)。修得した単位は卒業単位「開放領域(他学部他学科)」に含みます。

なお、履修にあたっては、開講学部・学科の指示に従ってください。

自由科目

所属学科の教育課程表にない科目は、「自由科目」として履修することができます。修得した単位は卒業単位に含みません。申請用紙(板倉事務課窓口で配布)に記入の上、授業担当教員から許可印または署名を受け、板倉事務課窓口へ提出してください。

自由科目は履修単位数制限(24単位)に含まれません。

配当学年(セメスタ)は開講している学部・学科の配当学年(セメスタ)に従ってください。

卒業要件を上回って修得した単位について

各要件を上回って修得した単位は、卒業要件の単位として換算されます。

※124(卒業単位) - 114(要件単位) = 残り10単位は基盤教育科目・専門教育科目・開放領域(他学部他学科)のどの領域から修得しても換算されます。

2021年度以降入学生用

生命科学部応用生物科学科 教育課程表 (科目一覧表)

※科目区分における () 内の数字は、その区分の最低必要単位数です。

卒業要件	科目群名	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
基盤教育科目 (24単位数以上)	哲学・思想 (4単位数以上)	選択必修	TYS101	井上円了と東洋大学	1～4	2	
		選択必修	PHT101	生命倫理	1～4	2	
		選択必修	PHT102	哲学入門	1～4	2	
		選択必修	PHT103	生命哲学	1～4	2	
		選択必修	PHT104	生命論	1～4	2	
	学問の基礎 (4単位数以上)	人文科学	選択必修	PSY101	心理学	1～4	2
			選択必修	CUA101	文化人類学入門	1～4	2
			選択必修	HUG101	人文地理学入門	1～4	2
		社会科学	選択必修	ECO101	経済学入門	1～4	2
			選択必修	PSY102	スポーツ社会学	1～4	2
			選択必修	SOC101	ソーシャルサーベイ概論	1～4	2
			選択必修	POL101	政治学入門	1～4	2
			選択必修	FUL101	法学入門	1～4	2
		自然科学	選択必修	SOC102	社会学入門	1～4	2
			選択必修	BSC101	現代化学	1～4	2
			選択必修	SHS101	科学技術論	1～4	2
			選択必修	PHY101	現代物理	1～4	2
			選択必修	EVB101	生命科学史	1～4	2
			選択必修	BAB101	現代生物学	1～4	2
	国際人の形成	世界の伝統と文化	選択	MAT101	数学の世界	1～4	2
			選択	EAH101	食と健康	1～4	2
			選択	LIE101	欧米の文学と文化	1～4	2
		グローバル社会の実際	選択	IHR101	異文化と社会事情	1～4	2
			選択	EAH102	日本の食文化	1～4	2
			選択	IHR102	文化間コミュニケーション	1～4	2
			選択	IHR103	短期海外フィールドワーク	1～4	1
			選択	IHR104	英語ビジネス実務	1～4	2
			選択	IHR105	海外文化研修	1～4	2
			選択	IHR106	留学のすすめ	1～4	2
選択			IHR107	異文化理解概論	1～4	2	
選択			IHR108	海外研修Ⅰ	1～4	2	
選択			IHR109	海外研修Ⅱ	1～4	2	
選択			IHR110	海外実習Ⅰ	1～4	2	
選択			IHR111	海外実習Ⅱ	1～4	2	
選択			IHR112	短期海外研修Ⅰ	1～4	1	
選択			IHR113	短期海外研修Ⅱ	1～4	1	
選択			IHR114	短期海外研修Ⅲ	1～4	1	
選択			IHR115	短期海外研修Ⅳ	1～4	1	
選択	IHR116	短期海外実習Ⅰ	1～4	1			
選択	IHR117	短期海外実習Ⅱ	1～4	1			
選択	IHR118	短期海外実習Ⅲ	1～4	1			
選択	IHR119	短期海外実習Ⅳ	1～4	1			

卒業要件	科目群名	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
基盤教育科目(24単位以上)	国際人の形成	必修	ENG101	Integral English I	1	1
		必修	ENG102	Integral English II	1	1
		必修	ENG103	English Communication I	1	1
		必修	ENG104	English Communication II	1	1
		必修	ENG201	English Speech & Presentation	2	1
		必修	ENG202	English Reading & Writing	2	1
		選択	ENG105	Applied English I	1～4	1
		選択	ENG106	Applied English II	1～4	1
		選択	ENG107	TOEIC Foundation	1～4	1
		選択	CHI101	中国語 I	1～4	1
		選択	CHI102	中国語 II	1～4	1
		選択	KOR101	ハングル I	1～4	1
		選択	KOR102	ハングル II	1～4	1
		選択	FRA101	フランス語 I	1～4	1
		選択	FRA102	フランス語 II	1～4	1
		選択	SPA101	スペイン語 I	1～4	1
		選択	SPA102	スペイン語 II	1～4	1
		選択	ECD101	テクニカルライティング	1～4	2
		選択	ECD102	アカデミックライティング	1～4	2
		選択	ENG108	Business English Communication	1～4	2
		選択	ENG109	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	1～4	2
		選択	ENG110	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	1～4	2
		選択	ENG111	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	1～4	2
		選択	ENG112	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1～4	2
		選択	ENG113	Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1～4	2
		選択	ENG114	Pre-Study Abroad: Writing	1～4	1
		選択	JPN101	日本語 I	1	1
		選択	JPN201	日本語 II	2	1
		選択	JPN102	日本語と日本社会	1	1
		選択	JPN202	日本語と日本文化	2	1
		選択	JPN103	*Japanese for Beginners: Theory	1～4	2
		選択	JPN104	*Japanese for Beginners: Practice	1～4	2
		選択	JPN105	*Integrated Japanese I Theory	1～4	2
		選択	JPN106	*Integrated Japanese I Practice	1～4	2
		選択	JPN107	*Integrated Japanese II Theory	1～4	2
		選択	JPN108	*Integrated Japanese II Practice	1～4	2
選択	JPN109	*Integrated Japanese III Theory	1～4	2		
選択	JPN110	*Integrated Japanese III Practice	1～4	2		
選択	JPN111	*Japanese Reading I	1～4	1		
選択	JPN112	*Japanese Reading II	1～4	1		
選択	JPN113	*Japanese Reading III	1～4	1		
選択	JPN114	*Japanese Listening I	1～4	1		
選択	JPN115	*Japanese Listening II	1～4	1		
選択	JPN116	*Japanese Listening III	1～4	1		

※が付いている科目はすべて、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目です。

卒業要件	科目群名		必修 / 選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
基盤教育科目 (24単位以上)	国際人の形成	語学	選択	JPN117	* Japanese Writing I	1～4	1
			選択	JPN118	* Japanese Writing II	1～4	1
			選択	JPN119	* Japanese Writing III	1～4	1
			選択	JPN120	* Project Work I	1～4	1
			選択	JPN121	* Project Work II	1～4	1
			選択	JPN122	* Project Work III	1～4	1
			選択	JPN123	* Japanese Culture and Society A	1～4	2
			選択	JPN124	* Japanese Culture and Society B	1～4	2
			選択	JPN125	* Introduction to Japanology A	1～4	2
			選択	JPN126	* Introduction to Japanology B	1～4	2
	キャリア・市民形成		選択	PUL101	日本国憲法	1～4	2
			選択	ARS101	産官学連携概論	1～4	2
			選択	HUI101	情報処理基礎	1～4	2
			選択	HUI102	情報処理演習	1～4	2
			選択	CIV101	キャリアデザインⅠ	1	2
			選択	CIV201	キャリアデザインⅡ	2	2
	健康・スポーツ科学		選択	HSS101	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1～4	1
			選択	HSS102	スポーツ健康科学実技Ⅱ	1～4	1
			選択	HSS103	スポーツ健康科学実技Ⅲ	1～4	1
			選択	HSS104	スポーツ健康科学実技Ⅳ	1～4	1
			選択	HSS105	スポーツと健康Ⅰ	1～4	2
			選択	HSS106	スポーツと健康Ⅱ	1～4	2
	総合・学際		選択	ITS101	全学総合 A	1～4	2
			選択	ITS102	全学総合 B	1～4	2
			選択	ITS103	全学総合 C	1～4	2
			選択	ITS104	全学総合 D	1～4	2
			選択	ITS105	全学総合 E	1～4	2
			選択	ITS106	全学総合 F	1～4	2
			選択	ITS107	全学総合 G	1～4	2
			選択	ITS108	全学総合 H	1～4	2
			選択	ITS109	全学総合 I	1～4	2
			選択	ITS110	全学総合 J	1～4	2
			選択	ITS111	全学総合 K	1～4	2
選択			ITS112	全学総合 L	1～4	2	
選択			ITS113	全学総合 M	1～4	2	
専門教育科目 (90単位以上)	必修科目 (51単位)		BAB102	基礎生物学	1	2	
			BSC102	基礎化学	1	2	
			BLS101	応用生物科学序論	1	2	
			BSC103	化学実験	1	3	
			ANC101	分析化学	1	2	
			ORC101	有機化学	1	2	
			BRC101	バイオテクノロジー実験	1	3	
			STB201	生化学Ⅰ	2	2	
			MOB201	分子生物学Ⅰ	2	2	

※が付いている科目はすべて、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目です。

卒業要件	科目群名	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
専門教育科目(90単位以上)	必修科目 (51 単位)	BAB201	生物学実験	2	3	
		FUB201	生化学Ⅱ	2	2	
		MOB202	分子生物学Ⅱ	2	2	
		FUB202	生化学実験	2	3	
		BLS301	応用生物科学特別講義	3	2	
		MOB301	分子生物学実験	3	3	
		THE301	応用生物科学輪講Ⅰ	3	2	
		THE401	応用生物科学輪講Ⅱ	4	2	
		THE402	応用生物科学輪講Ⅲ	4	2	
		THE403	卒業研究Ⅰ	4	4	
		THE404	卒業研究Ⅱ	4	4	
		THE405	卒業論文	4	2	
	コース選択必修(8単位以上)	応用動物	APA101	動物生理学	1	2
			CEB201	細胞生物学	2	2
			CEB202	細胞工学	2	2
			GPH301	病態生理学	3	2
			SGB301	動物バイオテクノロジー	3	2
		植物資源利用	PMB101	植物生理学	1	2
			HOS201	植物機能利用学	2	2
			PNS201	植物代謝化学	2	2
			GCD301	植物遺伝育種学	3	2
			SGB302	植物バイオテクノロジー	3	2
		微生物利用	APM101	微生物学	1	2
			APM201	微生物利用学	2	2
			APM202	環境微生物学	2	2
			APM301	極限環境微生物学	3	2
			BRC301	酵素工学	3	2
		生命環境	PHT105	環境倫理学	1	2
			ECE201	生命環境科学	2	2
			EIA201	環境健康科学	2	2
			EHP301	生態毒性学	3	2
			EES301	生態管理学	3	2
		選択	ECE101	生態学	1	2
PHY102			物理Ⅰ	1	2	
ALG101			微分積分学	1	2	
BAM101			人体の構造と機能	1	2	
BAB103	基礎生物学演習		1	1		
BSC104	基礎化学演習		1	1		
PHY103	物理実験		1	3		
BLS102	生物統計学		1	2		
BIS101	生物資源科学		1	2		
INC101	無機化学		1	2		
SEE101	技術倫理		1	2		
PHY104	物理Ⅱ		1	2		

卒業要件	科目群名	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
専門教育科目(90単位以上)	選択	BAA101	解析学	1	2
		DEB101	発生・再生生物学	1	2
		SEP101	地学	1	2
		ALS101	学外実習	1	2
		APM203	微生物学体験実習	2	1
		BIP201	薬物生体作用学	2	2
		EER201	環境修復学	2	2
		STP201	古生物学	2	2
		ALG201	線形数学	2	2
		SOC201	公害防止総論	2	2
		PMB201	植物科学	2	2
		ESR201	地球環境学	2	2
		CIV202	実務研修Ⅰ	2	1
		CIV203	実務研修Ⅱ	2	2
		SEM201	野外フィールド実習	2	1
		HPH201	公衆衛生学	2	2
		GLG201	地学概論(実験を含む)	2	2
		EER202	危険物管理概論	2	2
		PMB202	植物分子栄養学	2	2
		BPC201	物理化学	2	2
		APM204	微生物生理学	2	2
		FOS201	食品化学	2	2
		ANC301	機器分析	3	2
		AMC301	先端遺伝子工学	3	2
		DEV301	バイオエネルギー	3	2
		SEE301	ライフサイエンス英語	3	2
		EER301	水圏環境科学	3	2
		FOS301	食品安全学	3	2
		BSB301	脳科学	3	2
		DEB301	生殖生物学	3	2
		BIO301	放射線生物学	3	2
		BRC303	メディカルバイオテクノロジー	3	2
		SEM301	研究室演習	3	3
		FUL301	知的財産法	3	2
		ECE301	アストロバイオロジー	3	2
		FOS302	HACCP論	3	2
NGN301	神経生物学	3	2		
BRC302	糖鎖科学	3	2		

科目群名	科目 ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
他学部他学科科目	BAB104	基礎微生物学	1	2
	ORC201	生物有機化学	2	2
	AMC302	遺伝子工学	3	2
	GEB301	ゲノムインフォマティクス	3	2
	GPH302	医生理学	3	2
	PMB301	植物生化学	3	2
	PMB302	植物環境生理学	3	2
	APM302	真核微生物学	3	2
	BAM301	病態組織学	3	2
	EAH103	フードコーディネート論	1	2
	ASS201	食品流通学	2	2
	FOS202	フードエンジニアリング	2	2
	HLS201	食品物性論	2	2
	EAH201	食育論	2	2
	HLS202	味とニオイの科学	2	2
	CPH301	食品添加物概論	3	2
	ECO301	マーケティング入門	3	2
	HLS301	スパイスの科学	3	2
	FOS303	食品加工貯蔵学	3	2
	HLS302	ソムリエ講座	3	2
教職科目	ESS301	理科指導法 I A	3	2
	ESS302	理科指導法 I B	3	2
	ESS303	理科指導法 II A	3	2
	ESS304	理科指導法 II B	3	2
	EDU101	教育学概論	1	2
	EDU102	教職概論	1	2
	EDU103	教育の制度と経営	1	2
	EDP201	教育心理学	2	2
	EDU104	特別支援教育基礎論	1	2
	EDU105	教育課程論	1	2
	EDU201	道徳教育論	2	2
	EDU301	総合的な学習の時間の指導法	3	2
	EDU202	特別活動の理論と方法	2	2
	EDU203	教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	2	2
	EDU204	生徒指導論（進路指導論を含む）	2	2
	EDP202	教育相談	2	2
	ESS401	教育実習 I（事前・事後指導を含む）	4	5
	ESS402	教育実習 II（事前・事後指導を含む）	4	3
	EDU401	教職実践演習（中・高）	4	2

2021年度以降入学生用

生命科学部応用生物科学科 教育課程表

		1		2		3		4			
		授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋		
哲学・思想 (4)		井上円了と東洋大学 生命論	2 2	生命倫理	2	哲学入門	2	生命哲学	2		
	学問の基礎 (4)	人文科学	心理学	2	文化人類学入門	2	人文地理学入門	2			
		社会科学	経済学入門 法学入門	2 2	スポーツ社会学 社会学入門	2 2	ソーシャルサーベイ概論	2	政治学入門	2	
		自然科学	現代化学 現代生物学	2 2	科学技術論 数学の世界	2 2	現代物理 食と健康	2 2	生命科学史	2	
国際人の形成	世界の伝統と文化	欧米の文学と文化	2	異文化と社会事情	2	日本の食文化	2				
	グローバル社会の実際	文化間コミュニケーション 留学のすすめ	2 2	短期海外フィールドワーク 異文化理解概論	1 2	英語ビジネス実務	2	海外文化研修	2		
		海外研修 I 短期海外研修 I	2 1	海外研修 II 短期海外研修 II	2 1	海外実習 I 短期海外研修 III	2 1	海外実習 II 短期海外研修 IV	2 1		
		短期海外実習 I	1	短期海外実習 II	1	短期海外実習 III	1	短期海外実習 IV	1		
		必修 (6)	(外国語科目) Integral English I Integral English II English Communication I English Communication II	1 1 1 1	English Speech & Presentation English Reading & Writing	1 1					
	語学選	Applied English I 中国語 I フランス語 I テクニカルライティング アカデミックライティング	1 1 1 2 2	Applied English II 中国語 II フランス語 II Business English Communication	1 1 1 2	TOEIC Foundation	1*1	ハングル I スペイン語 I	1 1	ハングル II スペイン語 II	1 1
		(留学支援科目 (LEAP))									
		IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking Pre-Study Abroad: Listening/Speaking									
		IELTS for Study Abroad I Reading/Writing IELTS for Study Abroad II Reading/Writing Pre-Study Abroad: Writing									
		(留学生対象科目)									
日本語 I 日本語と日本社会		1 1	日本語 II 日本語と日本文化	1 1							
択	(交換留学生のための初修日本語・日本文化科目)										
キャリア・市民形成	日本国憲法 情報処理基礎	2 2	産官学連携概論 情報処理演習	2 2							
	キャリアデザイン I	2	キャリアデザイン II	2							
	健康・スポーツ科学	スポーツ健康科学実技 I スポーツと健康 I	1 2	スポーツ健康科学実技 II スポーツと健康 II	1 2	スポーツ健康科学実技 III	1	スポーツ健康科学実技 IV	1		
総合・学際	《特設テーマ：東洋大学フィロソフィ～自校について学ぶ～》										
	全学総合 A	2	全学総合 B	2	全学総合 C	2					
	《特設テーマ：数理・データサイエンス・AI》										
	全学総合 D	2	全学総合 E	2							
	全学総合 F	2	全学総合 G	2	全学総合 H	2	全学総合 I	2	全学総合 J	2	
		全学総合 K	2	全学総合 L	2	全学総合 M	2				

※ *印は春学期・秋学期ともに開講している科目です。

		1		2		3		4		
		授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	
専 門 教 育 科 目 (90)	必修 (51)	基礎生物学	2	生化学 I	2	応用生物科学特別講義	2	応用生物科学輪講 II	2*2	
		基礎化学	2	分子生物学 I	2	分子生物学実験	3	応用生物科学輪講 III	2*2	
		応用生物科学序論	2	生物学実験	3	応用生物科学輪講 I	2	卒業研究 I	4*4	
		化学実験	3	生化学 II	2			卒業研究 II	4*4	
		分析化学	2	分子生物学 II	2			卒業論文	2*2	
		有機化学	2	生化学実験	3					
		バイオテクノロジー実験	3							
	コース 選択 必修 (8)	応用動物	動物生理学	2	細胞生物学 細胞工学	2 2	病態生理学 動物バイオテクノロジー	2 2		
		植物資源利用	植物生理学	2	植物機能利用学 植物代謝化学	2 2	植物遺伝育種学 植物バイオテクノロジー	2 2		
		微生物利用	微生物学	2	微生物利用学 環境微生物学	2 2	極限環境微生物学 酵素工学	2 2		
		生命環境	環境倫理学	2	生命環境科学 環境健康科学	2 2	生態毒性学 生態管理学	2 2		
	選 択	生態学	2	微生物学体験実習	1	機器分析	2			
		物理 I	2	薬物生体作用学	2	先端遺伝子工学	2			
微分積分学		2	環境修復学	2	バイオエネルギー	2				
人体の構造と機能		2	古生物学	2	ライフサイエンス英語	2				
基礎生物学演習		1	線形数学	2	水圏環境科学	2				
基礎化学演習		1	公害防止総論	2	食品安全学	2				
物理実験		3	植物科学	2	脳科学	2				
生物統計学		2	地球環境学	2	生殖生物学	2				
生物資源科学		2	実務研修 I	1	放射線生物学	2				
無機化学		2	実務研修 II	2	メディカルバイオテクノロジー	2				
技術倫理		2	野外フィールド実習	1	研究室演習	3				
物理 II		2	公衆衛生学	2	知的財産法	2				
解析学		2	地学概論 (実験を含む)	2	アストロバイオロジー	2				
発生・再生生物学		2	危険物管理概論	2	HACCP 論	2				
地学		2	植物分子栄養学	2	神経生物学	2				
学外実習		2*2	物理化学	2	糖鎖科学	2				
		微生物生理学	2							
		食品化学	2							

※ *印は春学期・秋学期ともに開講している科目です。

※ 開講学期は変更となる場合があります。

※ 斜体になっている科目は「食品衛生管理者および食品衛生監視員（任用資格）」を得るために必要な科目です。
詳細は P89 ページを参照してください。

応用生物科学科の開放領域 ……生命科学部生命科学科・食環境科学部食環境科学科の専門教育科目
(他学部他学科) (実験・演習・卒業論文を除く) で応用生物科学科の学生が履修可能な科目

2021年度以降入学生

な科目

1	2	3	4
授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
生命科学部 生命科学科 専門教育科目			
基礎微生物学	生物有機化学	遺伝子工学 ゲノムインフォマティクス 医生理学 植物生化学 植物環境生理学 真核微生物学 病態組織学	
食環境科学部 食環境科学科 専門教育科目			
フードコーディネーター論	食品流通学 フードエンジニアリング 食品物性論 食育論 味とニオイの科学	食品添加物概論 マーケティング入門 スパイスの科学 食品加工貯蔵学 ソムリエ講座	

II 生命科学部 学生支援プログラム

1. 英語単位認定制度
2. Toyo Global Leader (TGL) プログラム
3. 英語特別教育科目 LEAPプログラム
4. ランゲージセンター課外英語講座
5. 大学院開講科目履修制度
6. 成績優秀者表彰制度
7. 聴講制度（群馬県内大学単位互換制度）
8. 実務研修
9. 学外実習
10. 東京外国語大学の単位互換制度

1. 英語単位認定制度

1. 対象学生

生命科学部に在籍する学生

2. 制度の趣旨

必修科目への出席が免除されることによって空いた時間を、さらに上級のレベルを目指した英語学習に充当してもらうことを目的とした制度です。

3. 単位認定基準

取得資格に応じて、以下の基準により認定する。

資格の種類	英検	国連英検	TOEIC (IP含む)	TOEFL (PBT・ITP)	TOEFL (iBT)	IELTS	認定科目と単位数
認定基準	準1級以上	A級以上	990～645	677～520	120～68	9～5.5	下記科目のうち4科目4単位
	2級	B級	644～495	519～467	67～51	5～4.5	下記科目のうち2科目2単位

* 認定対象科目：English Communication I（1単位）、

English Communication II（1単位）、

English Speech & Presentation（1単位）、

English Reading & Writing（1単位）、

Applied English I（1単位）、Applied English II（1単位）

4. 資格の取得期日について

申請日より遡って2年以内に認定された資格を対象とします。

5. 申請時提出書類

- 生命科学部・食環境科学部 英語単位認定申請書（Webフォームより提出）
- 各検定試験のスコアコピー、スコアレポート、スコア認定書、合格証書、試験結果通知など
提出方法の詳細は申請期間までにToyoNet-ACEで案内します。

6. 申請期間

各学期の履修登録期間中

*なお、申請した科目については履修登録を行わないでください。

（年間履修制限単位には含まれません）。

7. 成績評価

評価は各学部教授会の承認を経て「T」（Transfer）とします。

8. 学期を超えた申請について

単位認定は申請学期に開講している科目が対象です。よって、ひとつの資格による単位認定が複数学期にわたる場合、学期ごとに申請を行わなければなりません。

9. 追加申請について

- ①本制度により単位認定を受けたのち、新たに上級資格の認定を受け、追加の申請を希望する場合には、追加の単位認定を申請することができます。その場合は、既に単位認定を受けている科目（単位）に加え、2科目2単位を申請することになります。
- ②同一の認定基準において認定する単位は一度限りとし、他の資格を取得しても追加申請はできません。（つまり、英検2級によって2単位を認定された場合、TOEICの644点を取得しても、新たに2単位の認定を申請することはできません。）

2. Toyo Global Leader (TGL) プログラム

TGLプログラムは、東洋大学生が国内外で活躍できるグローバル人材となるために、「異文化環境における英語運用表現能力」、「多文化共生社会における価値創造能力」、「異文化環境における課題解決能力」の3要素を強化することを目的としています。これらの目的に沿って、「Gold」「Silver」「Bronze」のランクごとに7つの認定要件を定め、各要件を満たした学生をToyo Global Leaderとして認定します。

1. 認定要件

下記のとおり、ランクごとに認定要件が設定されています。

認定要件	TGL Gold	TGL Silver	TGL Bronze
(1) 英語能力 (TOEIC® L&R)	730点	590点	—
(2) 外国語による授業科目の修得	40単位	20単位	10単位
(3) 外国語による卒業論文等執筆	必須	—	—
(4) 海外留学・インターンシップ	必須	どちらかを必須	—
(5) 海外アクティビティ	必須		—
(6) 東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ	必須 (運営)	必須 (参加)	必須 (参加)
(7) Toyo Global (TG) ポイント	30ポイント	20ポイント	10ポイント

2. 認定要件について

(1) 英語能力

英語資格試験のスコアにより認定します。TOEIC® L&R (公開テストおよびIPテスト) のほか、TOEFL iBT®, TOEFL ITP®, IELTS™のスコアをTOEIC® L&Rスコアに換算します。なお、スコアは在学中に受験したものに限りま

(2) 外国語による授業科目の修得

基盤教育の語学科目や開講言語が外国語の授業科目および英語特別教育科目の修得単位数を加算していきます。また、海外留学や海外インターンシップ等により認定された科目の単位数も加算できます。

さらに、卒業論文等を外国語で執筆した場合、卒業論文の科目の単位数も加算します。

(3) 外国語による卒業論文等執筆

下記 a. b. c. のいずれかに当てはまる論文等を執筆し、a. b. については、指導教員の確認書と共に提出することで認定します。

a. 言語を問わず執筆した卒業論文等の英文要旨もしくは英語で執筆した卒業論文等

b. 授業内で各言語(日本語を除く)により作成し提出された論文等

※外国人留学生については日本語(ネイティブ言語以外)での執筆も認める。

c. 国際教育センターで設定したテーマに基づいた英語の課題論文

(4) 海外留学・インターンシップ

海外での活動が連続で3週間(現地入国から出国までが21日間)以上^(*)の留学やインターンシップを対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

※海外での活動が4週間(28日間)以上であれば、[(5)海外アクティビティ]の要件と合わせて達成となります。

(5) 海外アクティビティ

上記(4)に該当しない、海外での活動が連続で1週間(現地入国から出国までが7日間)以上の留学、研修、インターンシップ、ボランティア等の活動を対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(6) 東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ

本学で実施する「東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ」への参加(または運営チームとしての参加)により認められます。

(7) Toyo Global (TG) ポイント

国内外の国際交流活動(海外留学、インターンシップ、ボランティア、国際シンポジウム等)および課外語学講座等への参加がポイントの対象となります。ポイントは各活動期間に応じて付与します。

【TGLプログラムの仕組み】

一度の取り組みで複数の認定要件に当てはまる場合があります。

<例>

東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプに参加した。

認定要件	結 果
(6) 東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ	⇒ 認定 (参加)
(7) Toyo Global (TG) ポイント	⇒ 1ポイント付与 (半日のプログラム) 2ポイント付与 (1日のプログラム)

<例>

交換留学で1年間海外渡航 (TOEFL ITP®550点を保有)。

留学先で英語による専門科目5科目を修得、東洋大学で5科目×2単位=10単位が認定された。

また、留学中1週間のボランティア活動に従事し、「短期海外実習 I」(1単位)が認定された。

認定要件	結 果
(1) 英語能力	⇒ 認定 (TOEIC®L&R730点に換算)
(2) 外国語による授業科目の修得	⇒ 11単位加算
(4) 海外留学・インターンシップ	⇒ 要件クリア
(5) 海外アクティビティ	⇒ 要件クリア
(7) Toyo Global (TG) ポイント	⇒ 35ポイント付与

プログラムの詳細は、ToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コース内、「東洋グローバルリーダー (TGL) プログラム」を確認してください。



https://www.toyo.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577

【TGLプログラム問い合わせ先】

国際部〔国際教育センター〕(白山キャンパス 8号館1階)

TEL : 03-3945-8536

E-mail : ml-tgl@toyo.jp

3. 英語特別教育科目 LEAPプログラム

LEAP (Learning English for Academic Purposes) プログラムは将来海外留学を目指す学生や、英語力を高めたいと希望する学生を対象とした学術英語プログラムです。留学に必要なIELTS™のスコアアップに加えて、大学レベルの授業を英語で受けるのに対応できるだけの学習スキルの習得も目指します。LEAPの授業は英語で行われるため、内容を理解し、課題などをこなしていくために基礎的な英語力が必要となります。修得した単位は卒業単位として認められます。

LEAP IELTS I は、IELTS I Listening/Speaking と IELTS I Reading/Writing の2つの科目に分かれています。春学期にListening/Speaking、秋学期にReading/Writing科目を開講します。

Listening/Speaking (週1日2コマ連続・2単位) …ListeningとSpeakingに特化した科目
Reading/Writing (週1日2コマ連続・2単位) …ReadingとWritingに特化した科目

IELTS™4.5以上またはそれに相当する英語試験のスコアを取得している場合はIELTS II、IELTS™5.0以上またはそれに相当する英語試験のスコアを取得している場合はPSA科目の履修が可能です。IELTS II、PSA科目は白山キャンパスで開講されます。開講時間は白山の時間割ですので、注意してください。

IELTS II は、IELTS II Listening/Speaking と IELTS II Reading/Writing の2つの科目に分かれています。

Listening/Speaking (週2回・2単位) …ListeningとSpeakingに特化した科目
Reading/Writing (週2回・2単位) …ReadingとWritingに特化した科目

PSA は次の2科目から成ります。

Pre-Study Abroad : Listening/Speaking (PSA L/S)
…留学してからの受講スキルを学習 (週2回・2単位)

Pre-Study Abroad : Writing (PSA W)
…英語で論文を書くための基礎を学習 (週1回・1単位)

<申込・お問い合わせ>

プログラムの詳細はToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コース内、「語学学習 LEAP・ランゲージセンター・課外講座」を確認してください(春学期履修の案内は前年11月頃、秋学期履修の案内は5～6月頃配信予定)。

LEAPプログラムについての問い合わせ先
LEAPオフィス(白山キャンパス8号館2階)
Email: mlleapoffice@toyo.jp TEL: 03-3945-7341



4. 大学院開講科目履修制度

生命科学部では、生命科学研究科との6年間一貫教育を推進しており、生命科学部学生に生命科学研究科で実施している学術レベルの高度な科目を勉学する機会を与えることを目的として、4年生が大学院開講科目を履修できる「大学院開講科目履修制度」を導入しています。

本制度の概要は次のとおりですので、希望者は下記の事項を熟読し、必要な手続きを行ってください。

1) 制度の概要

- (1) 本制度は、生命科学部4年生が本学大学院生命科学研究科開講科目を履修できる制度です。
- (2) 本制度により修得した単位は、本学大学院生命科学研究科博士前期課程に入学時に、所定の手続きをとることにより、大学院の単位として認定されます。
※“T”（トランスファー）として認定されます。
- (3) 本制度を利用できるのは、以下の項目を満たす者とします。
 - (ア) 本学部4年次に在学中であり、卒業研究を行っていること。
 - (イ) 本学部卒業後、本学大学院生命科学研究科博士前期課程に入学する予定であること。
 - (ウ) 卒業研究担当教員の推薦があること。
 - (エ) 履修を希望する大学院開講科目担当教員の履修許可を得ていること。
- (4) 本制度で履修できる科目は、当該年度に博士前期課程で開講されている講義科目です。選択必修科目は対象外となります。
- (5) 本制度により履修する科目は、本学部の自由科目として取扱います。従って、卒業単位数に含めることはできません。また、本制度により履修する科目は、年間履修単位数に含まれます。
- (6) 本制度により履修できる上限単位数は、**第4年次在学中に合計10単位まで**とします。
- (7) 本制度により修得した成績評価は、学部の成績原簿・成績表・成績証明書に記載されます。
- (8) 本制度は卒業単位数に含まれない科目履修のため、履修取消は一切受け付けません。

2) 申込手続き

履修登録期間内に「大学院開講科目履修制度」申込フォーム（web）より申請してください。申請方法の詳細は別途 ToyoNet-ACE 等でお知らせします。

5. 成績優秀者表彰制度

生命科学部では優秀な成績を修めた学生を表彰する制度があります。下記の基準を満たす各学科・各学年の上位10名程度を「成績優秀者」として選出し、翌年度4月のオリエンテーション時（4年生のみ卒業証書授与式時）に表彰します。
(成績優秀者選出基準)

- 1年次一年間（当該年度）40単位以上修得
- 2年次一年間（当該年度）38単位以上修得
- 3年次一通算110単位以上修得（通算GPAの上位者）
- 4年次一通算124単位以上修得（通算GPAの上位者）

※GPA制度を適用し、当該年度のGPA2.5以上を考慮します。

※同順位の場合は「S」及び「A」評価の単位数合計を優先し、同数の場合は「S」評価の単位数を優先します。

6. 聴講制度（群馬県内大学単位互換制度）

群馬県内大学単位互換協定に基づき、下記の大学の授業科目（各大学が指定する科目）を特別聴講生として聴講し、本学の単位として認定する制度です。

この制度を利用して下記の大学における聴講を希望する学生は、板倉事務課に申し出て必要な手続きを行ってください。なお、聴講可能な科目等に関する資料および手続きに必要な書類は板倉事務課にありますので、問い合わせてください。詳細は科目登録の時期に掲示で告知します。

開講大学名および所在地

群馬県立女子大学	佐波郡玉村町上之手1395-1
関東学園大学	太田市藤阿久町200番地
上武大学	伊勢崎市戸谷塚町634-1
共愛学園前橋国際大学	前橋市小屋原町1154-4
放送大学（群馬学習センター）	前橋市若宮町1-13-2
群馬大学	前橋市荒牧町4-2

7. 実務研修 I・II

概要は次の通りですので、希望者は下記の事項を熟読し、必要な手続きを行ってください。

1. 実務研修の概要

企業等の製造所・研究室、公的試験研究機関での実習を通して、講義と実社会との関連を理解し、大学での授業では接することのできない産業界の現状、現場における技術体験を通して、社会における物事の考え方を習得することを目的とします。研修期間は夏季休暇期間中となり、研修後にはレポート提出及び報告会を行います。

2. ガイダンスについて

実務研修については、春学期にガイダンスを実施しますので、履修希望者は必ず出席してください。詳細は中央掲示板に掲示しますので、各自で必ず確認してください。

3. 履修方法

実務研修の単位数は実習の期間に応じて異なります（下記の表を参照）。

実務研修の単位は、その学期で履修できる上限単位数に含まれます（卒業に必要な単位として認められている単位のみ）。実務研修 I・II は 2 年次以上が履修可能です。担当教員に相談のうえ、履修科目の登録を行ってください。

履修希望者は、各学年とも秋学期に必ず履修登録をしてください（別途「授業時間割表」を参照してください）。

科目名	実習期間	単位数
実務研修 I	1 週間程度	1
実務研修 II	2 週間以上	2

※詳細はガイダンスで確認してください。

8. 学外実習

概要は次の通りですので、希望者は下記の事項を熟読し、必要な手続きを行ってください。

1. 学外実習の概要

学外実習は大学間の単位互換制度に基づいて行われている生物を対象とした公開臨海実習の参加により、単位を認定するものです。実習を通して本学の授業では経験できない生態系やその中に生息する生物について学び、生命現象へのより広い理解と知識を得ることを目的とします。実習後、報告会で実習内容を発表します。

2. ガイダンス等について

- (1) 学外実習については、春学期にガイダンスを実施しますので、履修希望者は必ず出席してください。詳細は中央掲示板に掲示しますので、各自で必ず確認してください。
- (2) 学外実習について、他大学の公開臨海実習に関する実施要項等は随時中央掲示板に掲示します。各自で必ず確認をし、板倉事務課窓口で申請手続きをしてください。

3. 学外実習の履修方法

学外実習の単位数は2単位です。学外実習の単位は、その学期で履修できる上限単位数に含まれます（卒業に必要な単位として認められている単位のみ）。

- (1) 学外実習は1年次秋学期以降に履修登録をしてください（別途「授業時間割表」を参照してください）。
- (2) 学外実習は実習後の直近学期に単位が認定されます。学外実習の流れは以下の通りです。
 - (i) 掲示されている実施要項に従って板倉事務課窓口で申込手续を行う
 - (ii) 実習に参加する
 - (iii) 終了後の直近学期で履修登録を行う
 - (iv) 実習終了後、報告会に参加する
 - (v) 成績発表で評価を確認する

例：夏季休暇中に実習に参加した場合→直近の秋学期に履修登録を行う

4. その他

学外実習の単位認定は4年間を通して1度のみとなります。履修登録を行わないと、単位が認定されませんので、注意してください。

9. 東京外国語大学の単位互換制度

東洋大学では語学科目を中心とした多様な学習機会を拡充することを目的として、2018年度より、東京外国語大学との間における単位互換協定を締結しました。これに伴い、東京外国語大学の授業の一部を履修することが可能になりました。

ここでは、東京外国語大学の科目を履修するにあたっての条件、履修方法などを規定しています。詳細は、東京外国語大学の履修要覧・シラバスを参照するとともに、板倉事務課までお問合せください。

- | | |
|------------|---|
| 1. 対象学生 | 学部2年次以上 |
| 2. 履修可能単位数 | 学期の履修単位数の制限内かつ、(入学前も含む) 本学以外の大学等で取得できる単位数は60単位を上限とする。 |
| 3. 学籍の取扱い | 東京外国語大学では「特別聴講学生」として在籍することになります。 |
| 4. 開講キャンパス | 東京外国語大学府中キャンパス(所在地:〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1) |
| 5. 履修可能科目 | 板倉事務課で確認してください。ただし、都合によって履修可能科目が変更になることがあります。また、本学と東京外国語大学双方の曜日時限が重複する科目や移動時間も含めて授業開始時刻に間に合わない科目を履修することはできません。 |
| 6. 履修手続 | <ol style="list-style-type: none">①「特別聴講願」を板倉事務課で受け取り、所定の期間内に窓口へ提出してください。②提出された「特別聴講願」をもとに、東京外国語大学が受講の可否を決定します。③第1回目の講義に出席し、東京外国語大学の授業担当教員へ「東洋大学生命科学部」の学生である旨と聴講申請手続き中である旨、申し出てください。④受講の正式な可否については、ToyoNet-Gにてお知らせを配信しますので、確認のうえ、受講可の学生は東京外国語大学で所定の手続を行ってください。 |
| 7. 試験 | 東京外国語大学の制度によります。追・再試験は原則行いません。 |
| 8. 単位認定 | 東京外国語大学からの成績到着後、当該科目の単位の認定を希望する場合は、板倉事務課窓口まで、「単位認定申請書」を提出してください。単位認定の可否については、教授会での審議を経て決定されます。申請が認められる場合は「T」評価として認定します。 |

東京外国語大学入構時には「学生証」を必ず携帯し、東洋大学の学生であることを示すこと。その他、東京外国語大学の学則に従い、規律ある行動をとること。



Ⅲ 諸 資 格

1. 教職課程（教育職員免許状）
2. 食品衛生管理者および食品衛生監視員（任用資格）
3. 危険物取扱者（甲種）
4. バイオ技術者認定試験（中級・上級）
5. 技術士補
6. 公害防止管理者試験（国家試験）
7. その他学部の学びに関連する資格

1. 教育職員免許状

東洋大学教職センター

本学の学祖井上円了は哲学館の創設にあたり「諸学の基礎は哲学にあり」の理念の下、「先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方、論理的・体系的に深く考える人間」「社会の課題に自主的・主体的に取り組み、よき人間関係を築いていける人間」の育成をめざした。そして特に「教育家と宗教家」の養成に力を入れた。このように本学は創設以来、教員養成を重視し、この分野の伝統と実績を有する大学であり、多くの卒業生が教員として全国の学校で活躍している。

これから教職課程を履修し、教員免許状を取得して教員になろうと志す学生にはまずこのことをしっかりと自覚してほしい。

言うまでもなく、教員になるためには教員免許状の取得が必要である。免許状の取得に関する諸事項は教育職員免許法に定められており、本学もこれに基づいて教職課程教育を実施している。

教職課程に属する科目の多くは、各学科の卒業に必要な科目とは別に履修し単位を修得しなければならない。従って、教職課程を履修する学生は、他の学生よりも多くの科目を履修しなければならない。学修に費やす時間もそれだけ多くなる。1年次からの計画的な履修と学修が求められる。その詳細については、教職課程ガイダンスに参加して説明を聞くとともに、この「履修要覧」を熟読してほしい。

教員になるためには、担当する教科に関する知識を豊富に持つことが必要となることは言うまでもない。しかしそれだけでは教員として十分とは言えない。教員は成長・発達の途上にある児童・生徒を指導し、ともに学ぶ存在である。教員の言動は、時として、子どもの将来を大きく左右することもある。その意味で教員というのは恐ろしい職業である。しかし同時に、教員は子どもの成長を直接目にし、それを助け、ともに喜び合えるやりがいのある職業でもある。

ある教育学者が次のようなことを問うている。「あなた（教員）は何の権利があって他人の子どもを教育するなどという大それたことができるのか」。

この間に答えることは簡単ではない。しかし「他人の子ども」を教育するという「大それた事」を職業とすることを、子どもから、保護者から、そして社会から、許されるだけの準備を大学生生活のなかですておくことが、教員をめざす学生の最低限の義務である。

教員をめざす学生には、大学の授業で学ぶことはもちろん、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイトなど、さまざまな経験をしながら、自分自身を成長させることを期待したい。豊かな人間性を持った信頼に足る教員をめざしてほしい。

1) 教育職員免許状について

大学卒業後、中学校・高等学校の教員になるためには教育職員免許状を取得しなければなりません。

生命科学部で取得できる教育職員免許状は次の表のとおりです。

学科	免許状の種類 (教科)	中学校教諭1種免許状 (教科)	高等学校教諭1種免許状 (教科)
生命科学科 応用生物科学科		理科	理科

2) 教育職員免許状の取得条件について

教育職員免許状を取得するためには、下の表にあるような基礎資格として「学士の学位を有すること」（卒業に必要な単位を修得すること）が要求されます。従って、教育職員免許状取得のための単位は取得できたものの卒業ができなかったということにならないよう、4年間の履修計画を立ててください。本学では「教育職員免許法」及び同法施行規則に基づいて、教育職員免許状取得に必要な単位が修得できるよう科目を開設しています。

- 近年、教員採用試験等で中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得（見込）していることが採用試験受験の条件、または有利になる傾向があります。したがって、できる限り中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得してください。
- 教育職員免許状を取得するために必要な科目は、4年間で履修かつ修得できるよう配置されているため、4年間の履修計画を入念に立て、1年次より必要な科目を確実に履修かつ修得してください。
- 2年次ないし3年次から4年次終了（卒業）までに教育職員免許状を取得することは難しいので注意してください。

基礎資格と免許法における最低修得単位数

免許状の種類		基礎資格	免許法における最低修得単位数						
			教科及び教科の指導法に関する科目 <表1>	教育の基礎的理解に関する科目 <表2>	道徳、総合的な学習等の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目 <表3>	その他
中学校教諭	1種免許状	学士の学位を有すること	28	10	10	7	4	8	介護等の体験(詳細はP83, 84)
高等学校教諭	1種免許状		24	10	8	5	12	8	

〈注 意〉

上記の免許法における最低修得単位数と、本学における最低修得単位数は異なります。

本学の学生は、本学における最低修得単位数を履修かつ修得しなければなりません。P77～P80の本学における「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「免許法施行規則第66条の6に定める科目」の一覧表で確認してください。

3) 教員免許状更新制について

教員免許状は10年間の有効期限が設けられており、10年ごとに30時間の免許状更新講習（筆記試験，実技試験等含む）を受け、修了認定されることによって有効期間が更新されます。免許状を持っているが教育の職に就いていない者（いわゆるペーパー・ティーチャー）は免許状更新講習を受講することはできません。したがって、教職に就かないまま10年を過ぎると免許状が無効になります。ただし、ペーパー・ティーチャーであった者が教職に就く見通しが立った場合には、講習を受けて修了を認定された後、免許状の再交付を受けることができます。

教職課程の履修に際しては、教育職員免許状の制度が大きく変わったことをよく理解して、自分自身の教職に対する意志を再確認してください。

4) 教職課程登録料について

本学では、通学課程の学部学生及び大学院生が教職課程の履修を希望する場合、教職課程登録料が必要となります。所定の期日までに指定された方法で納入してください。

なお、登録料の区分、徴収対象、徴収額および有効期間は以下の通りとなります。

	区分	徴収対象	徴収額	有効期間
教職課程登録料	在籍生登録料	東洋大学教職課程の履修を希望する通学課程の学部生及び大学院生	30,000円	・学部生は、納入時から卒業年度の3月31日（秋学期卒業生を含む。ただし、春学期卒業生は9月30日）まで。 ・大学院生は、納入時から修了年度の3月31日（秋学期修了生を含む。ただし、春学期修了生は9月30日）まで。
	卒業生等登録料	東洋大学の卒業生及び大学院修了生（ただし、退学者及び除籍者を含む。）で、教職支援室の利用等（教職に関するセミナー等への参加を含む。）を希望する者	5,000円 （ただし、秋学期からの場合は当該年度のみ2,500円とする。）	納入年度の3月31日まで。

※再入学した学生のうち、在籍時に教職課程登録料を納入している場合は、再度の納入は必要ありません。

5) 教職の履修登録について

教育職員免許状の取得のためには、卒業単位の充足のほかに、下記の必要科目をそれぞれ必ず履修し、単位を修得する必要があります。

- (1) 教科及び教科の指導法に関する科目（〈表1〉参照）
- (2) 「教育の基礎的理解に関する科目」等（〈表2〉参照）
- (3) 免許法施行規則第66条の6に定める科目（〈表3〉参照）

〈表1〉「教科及び教科の指導法に関する科目」一覧表（中・高一理科）（免許法施行規則第4条・第5条）

2019年度以降生命科学科入学生用

1. ○：必修科目 △：必修科目（中学校のみ）
2. 科目単位数は2単位（化学実験，物理実験，生物学実験は3単位）

免許法施行規則に定める科目区分	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
物 理 学	○物理Ⅰ ○物理Ⅱ			
物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)	○物理実験			
化 学	○基礎化学 ○基礎有機化学 無機化学	分析化学 有機化学		
化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)	○化学実験			
生 物 学	○生物学Ⅰ 生物学Ⅱ 生化学Ⅰ 基礎分子生物学	○分子遺伝学 動物生理学 生化学Ⅱ 細胞機能学		
生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)		○生物学実験		
地 学	○地学			
地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)		○地学概論 (実験を含む)		
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)			○理科指導法ⅠA ○理科指導法ⅡA △理科指導法ⅠB △理科指導法ⅡB	
「教科及び教科の指導法に関する科目」の最低修得単位数	中学校1種：33単位 ・ 高等学校1種：29単位			

2019年度以降応用生物科学科入学生用

- ：必修科目 △：必修科目（中学校のみ）
- 科目単位数は2単位（化学実験，物理実験，生物学実験は3単位）

免許法施行規則に定める科目区分	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
物 理 学	○物理Ⅰ ○物理Ⅱ			
物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)	○物理実験			
化 学	○基礎化学 分析化学 ○有機化学 無機化学			
化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)	○化学実験			
生 物 学	○基礎生物学 動物生理学 植物生理学	○分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ 細胞生物学 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ		
生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)		○生物学実験		
地 学	○地学			
地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)		○地学概論 (実験を含む)		
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)			○理科指導法ⅠA ○理科指導法ⅡA △理科指導法ⅠB △理科指導法ⅡB	
「教科及び教科の指導法に関する科目」の最低修得単位数	中学校1種：33単位 ・ 高等学校1種：29単位			

III 諸資格

〈表2〉「教育の基礎的理解に関する科目等」一覧表

2019年度以降入学生用 1. ○：必修科目 △：選択必修
 2. 「最低修得単位数」：生命科学部において各免許状を取得するための最低単位数

免許法施行規則に定める科目区分等	中学校教諭1種(理科)		高等学校教諭1種(理科)	
	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	最低修得単位数
教育の基礎的理解に関する科目	12	○教育学概論(2) ○教職概論(2) ○教育の制度と経営(2) ○教育心理学(2) ○特別支援教育基礎論(2) ○教育課程論(2)	1 1 1 2 1 1	○教育学概論(2) ○教職概論(2) ○教育の制度と経営(2) ○教育心理学(2) ○特別支援教育基礎論(2) ○教育課程論(2)
	12	○道徳教育論(2) ○総合的な学習の時間の指導法(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2) ○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2 3 2 2 2 2	○総合的な学習の時間の指導法(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2) ○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)
教育実践に関する科目	7	○教育実習I(事前・事後指導を含む)(5) ○教職実践演習(中・高)(2)	4 4	△教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)* △教育実習II(事前・事後指導を含む)(3) ○教職実践演習(中・高)(2) ※いずれか1科目を履修すること。 ただし、教育実習Iを修得しても、高等学校 校免許申請の際には3単位として申請する。
「教育の基礎的理解に関する科目」等の最低修得単位数	31			

免許取得のための必要単位数の合計 「教科及び教科の指導法に関する科目」+「教育の基礎的理解に関する科目等」	中学校1種：64単位以上 高等学校1種：59単位以上
--	-------------------------------

※()内は、単位数です。

※「道徳教育論」は、中学校教諭1種免許状を取得する場合に必修です。高等学校教諭1種免許状取得希望者が「道徳教育論」の単位を修得した場合は、「大学が独自に設定する科目」の単位としてカウントされます。

※「教育実習I(事前・事後指導を含む)」は、高等学校教諭1種免許状申請の際には3単位として申請します。

〈表3〉「免許法施行規則第66条の6に定める科目」一覧表

下表のとおり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」のそれぞれの分野で2単位ずつ修得しなければなりません。

2019年度以降入学生用

免許法施行規則第66条の6 に定める科目区分	最低修得 単位数	本学での開講科目
日本国憲法	2	日本国憲法
体育	2	スポーツ健康科学実技Ⅰ
		スポーツ健康科学実技Ⅱ
		スポーツ健康科学実技Ⅲ
		スポーツ健康科学実技Ⅳ
外国語コミュニケーション	2	Integral EnglishⅠ
		Integral EnglishⅡ
情報機器の操作	2	情報処理基礎
		情報処理演習

6) 教育実習について

教育実習は、大学で学んだ教育理論や技術をもとに、教育実習校（中学校・高等学校）での実習を通じて、教育の意味や学校教育の全領域について学習するものです。「教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）」（3週間以上実習対象者）、「教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）」（2週間実習対象者）は、4年次に履修します。4月から事前指導が行われ、ほとんどの学生が6月頃から実際に学校現場に赴き、中学校教諭の免許状取得の場合には3週間（学校によって4週間の場合もある）、高等学校教諭の免許状取得の場合には2週間の教育実習を行います。教育実習終了後、教育実習事後指導として、学生の実習体験発表、実習感想文の提出、アンケート調査などによって、教育実習の成果を振り返り、教員として必要な資質能力が培えたかどうかを確認します。教育実習は勤務という形態で行われるので、実習期間中に就職活動をするような時間的、精神的余裕は全くありません。教職という仕事の重要性を認識し、実習期間中は就職活動などは中止し、実習に専念してください。

(1) 教育実習参加条件

教育実習にあたっては、3年次終了までに次の①～⑨の条件を満たしていなければなりません。

この条件がひとつでも欠けると、教育実習に参加することはできません。

- ①教壇に立って授業を行うに必要な学力を有すること。
- ②教育実習指導教員の指導のもとに、教育実習生としてふさわしい行動のとれる人物であること。
- ③本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為を行い、処分を受けたことがない学生であること。
- ④3年次終了の時点で卒業論文着手条件を満たしていること。
- ⑤3年次終了の時点で、以下の2つの条件をともに満たしていること。
 - (i) 「教育学概論」、「教職概論」、「教育の制度と経営」、「教育心理学」、「特別支援教育基礎論」、「教育課程論」、「道徳教育論」、「総合的な学習の時間の指導法」、「特別活動の理論と方法」、「教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）」、「生徒指導論（進路指導論を含む）」、「教育相談」、12科目のうち、7科目以上の単位を修得済みであること。
 - (ii) 実習予定教科の「理科指導法ⅠA」、「理科指導法ⅠB」、「理科指導法ⅡA」、「理科指導法ⅡB」を修得済みであること。
- ⑥4年次において、卒業に必要な科目（単位）および教育職員免許状を取得するために必要な科目（単位）を修得し終える見込みのある者。
- ⑦大学を含む関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。
- ⑧大学の行う定期健康診断を受診していること。
- ⑨教育実習料（含む保険料）を納入していること。

(2) 教育実習のスケジュール

< 2年次 >

春季休暇前

春季休暇中にやっておくことについて説明

< 3年次 >

4月上旬

教育実習事務手続説明会 次年度教育実習予定校確保（内諾）についての説明

（オリエンテーション期間中）

4月以降

教育実習校への内諾依頼（各自出身校等へ次年度実習の依頼に行くこと）

9月中旬

教育実習受入内諾書の確認
教育実習希望調書の提出（東京都立学校希望者のみ）

1月

教育実習校の発表

< 4年次 >

4月上旬

教育実習承諾書確認
教育実習直前説明会 実習直前の心構え，実習上の注意事項，実習校持参書類の配布

4月中旬

教育実習料振込

5月上旬

教育実習打ち合わせ日，実習期間，教科等最終確認

実習終了後
1か月以内

教育実習日誌の提出

※スケジュールは変更となる場合があります。日程の詳細・変更のお知らせはすべて中央掲示板で行いますので、必ず確認してください。説明会を欠席したり、手続きを怠ると、実習参加ができなくなるので注意してください。また内諾を得たのちのキャンセルや、一度納入した実習料の返金は一切できません。

7) 介護等体験について

中学校教諭の免許状取得希望者は、教職に必要な科目の修得、卒業要件の充足の他に、3年次に特別支援学校で2日間と社会福祉施設で5日間、計7日間、高齢者や障害者に対する介護、介助、交流等の体験を行い、受入先に体験を行った証明をいただく必要があります。

この体験を行うには、大学を通して申し込みをしなければなりません。概要は以下の通りです。

(1) 参加条件

以下の条件を1つでも満たさない場合は、介護等体験に参加できません。

- ①介護等体験に積極的に参加する意欲があること。
- ②全3回の説明会（2年次2月・3年次6月および8月を予定）に出席し、必要な書類を提出すること。
- ③実施年度の4月に大学の定期健康診断を受診し異常なしと診断され、心身ともに健康であること。
- ④麻疹（はしか）の抗体検査・予防接種を行い、免疫があると認められた者であること。
- ⑤介護等体験料を所定の期日までに振り込んでいること。
- ⑥指定された体験日程で介護等体験に参加できること。
- ⑦その他、必要な手続きのすべてを完了していること。

(2) 体験日程・体験先

受入先の都合を考慮したうえ群馬県教育委員会および群馬県・埼玉県社会福祉協議会が希望者一人ひとりの日程と受入先を調整・決定します。個人的な事情や要望（サークル、アルバイト、海外留学、就職活動等）による日程・受入先の指定や変更（また、このことに関する個人交渉）・辞退は一切できないので、参加希望者はこの点を了承し、自己の予定を調整したうえで体験に臨んでください。

①日程

授業期間だけではなく、夏季・冬季休暇期間・土・日・祝祭日を含む日程で行います。

②体験先

いずれも群馬県に所在する学校・施設で行います。現住所に近い場所で行えるとは限りません。なお、埼玉県に現住所もしくは帰省先住所がある学生は、埼玉県内の社会福祉施設での実習を申し込むことができます。

<特別支援学校>

視覚障がい者、聴覚障がい者、知的障がい者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む）に対して、小中学校等に準ずる教育を行うとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする学校。在籍する児童生徒等に対する教育を行うほか、障がいにより教育上特別の支援を必要とする小中学校等の児童生徒等の教育に関し、必要な助言又は援助を行います。

<社会福祉施設>

- ・高齢者にかかわる施設
- ・児童福祉・障がい児にかかわる施設
- ・障がい者（身体、知的、精神障がい者）にかかわる施設
- ・生活保護にかかわる施設

(3) 内容

- ・学校、施設の利用者の介護・介助（入浴・排泄等含む）

- ・学校, 施設の利用者との交流 (話し相手), 学習活動の指導・援助
 - ・学校, 施設が実施する行事 (学園祭・バザー・遠足, サークル活動等) の補助
 - ・学校, 施設の掃除, 洗濯等の作業
- 特別支援学校事例・・・授業参観・作業学習補助・学校行事補助等 (プール実習・マラソン大会等)
- 社会福祉施設事例・・・車椅子補助・点字の勉強・送迎バスへの添乗・サークル活動の補助等

(4) 介護等体験に関するスケジュール

<2年次>

2月 介護等体験第1回説明会 体験の概要・申込前の注意事項・今後の手続の説明・参加登録票提出



2月下旬 群馬県教育委員会へ一括申し込み



<3年次>

4月上旬 はしか抗体検査結果証明書提出 (新学期教職ガイダンス時)



5月下旬 特別支援学校受入決定発表 (掲示)



6月中旬 介護等体験第2回説明会
特別支援学校での体験上の注意, 申込み方法の説明, 申込みと体験に必要な書類の配布等



6月下旬 群馬県および埼玉県社会福祉協議会へ一括申し込み



8月頃 社会福祉施設受入決定発表 (掲示)
介護等体験第3回説明会 社会福祉施設での体験上の注意
体験準備および体験 (要項・受入連絡票を熟読の上, 体験に臨むこと)



体験終了後
2週間以内 介護等体験日誌の提出

※スケジュールは変更となる場合があります。日程の詳細・変更のお知らせはすべて中央掲示板で行いますので、必ず確認してください。説明会を欠席したり、手続きを怠ると、体験参加ができなくなるので注意してください。また申込後のキャンセルや、一度納入した体験費用の返金は一切できません。

8) 教職実践演習について

4年次の秋学期に必修科目として「教職実践演習」の履修が必要です。この科目は、全学年を通じた教職に関する「学びの軌跡の集大成」と言えるものであり、学生が身に付けた資質・能力が教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され形成されたかを確認することを目的としています。しかしこの確認は4年次秋学期になってはじめて

で行うのではなく、1年次から継続的に戻り自らの教職への意志や適性を問いつづけるというものです。

従って、教員をめざす学生は1年次から意識的・意欲的に教職課程の学びを継続し、学修の成果と課題を記録しておくことが求められます。本学では「教職パスポート」を用意してその一助としており、「教職パスポート」を活用して、4年間の学修の流れを継続的・系統的に、目に見えるかたちで記録していくことが求められます。「教職パスポート」を管理し活用していることが「教職実践演習」の履修条件のひとつとなるので、大切に保管し活用するようにしてください。なお、2年次終了時点で「教職パスポート」の中間点検を行い、必要に応じて指導・助言を行います。教職への適性が疑われる場合には進路の変更を促す場合もあるので、しっかりとした自覚をもって学修に取り組んでください。

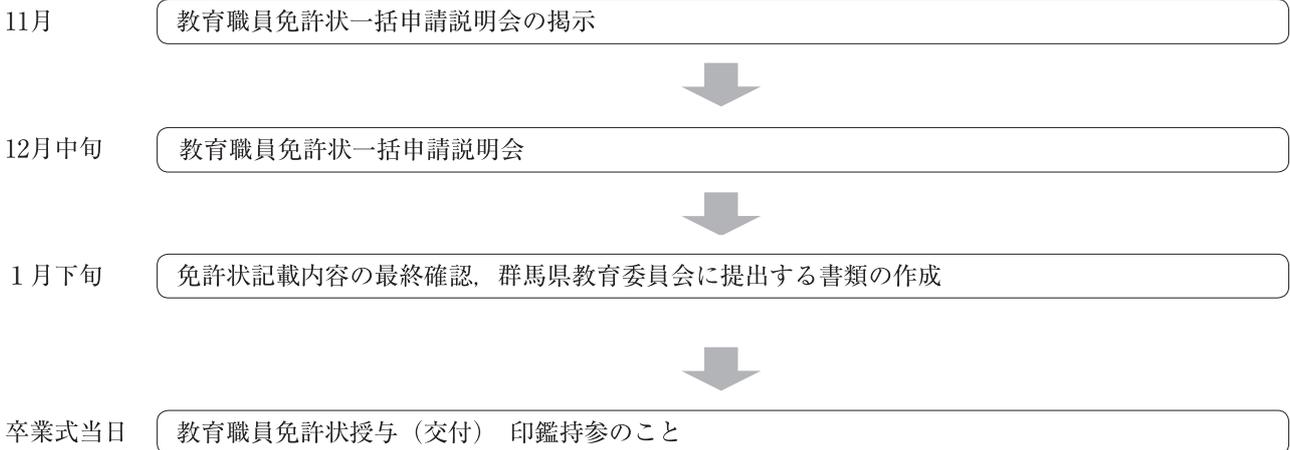
9) 教育職員免許状一括申請について

教育職員免許状に必要な単位を修得した学生は、教育免許状の取得が見込まれる年度に教育職員免許状申請の手続きをする必要があります。通常は大学を通して教育職員免許状の申請（以下一括申請）を下記のスケジュールに従って行います。

これらの手続きを怠った場合は、卒業時に教育職員免許状が授与されなくなるので注意してください。

教育職員免許状一括申請に関するスケジュール

<4年次>



※スケジュールは変更となる場合があります。日程の詳細・変更のお知らせはすべて中央掲示板にて行いますので、必ず確認してください。

◎個人申請について

一括申請手続きを行わなかった場合でも、教育職員免許状に必要な単位を修得していれば、卒業後に個人で教育職員免許状を申請すること（個人申請）が可能です。

個人で申請する際の申請先等は下記の通りです。

<申請先>

住民票をおいている都道府県の教育委員会（通常は都道府県庁の教育職員免許状を発行する部署）

<申請に必要な書類・受付時期・免許状発行日>

申請先によって異なるので各自で問い合わせてください。

10) 休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合について

在学中に休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合は、教育実習・介護等体験等の実施時期や教育職員免許状の取得時期が通常の学生より1～2年遅くなることがあるので、必ず事前に板倉事務課窓口まで相談に来てください。

11) 教員採用試験について

教育職員免許状を取得した者が教員になるためには、まずは教員採用試験に合格する必要があります。

出願期間・受験条件・試験日程・試験方法は教育委員会・学校によって異なるので、教員採用試験の実施要綱の取り寄せと応募は各自で行ってください。

実施要綱が大学に届いた場合は、教職支援室で閲覧できます。教員採用試験（第1次・第2次）に合格した場合は必ず板倉事務課窓口に届け出てください。

(1) 公立学校の教員採用

公立学校の教員になるためには、まずは各都道府県または市の教育委員会が実施する採用試験に合格し、採用候補者の名簿に登録される必要があります。名簿の中からその年度の欠員状況、教員組織の状況などを考慮して選定され、採用が決定します。

(2) 私立学校の教員採用

各都県の私学協会等が実施する「私立学校教員適性検査」を基に採用を行う場合と公募制による採用があります。

「私立学校教員適性検査」は採用試験ではなく、適性検査を受けた受検者の氏名と評価等が記載された名簿を基にして、教員の採用を行っていくものです。ただし、検査を実施する都県にある私立学校全てが「私立学校教員適性検査」の結果を基に教員募集を行っているとは限りません。

12) 教員採用に関する支援について

教職支援室の教職アドバイザーによる選考試験の学習指導や、教員採用試験対策講座等の実施を予定しています。講座の開催・申込時期等については中央掲示版（教職関連）に掲示します。

2. 食品衛生管理者および食品衛生監視員（任用資格）

食品衛生法第48条の規定により、食肉製品やマーガリン、添加物等、特に衛生上の考慮を必要とする食品の製造又は加工を行う営業者は、その施設ごとに、専任の食品衛生管理者を置くことが義務づけられています。食品衛生管理者はその製造又は加工の衛生管理を行います。

一方、食品衛生監視員とは全国にある主な海港・空港の検疫所で、輸入食品の安全監視や指導を行います。国家公務員Ⅱ種試験あるいは厚生労働省が行う食品衛生監視員採用試験に合格する必要があります。また、地方公務員として、主に各都道府県の保健所で、飲食に起因する衛生上の危害を防止するために、食品を取り扱う営業施設等への監視指導、立入検査及び食品等からの試験品を採取する権限を有し健康被害を防ぐために公衆衛生業務に携わることも可能です。

生命科学部は、食品衛生管理者養成施設として厚生労働大臣の登録を受けているので、各学科で指定された科目を修得することで国家資格の任用資格を得ることができます。（P88～P89参照）

※ 「任用資格」とは、所定の科目を修得し、卒業後に公務員として採用され、その資格に関連する職務に就業して初めて活きる資格です。

食品衛生管理者・食品衛生監視員になるまで

< 1 年次春学期 >

4 月上旬～

ToyoNet-Gで資格登録

< 1 年次～ 4 年次 >

9 月中旬

3 月中旬

各学期の成績発表期間にToyoNet-Gで単位修得状況の照会

< 4 年次 >

卒業式当日

コースの既定単位充足者へは修了証授与

< 4 年次～卒業後 >

卒業後

食品衛生管理者：関連する職務に就業することで、食品衛生管理者となれます。

10～11月頃

食品衛生監視員：厚生労働省検疫所食品衛生監視員（専門行政職）採用試験を受験

合格者は全国主要海港・空港の検疫所に配属

○食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格は「生命科学部生命科学科」, 「生命科学部応用生物科学科」で所定の課程を全て履修した卒業生であること。

○編入学により入学した学生は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得することはできない。

○転入学により入学した学生が資格を取得する場合は、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成課程からでないことと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当学校の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

生命科学部生命科学科

区 分	基本科目名	授業科目名	配当学年	単位数	履修方法
A群 化学関係	分析化学	分析化学	2	2	選択
		機器分析 I	3	2	選択
	有機化学	基礎化学	1	2	必修
		基礎有機化学	1	2	必修
		化学実験	1	3	必修
有機化学	2	2	選択		
無機化学	無機化学	1	2	選択	
B群 生物化学関係	生物化学	生化学 I	1	2	必修
		生化学 II	2	2	必修
		生物有機化学	2	2	選択
生理学	医生理学	3	2	選択	
C群 微生物学関係	微生物学	基礎微生物学	1	2	必修
		微生物利用学	2	2	必修
		微生物生理学	2	2	選択
D群 公衆衛生学 関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2	2	必修
	食品衛生学	HACCP論	3	2	選択
	衛生行政学	食品安全学	3	2	必修
E群 その他の 関連科目	応用微生物学	真核微生物学	3	2	必修
	栄養化学	植物分子栄養学	2	2	必修
	家畜生理学	動物生理学	2	2	必修
	血液学	血液・免疫学概論	3	2	選択
	病理学	病態組織学	3	2	選択
	遺伝学	分子遺伝学	2	2	選択
	植物生理学	植物科学	2	2	選択

※A群～D群については、必修科目をすべて修得の上、計22単位以上修得すること。

※E群の科目を含めて、総単位数40単位以上を修得すること。

※編入学により入学した学生は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得することはできない。

※転入学により入学した学生が資格を取得する場合は、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成課程からでないと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当学校の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位と認めない。

生命科学部応用生物科学科

区 分	基本科目名	授業科目名	配当学年	単位数	履修方法
A群 化学関係	分析化学	分析化学	1	2	選択
		機器分析	3	2	必修
	有機化学	基礎化学	1	2	必修
		化学実験	1	3	必修
		有機化学	1	2	必修
無機化学	無機化学	1	2	選択	
B群 生物化学関係	生物化学	生化学Ⅰ	2	2	必修
		生化学Ⅱ	2	2	必修
		生化学実験	2	3	選択
C群 微生物学関係	微生物学	微生物学	1	2	必修
		微生物利用学	2	2	必修
		微生物生理学	2	2	選択
D群 公衆衛生学 関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2	2	必修
	食品衛生学	HACCP論	3	2	選択
	衛生行政学	食品安全学	3	2	必修
E群 その他の 関連科目	環境生物学	環境健康科学	2	2	必修
	家畜生理学	動物生理学	1	2	必修
		動物バイオテクノロジー	3	2	選択
	応用微生物学	バイオテクノロジー実験	1	3	必修
	生物有機化学	生物学実験	2	3	必修
	酵素化学	酵素工学	3	2	選択
	植物生理学	植物バイオテクノロジー	3	2	選択
環境汚染物質分析学	生態毒性学	3	2	選択	

※A群～D群については、必修科目をすべて修得の上、計22単位以上修得すること。

※E群の科目を含めて、総単位数40単位以上を修得すること。

※編入学により入学した学生は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得することはできない。

※転入学により入学した学生が資格を取得する場合は、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成課程からでないと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当学校の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位と認めない。

4. バイオ技術者認定試験（中級・上級）

生命科学部では、バイオ技術の進歩に対応した高い知識を持ち、バイオテクノロジーに応用出来る技術者の育成を目指しています。バイオ技術認定試験はその客観的評価が得られる試験の一つです。

中級バイオ技術者認定試験は、「遺伝子組換え技術、細胞融合技術、増殖能利用技術並びに生物及び生物由来材料利用技術、そしてこれらを行うための安全管理に関する知識をもち、適切な指導者の元で実際にバイオテクノロジーに適応しうる資質」を認定するもの、上級バイオ技術者認定試験は、「生命工学技術の中で生物利用技術を中心に、遺伝情報利用技術、増殖能利用技術および安全管理技術、並びにそれらに関する知識を持ち、指導的立場でそれを実際にバイオテクノロジーに応用し得る資質を高めた高度な技術者」を認定するものです。

生命科学部では、在学している学年により受験資格が得られます。中級は2年次修了者および2年次修了見込の者、上級は3年次修了者および3年次修了見込の者となります。

NPO法人 日本バイオ技術教育学会 <http://bio-edu.or.jp/>

5. 技術士補

「技術士」は、国によって科学技術に関する高度な知識と应用能力が認められた技術者で、科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある国家資格です。「技術士」は学術界での博士号（学位）が、産業界では技術士が該当すると評されています。

技術士法に基づいて行われる国家試験「技術士第二次試験」に合格し、文部科学省の登録を受け、技術士の名称が与えられます。技術士第二次試験の受験資格として、「技術士補となる資格を有していること。」および「一定条件の業務経歴（科学技術に関する実務経歴）を有していること。（https://www.engineer.or.jp/c_topics/000/000083.html）」の要件を満たす必要があります。実務経歴が必要となるため、通常、学生時には技術士の資格は得られません。学生時には技術士補の資格を取得できます。技術士補になるためには、国家試験「技術士第一次試験」に合格し、文部科学省の登録を受ける必要があります。バイオ系に関連するものとしては、化学、資源工学、衛生工学、生物工学、環境などの部門があります。

公益社団法人 日本技術士会 <http://www.engineer.or.jp/>

6. 公害防止管理者試験（国家試験）

公害防止管理者は、食品工場、化学工場、医薬品工場などほとんど全ての業種の工場で、公害防止体制を管理するために設置が義務付けられている国家資格です。1年次から受験が可能です。資格として大気、水質、騒音・振動、ダイオキシンの分野に分かれ、それぞれの分野で資格を取得できます。食品工場、化学工場、医薬品工場などでの製品製造ラインで排出される廃水の浄化を管理するには、水質分野の公害防止管理者（水質関係1～4種）が必要です。板倉キャンパスでは夏季集中講義（水質関係）を開催しており、環境問題や資格に関心のある学生に傾向と対策を指導しています。試験は年1回、10月に行われ社会人や学生らが受験し、合格率は全国平均20%前後です。

一般社団法人 産業環境管理協会 <http://www.jemai.or.jp/>

7. その他学部の学びに関連する資格

1) 環境計量士

環境計量士（濃度関係）は、工場から排出されるばい煙、排水や環境（大気・水域）及び工場跡地等土壌の中の有害物質、悪臭物質等の測定及び計量管理を行なう国家資格です。

計量管理とは計量法第109条において「計量器の整備、計量の正確の保持、計量の方法の改善その他適正な計量の実施を確保するために必要な措置を講ずること」と定められており、計量士は主に適正計量管理事業所及び計量証明事業所において計量管理等を行っています。また、計量管理業務のほかに、計量士は都道府県知事・特定市町村長が行う定期検査等を代わりに実施することができます。

環境計量士国家試験の受験資格に制限はなく、誰でも受験することが可能です。

経済産業省 https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun/techno_infra/20_keiryoushi.html

2) 環境測定分析士(3級)

大気汚染物質、水質汚濁物質等の測定分析業務の現場で実際に活躍している方の能力と技術力を評価するのが、「環境測定分析士」です。一部の地方自治体では、環境測定業務の入札の際に必要な業務責任者等の資格として、環境計量士（濃度）、技術士（環境部門等）と並んで環境測定分析士が挙げられています。

環境測定分析士には1級、2級、3級があり、1、2級は受験資格に業務経験が含まれ、実技試験も課されますが、3級は入門編としての位置づけで、環境分野に興味を持つ方であれば学生の他だれでも受験できます。3級資格の保持は2級、1級受験資格となります。

一般社団法人 日本環境測定分析協会 https://www.jemca.or.jp/capa_top/analysisperson_top/

3) 生殖補助医療胚培養士

生殖補助医療胚培養士とは、生殖補助医療を目的として、医師の指導の下に体外で配偶子及び胚を取り扱う業務に従事する医療技術者です。大学で生物学や生化学、発生学等の科目を履修し、卒業後、日本産科婦人科学会の認定施設における1年以上の実務経験等を経ることにより、日本卵子学会の認定資格審査を受けることができます。また、日本臨床エンブリオロジスト学会が認定する「臨床エンブリオロジスト」を取得することもできます。

一般社団法人 日本卵子学会 <https://jsor.or.jp/index.html>

日本臨床エンブリオロジスト学会 <https://embryology.jp/>

IV 学籍および納付金

(学籍異動に関する手続き)

1. 学籍 (学籍異動に関する手続)

学 籍

○二重学籍の禁止

本学の学生になるには、入学手続きを完了し、学生証の交付を受けなければなりません。

本学に在籍しているにも拘らず、他大学及び本学の他学部・他学科に在籍（在学）することはできません。（学則第34条）

○在学年限（学期数）

卒業に必要な単位を修得するために連続して在学できるセメスタ（在学セメスタ）は最長で16学期間（8年間）です。ただし、休学の学期数は在学学期数に算入されません。

○変更届

入学手続き時にWeb登録した内容について変更が生じた場合、板倉事務課窓口で所定の用紙に変更箇所を記入し、届け出をしなければなりません。登録されている内容は学生の身分を本学が証明する基礎となる重要データであり、卒業後も、永久保存され、厳重に保管されるものです。変更が生じた場合（氏名変更、住所変更）は速やかに届け出てください。なお、住所変更についてはToyoNet-G上で変更できます。（外国人留学生は窓口のみ）

主な変更届と必要な書類は以下のとおりです。

変 更 事 項	提出時に必要な書類等
本人氏名変更（改姓・改名）	戸籍抄本
本人住所変更 （電話番号の変更も含む）	〈外国人留学生の場合は在留カードのコピー（表・裏）〉
通学区間変更	
保証人変更	保証人の署名・捺印
保証人住所変更 （電話番号の変更も含む）	
保証人勤務先変更	
緊急時連絡人変更	
本籍地変更	住民票（ただし本籍の記載のあるもの）、または戸籍抄本

学 生 証

本学の就学手続きを完了した学生に、学生証を交付します。（学則第29条）

学生証は、本学学生としての身分を証明するものであり、常に携帯し、次の場合これを提示しなければなりません。

- 1) 本学教職員の請求があった場合
- 2) 定期試験を受験する場合
- 3) 各種証明書や学生旅客運賃割引証明書（学割）等の交付を受ける場合
- 4) 通学定期乗車券や学生割引乗車券を購入する際と、それを利用して乗車船し係員の請求があった場合等

学生証は、学長印、学生本人の写真、裏面シールの貼付が無いものは無効です。
学生証は他人に貸与または譲渡することはできません。

○有効期間

学生証の有効期間は1年間です。春学期入学者（進級）の場合は、4月1日から次年度の4月15日までです。入学時に交付を受けた学生証は、4年間使用します。

○有効期間の更新

毎年学期始めの進級手続き期間内に、学生証の有効期間の更新を受けなければなりません。

○返 還

卒業または退学・除籍等、本学に籍がなくなった場合は、学生証を本学に返還しなければなりません。

○再 発 行

学生証を紛失もしくは破損・著しく汚損した場合は、直ちに本学に届け出し、以下の手続きに従って学生証の再発行を受けなければなりません。

(再発行には、1週間かかります。)

※いずれの場合も再発行手数料(2,000円)が必要です。

申込キャンセルによる手数料の返金はできません。

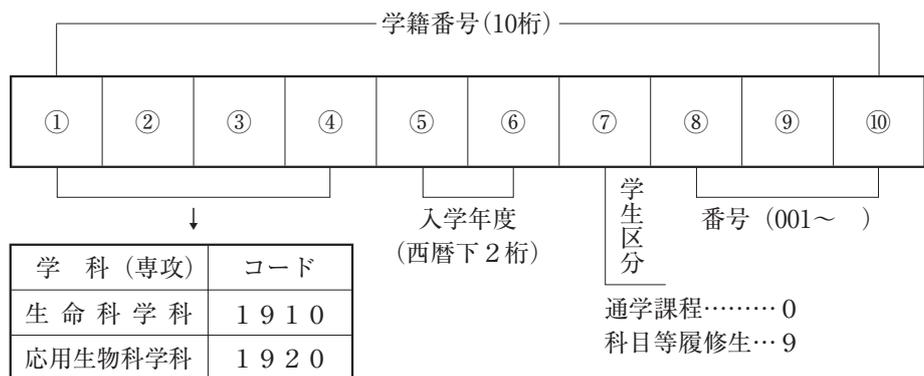
○暗証番号 (パスワード)

第三者に不正使用されないために、4桁の数字の暗証番号が登録されています。入学手続き時に届け出た暗証番号は、自動証明書発行機で証明書を発行する際に必要です。必ず覚えておいてください。

学 籍 番 号

入学の手続きを完了した学生には、学籍番号が与えられ学生証に記載されます。この学籍番号は、卒業まで変わることはありません。

学籍番号は履修登録や、試験の答案用紙提出、各種届出、証明書の申請等で必要となりますので、正確に記憶しておいてください。



進 級

休学者が復学した場合などの特別な事情がない限り、原則として上級の学年に進級できます。

4 年 原 級

本学に学生として最低4年間修学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。4年次終了までに所定の単位を修得できず、卒業できないことを4年原級といいます。

卒業要件単位を修得するために連続して在学できる年数（在学年数）は、通算して8年を限度とします。その年限までは4年生ということになります。

○納付金

4年次生で原級する場合の納付金は、当該年度正規4年次生の納付金を適用します。

休 学

病気・家庭の事情、留学等の理由で、修学することができない場合は、大学の許可を得て休学することができます。(学則第35条)

○休学期間

休学期間について

- 1) 春学期の休学の許可を受けた日から、当該学期の9月30日までです。
- 2) 秋学期の休学の許可を受けた日から、当該学期の3月31日までです。

休学期間を終了した場合

- 1) 春学期休学した場合は、10月1日付で復学しなければなりません。
- 2) 秋学期休学した場合は、4月1日付で復学しなければなりません。

休学期間の延長について

- 1) 春学期休学者は、秋学期終了時までとし、さらに延長することはできません。
- 2) 秋学期休学者は、春学期終了時までとし、さらに延長することはできません。

*上記休学期間を終了した場合に復学することになりますが、復学ができない場合は、板倉事務課へ相談してください。

○手 続 き

休学を希望する場合は、許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署の上、学生証を添えて板倉事務課窓口へ提出してください。

なお、病気・怪我が理由の場合には、医師の診断書が必要です。
休学が許可された場合は、休学許可書を保証人宛に郵送します。

手続きは原則として学生本人が行ってください。ただし、やむを得ない事情がある場合は、板倉事務課窓口へ相談してください。

休学の手続き期間は、その年度の春学期6月30日、秋学期12月31日までです。ただし、期首付（春学期4月1日付、秋学期10月1日付）の休学の手続き期間は、その学期の納付金納入期限までとなります（下記「納付金」の項目参照）。

○納付金

（1）第1期（春学期）の納入期限までに休学を願い出た場合

休学日を4月1日付として扱い、納付金のうち授業料・実験実習料は納入する必要はありません。ただし、施設金は半期分の半額等を納入する必要があります。

全額一括納入した場合は、第1期（春学期）分の授業料・実験実習料および第2期（秋学期）分の納付金を払い戻しいたします。

（2）春学期中に休学する場合

春学期の途中で休学する場合、第1期（春学期）の納付金は払い戻しをいたしません。

（3）第2期（秋学期）の納入期限までに休学を願い出た場合

休学日を10月1日付として扱い、納付金のうち授業料・実験実習料は納入する必要はありません。ただし、施設金は半期分の半額等を納入する必要があります。

第2期（秋学期）分の納付金を納入した場合は、第2期（秋学期）分の授業料・実験実習料を払い戻しいたします。

（4）秋学期中に休学する場合

秋学期の途中で休学する場合、第2期（秋学期）の納付金は払い戻しをいたしません。

*連続休学する場合、次学期分の授業料・実験実習料を除く納付金は納入しなければなりません。

復学

○手続き

休学期間を満了し、在学することを復学といいます。春学期休学の場合は10月1日付、秋学期休学の場合は次年度4月1日付で復学しなければなりません。

復学の対象者（当該学期休学者）には、板倉事務課から復学手続きの案内、復学に必要な書類及び納付金振込用紙を各学期末月の下旬頃に保証人宛に郵送します。

復学する場合は案内にしたがって、指定した期間内に手続きをしなければなりません。復学に関する手続きを怠ると除籍となります。（学則第38条三）

○納付金

- (1) 休学者が復学する場合の納付金は、入学年度の額が適用されます。
- (2) 1セメスタ（半期）休学する場合、全額一括納入・分割納入の選択が可能な納入期は、第1期（春学期）とします。
第2期（秋学期）に復学する場合は、復学時に1セメスタ（半期）分の納付金を納入することになります。

○履修方法

休学期間中の履修登録科目は、全て無効となります。
* 詳細な履修方法については、復学の手続き後、板倉事務課窓口で履修指導を受けてください。

退 学

事情により本学での修学継続が困難な場合は、大学の許可を得て退学することができます。(学則第36条)

○手 続 き

退学を希望する場合は、板倉事務課で退学に関する指導を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添えて板倉事務課窓口へ提出してください。
なお、病気・怪我が理由の場合には、医師の診断書が必要です。
これらの手続きは学生本人が行ってください。ただし、やむを得ず本人が手続きできない場合には、板倉事務課窓口にご相談してください。
退学が許可された場合は、退学許可書を保証人宛に郵送します。

○納付金

- (1) 新学期の納入期限の末日までに退学を願い出た場合
退学日を前学期の末日付として扱い、当該年度・学期の納付金を納入する必要はありません。
- (2) 春学期中に退学する場合
 - ①春学期の途中で退学する場合は、第1期（春学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。
 - ②全額一括納入した場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しいたします。
- (3) 秋学期中に退学する場合
秋学期の途中で退学する場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。

退 学 再 入 学

○手 続 き

退学した学生が春学期再入学を希望する場合は1月末、秋学期再入学を希望する場合は7月末までに板倉事務課窓口で再入学に関する説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、板倉事務課窓口へ提出してください。

再入学が許可された場合は、春学期へは4月1日付、秋学期へは10月1日付で再入学することができます。(学則第36条2項)

*外国籍の学生については在留資格取得の関係で、4月再入学は前年10月末、10月再入学は4月末日が手続きメ切となります。

○納付金

退学者が再入学する場合の納付金は、再入学する学年次の納付金を適用します。ただし、入学金は再入学する年度の入学金の半額となります。

○履修方法

再入学する学年は、原則として退学した学年になりますが、単位修得状況によって学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表も原則として入学年度のものを適用しますが、大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表が適用される場合があります。

*なお、詳細な履修方法については、再入学の手続き終了後、板倉事務課窓口で履修指導を行いますので、必ず受けてください。

懲戒による退学

本学の規則に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生は、所属学部教授会の議を経て懲戒による退学となる場合があります。(学則第57条)

除 籍

指定された期間内に納付金を納入しない学生、在学年数を越えた学生、休学期間を越えた学生、新入生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生、その他本学において修学の意味がないと認められる学生は、学則第38条により除籍となります。なお、詳細は板倉事務課窓口で確認してください。

除籍は、学籍の抹消として処理され、本学の在籍者としての身分を失うことになります。この場合は、速やかに学生証を本学に返還しなければなりません。

除籍になった場合は、除籍通知書を保証人宛に郵送します。

除籍日は、除籍事由により9月30日もしくは3月31日となります。

○手 続 き

除籍者より証明書の申請がある場合には、除籍等の項目を明記した在籍証明書を板倉事務課にて発行します。

除 籍 再 入 学

除籍になった学生は、大学の許可を得て再入学することができます。(学則第38条3項)

○手 続 き

除籍になった学生が春学期再入学を希望する場合は1月末、秋学期再入学を希望する場合は7月末までに板倉事務課窓口で再入学に関する説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、板倉事務課窓口へ提出してください。

再入学が許可された場合は、春学期へは4月1日付、秋学期へは10月1日付で再入学することができます。(学則第36条2項)

○納付金

除籍者が再入学する場合の納付金は、再入学する学年次の納付金を適用します。ただし、入学金は再入学する年度の入学金の半額となります。

○履修方法

再入学の学年は、原則として除籍時の学年になりますが、単位修得状況によっては学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表も原則として入学年度のものを用いますが、大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表が適用される場合があります。

*なお、詳細な履修方法については、再入学の手続き後、板倉事務課窓口で履修指導を行いますので、必ず受けてください。

転部・転科

本学内で他の学部・学科への転部・転科を希望する学生に対して選考試験を実施します。(学則第32条)

転部・転科を希望する学生は、第1部(昼)内の他学部・他学科への転部・転科、および第2部(夜)への転部・転科となります。

○転部・転科試験の手続き

10月下旬に配布予定の試験実施要領をもとに手続きを取り、1月下旬に実施予定の試験を受験してください。

合格発表は、3月下旬に行う予定です。

*転部・転科試験の手続きに関しては、掲示板で発表しますので、掲示板を確認してください。

*詳細は、板倉事務課窓口へ相談してください。

○納付金

納付金は転部・転科先の学年の納付金を適用します。ただし、入学金は、転部・転科先との不足分を納入することになります。

編入学・転入学

編入学

本学では卒業後に本学の学部・学科への編入学希望者に対して、編入学試験を実施しています。(学則第30条)

○納付金

編入学する場合の納付金は、編入学する年度の新入生の納付金を適用します。ただし、本学出身者が編入学する場合、入学金は編入学する年度の新入生の額の半額となります。

○履修方法

編入学する場合は、原則として3年生となりますが、単位の修得状況によって編入学する学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表も編入学する入学年度のものを用います。

転入学

*詳細は、編入学の手続時に板倉事務課窓口で説明を受けてください。

本学では、他大学等から本学の学部・学科への転入学の希望者に対して転入学試験を実施しています。(学則第31条)

○納付金

転入学する場合の納付金は、転入学する年度の新入生の納付金を適用します。

○履修方法

転入学する場合は、単位の履修状況によって転入学する学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表も転入学する入学年度のものを適用となります。

*詳細は、転入学の手続時に板倉事務課窓口で説明を受けてください。

科目等履修生

特定の科目について学修しようとする場合は、科目等履修生として、科目履修を許可される場合があります。

*詳細は、板倉事務課窓口で配布している「科目等履修生募集要項」を参照してください。

許可願

休学・退学等の手続を取る場合には、板倉事務課に許可願を提出しなければなりません。許可願の種類は以下のとおりです。

異動種別	配布方法	様式
休学	窓口配布 (ToyoNet-G 各種資料より ダウンロード 出来ます。)	許可願
退学		
退学からの再入学		
除籍からの再入学		
転部・転科願	窓口配布	志願書

2. 納付金に関する取扱

- (1) 「学費」と「その他の費用」を合わせて「納付金」と称します。「学費」は大学徴収分を指し、「その他の費用」は預り金（受託徴収分）を指します。
- (2) 2年次以降は、入学金を除く納付金が毎年度必要になります。

納入期間について

- (1) 納付金は、4月期（春学期納入期間）に1年間分を全額一括納入する方法と授業料・一般施設設備資金・実験実習料を二期に分けて納入する方法を選択することができます。
※1年を二期に分け、入学月の属する期を第1期とし、その次の学期を第2期とします。
第1期（春学期）納入期間 4月20日～5月31日
第2期（秋学期）納入期間 10月1日～11月10日
（各年の曜日の関係により、納入期間が短縮される場合があります。）
- (2) 所定の納期までに納付金を納入しない学生は、学則第38条第1項により、除籍とします。
- (3) 修学の意味がない場合は、納入期間内に退学許可願を板倉事務課窓口へ提出してください。
- (4) 修学の意味がありながら学期始めに休学する場合は、上記（1）に記載の納入期間内に休学許可願を板倉事務課窓口へ提出してください。なお、大学の営業日にあわせて期限が前後することがあります。
- (5) やむを得ない事情で納入期限までに納付金を納入できない場合は、納入期間内に板倉事務課窓口へ相談してください。

納入方法について

- (1) 本学所定の納入方法で、国内の金融機関から振り込んでください。
- (2) 大学窓口での受付および海外からの送金はできません。
- (3) 納入された納付金は、超過納入が明らかな場合または学籍異動に伴い徴収の対象とならない場合を除き返還いたしません。
- (4) 振込用紙の送付先は保証人宛て（留学生は本人宛て）となります。振込用紙を紛失した場合は、至急、板倉事務課窓口まで連絡してください。
※本人または保証人の住所に変更があった場合は、ToyoNet-G上で住所変更を行ってください。

○納付金についての問い合わせ先 TEL：0276-82-9111

○住所変更についての問い合わせ先 TEL：0276-82-9118

各種証明書

板倉事務課では、下記の証明書を発行しています。

種 類	手数料	発 行 方 法	備 考
在 学 証 明 書	200円	証明書発行機	板倉・白山・川越・赤羽台のキャンパスで発行可能です。 ※健康診断を受けた者のみ
卒業見込証明書	200円		
成 績 証 明 書	200円		
健康診断証明書※	200円		
学 生 証 再 発 行	2,000円	板倉事務課窓口	
英文在学証明書	500円		
英文卒業見込証明書	500円		
英文成績証明書	1,000円		
その他の証明書	200円		

窓口で証明書の発行を申請する場合は、次のような手順となります。

1. 証明書発行機にて「証明書発行願」を購入する。
2. 「証明書発行願」に必要事項を記入し、学生証を添えて提出する。

*なお、学生証や英文の証明書等日数がかかるものもありますので、早めに申し込んでください。

*発行方法が変更となった場合は、掲示でお知らせします。

V そ の 他

1. 国際教育センター 海外留学・研修プログラム
2. 板倉キャンパスの情報環境について
3. 学則（学籍に関する事項の抜粋）
4. 東洋大学生命科学部規程

1. 国際教育センター 海外留学・研修プログラム

海外留学・研修プログラムの概要

本学では、休学することなく参加できる海外留学・研修プログラムを豊富に用意しています。

プログラムの概要は以下のとおりです。

プログラム名	①交換留学	②認定留学	③協定校 語学留学	④語学 セミナー	⑤海外インターンシップ・ ボランティア	⑥国連ユースボランティア ・ワシントンセンター	⑦Diversity Voyage
留学形態	学部留学 ^{※1}		語学留学 ^{※2}		—	—	—
期 間	1学期 または1年 ^{※3}		3～6ヶ月	3～4週間	2～6週間	3～5ヶ月	約10日間
出発時期	第Ⅰ期：2～3月 第Ⅱ期：8～9月	留学先大学により 異なる	春学期：2～5月 秋学期：8～9月	夏季および 春季休暇中		8～9月	夏季および 春季休暇中
語学条件	あり		なし		あり		なし
単 位	単位認定申請可 ^{※4}				履修登録対象 ^{※5}	単位認定申請可 ^{※4}	履修登録対象 ^{※5}
東洋大学留学 奨学金（給付型）	あり			なし			
東洋大学海外留学 促進奨学金（給付型）	グローバルリーダー型 トップ大学型		アクティブ型		チャレンジ型	アクティブ型	なし

プログラムの内容等は変更になる場合があります。

- ※1 学部留学…現地で正規課程の科目を履修及び修得することを目的とする留学
- ※2 語学留学…海外の大学附属の語学学校で語学を集中的に学ぶ留学
- ※3 1年…留学先機関によって学期制度や学期の日程が異なるため、トータルで1年間の留学期間を指す言葉として使用しています。
- ※4 単位認定申請可…留学先大学等で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。
- ※5 履修登録対象…該当する本学の開講科目を履修登録できます。

各種海外留学・研修プログラムの詳細

①交換留学

本学が学生交換協定を締結している協定校あるいは海外学生交換コンソーシアム（ISEP・UMAP等）に加盟する大学へ、1学期間または1年間留学するプログラムです。東洋大学を休学することなく留学できます。原則、留学先大学の授業料は免除となり、留学期間に応じて奨学金が給付されます。留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。

②認定留学

本学協定校の他、学位授与権のある大学へ1学期間または1年間留学するプログラムで、留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。国や地域は問いません。東洋大学を休学することなく留学できます。原則留学先の授業料は自己負担となりますが、留学期間に応じて奨学金が給付されます。

大学への出願・入学手続きは原則各自で行うため、留学に先立って自ら十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが重要です。

③協定校語学留学

本学の海外協定校附属の語学学校へ、3ヶ月から6ヶ月間留学するプログラムです。語学力の向上を目的とし、語学を学びながら様々なアクティビティやホームステイ等を通じた異文化体験をします。原則、留学先の授業料は自己負担となりますが、条件を満たした場合、奨学金が給付されます。また、東洋大学を休学することなく留学できます。

④語学セミナー

夏季および春季休暇を利用した短期語学研修プログラムです。語学研修、アクティビティ、ホームステイ等を通じた語学力の向上と異文化理解を目的としています。

⑤海外インターンシップ・ボランティア

グローバル社会で活躍するために必要となる英語力・異文化理解力・社会人マナーなどの社会人基礎力を育成し、世界に羽ばたく学生を育てることを目的としたプログラムです。夏季および春季休暇を利用し、2～6週間研修を行います。語学力の向上に加え、各国の経済状況や文化風習の違いを“働く”という社会生活を通じて体験し、今後の学生生活とキャリア形成に生かすことができます。

⑥国連ユースボランティア ・ワシントンセンター (TWC)

・国連ユースボランティア (UNYV)
国連ボランティア計画 (UNV) のコーディネートの下、開発途上国の国連事務所や政府機関でユースボランティアとして、約5ヶ月間働く長期インターンシップです。現地国連スタッフと共に広報活動やフィールドワーク等の業務に携わりながら、高度なキャリア意識やリーダーシップを養うプログラムです。

本プログラムは2021年度派遣にて終了予定です。

・ワシントンセンター (TWC)
アメリカの首都であるワシントンDC周辺の公的機関、NPO、企業などで15週間の就労体験と夜間に行われる授業を通じ国際的感覚を身につけ、将来のグローバルリーダーを育てるプログラムです。

⑦Diversity Voyage

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) が行う、夏季および春季休暇を利用した短期間の海外研修です。海外で現地学生等と英語でコミュニケーションを取りながら共創・協働することで、語学力のみならず「多様性適応力」を育みます。

○各プログラムの詳細は大学webサイトを確認してください。

国際交流「海外留学を希望する方へ」

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/>



海外留学・研修
プログラム向け
給付型奨学金

東洋大学では、多くの学生が海外留学・研修プログラムに参加できるよう、充実した奨学金を用意しています (プログラムや語学スコアに応じ、7～300万円を給付)。

－東洋大学留学奨学金

－東洋大学海外留学促進奨学金

その他、民間団体などによる奨学金もあります。

各奨学金の要件や金額は変更になる可能性があります。

詳細や最新情報は国際教育センターwebサイトで確認してください。

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/scholarship/>



休学留学

◆本学を休学して外国の大学等へ留学した場合の単位認定について

本学を休学して外国の大学等に留学した場合、留学先で修得した単位を本学の単位として認定することができます。単位認定を希望する場合は、事前に所定の手続きを行う必要があります。

◆単位認定の対象となる機関

学位授与権を持つ大学（学部学生のみ2年制大学及び附属語学学校を含む。）および附属学校。

◆留学期間

休学期間を超えない範囲とする。

※原則として連続する2セメスタ（1年間）を超えて休学することはできません。

◆必要な手続き

休学手続きを行う前に、国際教育センターへ留学機関等に関する届出を行う必要があります。手続き詳細については、本学webサイトを参照してください。

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/kyugaku-ryugaku/>



！板倉事務課での事前相談について！

交換留学、認定留学および協定校語学留学に出願する学生は、留学終了（帰国）後に最短で卒業および諸資格取得を可能にするため、不明な点がある場合は必ず留学出願前に板倉事務課窓口で相談してください。また、帰国後の履修手続きについて注意すべき点（継続履修および学年進行に関わる科目、帰国後の授業科目の履修・成績（卒業要件、資格取得要件等））がありますので、留学決定後にも必ずすみやかに板倉事務課窓口で相談してください。

国際交流・国際教育プログラムの内容や募集に関する情報は、国際教育センターwebサイトで確認して下さい。

URL : <https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/>



◎海外留学・研修プログラムについての問い合わせ先

国際部〔国際教育センター〕（白山キャンパス8号館1階）

TEL 03-3945-8172 Email : mlryugaku@toyo.jp

◎学籍・履修・単位認定に関する問い合わせ先

板倉事務部板倉事務課

TEL 0276-82-9173

受付時間 月～金 9:20～12:50, 14:00～18:30

土 9:20～12:50

2. 板倉キャンパスの情報環境について

(1) ネットワーク利用について

本学では情報環境として電子メールを中心とした「ToyoNet (トヨネット)」, 電子シラバス「ToyoNet-G (トヨネットジー)」, 授業における教員との連絡の役割をする「ToyoNet-ACE (トヨネットエース)」が提供されています。

*全学生にToyoNetの電子メールアドレスが無償で配布されています。

ToyoNet (トヨネット)

ToyoNetについての詳しい説明は
URL <https://www.toyo.ac.jp/toyonet/top/>で見ることができます。

ToyoNet-G (トヨネットジー)

Web上での履修登録やシラバス閲覧, 時間割確認, 休講情報の閲覧などができます。

ToyoNet-ACE (トヨネットエース)

教育研究支援システムです。授業の内容やレポート提出などのお知らせが載っています。実際に利用するには, パソコンや携帯端末から以下のアドレスにアクセスしてください。

URL <http://www.ace.toyo.ac.jp/>

(2) パソコン・ネットワークの利用場所について

学内での利用

PC教室, 図書館, 就職・キャリア支援室にあるパソコンは, 目的に応じて利用できます。また, 自己所有のノートパソコンも学内の「無線LANアクセスポイント」に接続すれば, ネットワークの利用ができます。

- ・ PC教室
2号館2階
2208教室・2209教室

PC教室は教育研究を目的にWindowsパソコンが設置されています。2209教室・2208教室共に授業・個人利用のため60台のデスクトップパソコンが用意されています。

個人利用としては, 授業以外の時間でのレポート・卒論作成, 電子メール利用などに開放しています。詳細は大学HPまたはPC教室前の掲示板を確認してください (ただし, 原則として大学開講日 (試験期間含む) 月～金曜日の9:30～18:30, 土曜日の9:30～12:30とします)。

・2207教室

学生ブースには60台のWindowsデスクトップパソコンを備えています。また、ビデオやDVD、CD、書画カメラなどの視聴覚機器を使用して、多角的な語学授業を行うマルチメディア教室です。

・図書館
コンピュータ・commons

Windowsパソコンが28台設置されています。PC教室(2208・2209)のPCと同じ目的・方法で利用可能です。閉館時間の15分前まで利用できます。この他に館内貸出用ノートPC、iPadもあります。詳しくは図書館インフォメーションカウンターで確認してください。

・無線LAN

無線LAN機能付きのパソコンで、板倉キャンパス内では「いつでもどこでも」インターネットにアクセスすることができます。

(3) サポート窓口

PC教室の利用やToyoNetメールについての相談に対応しています。

板倉情報準備室

受付時間 月～金：9：30～17：00

土：9：30～12：30

3. 学則（学籍に関する事項の抜粋）

2021年4月1日現在

別表および最新の学部規定はホームページを確認してください。

第3章 修学等

第1節 修業年限

（在学年限）

第20条 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第4章 入学、退学、休学、除籍等

第1節 入学、留学等

（入学の時期）

第24条 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

（入学資格）

第25条 学部第1年次に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- （1）高等学校を卒業した者
- （2）通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- （3）外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- （4）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- （5）文部科学大臣が指定した者
- （6）大学入学資格検定（平成17年1月31日規程廃止）に合格した者
- （7）高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- （8）その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

（入学の志願及び選考）

第26条 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表第1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続）

第27条 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第28条 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在籍期間中の本学の諸規則の遵守について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第29条 入学手続を終えた者には、学生証を交付する。

(編入学)

第30条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考のうえ、編入学を許可することができる。

- (1) 短期大学を卒業した者
 - (2) 大学を卒業した者
 - (3) 高等専門学校を卒業した者
 - (4) 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者
- 2 編入学に関する規程は、別に定める。

(転入学)

第31条 学長は、他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、選考のうえ、転入学を認めることができる。

2 転入学に関する規程は、別に定める。

(転部・転科)

第32条 学長は、学生が学部の他の部へ、又は他の学部及び学科又は専攻へ転部及び転科を願い出たときは、選考のうえ、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

(留学)

第33条 学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

(二重学籍の禁止)

第34条 学生は、他の学部学科又は他の大学と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 引続き3カ月以上修学できない学生が休学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、2学期を超える期間の休学を許可することができる。

3 休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。

4 願いにより休学した者が、休学の期間が満了した場合又は休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(退学)

第36条 学生が理由を明確にして退学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(転学)

第37条 学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(除籍)

第38条 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、所定の手続を経て、除籍する。

- (1) 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者
 - (2) 第20条に規定する在学年数を超えた者
 - (3) 第35条第3項に規定する休学期間を超えた者
 - (4) 新入生で指定された期限までに履修登録を行わないこと、その他本学において修学の意思がないと認められる者
 - (5) 出入国管理及び難民認定法（昭和26年10月4日政令第319号）に定める「留学」又は他の中長期在留資格の取得が不許可又は不交付とされた者
- 2 学生は、除籍されることにより、学生の身分を失う。
- 3 第1項の規定（第2号及び第3号に掲げる者を除く。）により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第8章 賞罰及び奨学

(懲戒)

第57条 学長は、本学の学則その他の規程に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

- 2 退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者以外には、これを行うことはできない。
- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当な理由なくして出席常でない者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

4. 東洋大学生命科学部規程

2021年4月1日現在
別表および最新の学部規程はホームページを確認してください。

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学学則（以下「学則」という。）に基づき、生命科学部の教育研究に関し必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 生命科学部は、学則第4条の2に基づき、学部及び各学科又は専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を、別表第1のとおり定める。

(学位授与、教育課程編成・実施並びに入学者の受入の方針)

第3条 生命科学部は、学則第4条の3に基づき、学部及び各学科又は専攻の学位授与に関する方針、教育課程編成・実施に関する方針並びに入学者の受入に関する方針を、別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 生命科学部は、学則第39条第1項第1号から第5号に基づき、各学科又は専攻の教育課程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法を、別表第3のとおり定める。

(卒業に必要な単位等)

第5条 生命科学部は、学則第52条に基づき、各学科又は専攻の卒業に必要な単位等を、別表第4のとおり定める。

2 生命科学部は、4年次の必修科目等を履修するための条件を、別表第5のとおり定める。

(履修上限単位数)

第6条 生命科学部は、学則第42条第3項に基づき、各学科又は専攻の卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を24単位とする。

(教育職員その他資格)

第7条 学則第45条に基づき、生命科学部で取得できる資格は、次の各号に掲げるとおりとする。(1) 教育職員となる資格

2 前項第1号の資格において、生命科学部で取得することができる教育職員免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

学科及び専攻等	免許状の種類及び教科	
	中学校教諭1種免許状	高等学校教諭1種免許状
生命科学科	理科	理科
応用生物科学科	理科	理科

第8条 学則第45条第2項に基づき、生命科学部で資格を取得しようとする者は、次の各号に定める所定の授業科目の単位を取得しなければならない。

(1) 教育職員の資格 別表6に掲げる授業科目の単位を取得

(2) 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格 別表7に掲げる授業科目の単位を取得

(改正)

第9条 この規程の改正は、学長が生命科学部教授会の意見を聴き、学部長会議での連絡調整を経て行う。

附 則

1 この規程は、2021年4月1日から施行する。

2 前項の規定にかかわらず、2020年度以前の入学生については、なお従前の例による。

VI 教員紹介(プロフィール)

オフィスアワーについて

学生の質問や相談に対し、教員は日常的に時間の許す限り、いつでも対応するように努めていますが、学生の便宜をいっそう図るため、オフィスアワーを設定しています。

1. オフィスアワーとは

正課の授業とは別に学生と教員のコミュニケーションを密接にする場として設けた時間帯のことです。あらかじめ設定された時間帯に専任の教員が研究室で待機し、学生からの質問や相談を受けやすくするための制度です。学生は、自分の所属する学科の教員だけでなく、どの学部・学科の教員を訪ねてもかまいません。

オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や、単位取得について、学習の進め方、履修登録のプランなどの相談のほか、レポート指導など、学習に関することをはじめ、卒業後の進路、転部・転科、休学などの進路に関する事、留学、就職、大学院進学のための推薦状に関する事など、学生生活全般にわたって個人的な相談をすることができます。

先生方は、学生のみなさんのさまざまな相談に応じ対処してくれますが、対処しきれない事柄については、他の専門の先生や、学内外の適切な関係者（組織）を紹介してくれるでしょう。

2. オフィスアワーの活用方法

オフィスアワーを活用する際は、ToyoNet-G（学務システム）のシラバス「教員プロフィール」に記載されている「オフィスアワー」の時間帯を確認し、研究室を訪問してください。予約が必要な場合もありますので、その場合は確認をしてから訪問してください。

※ここに記載されている内容は2021年4月時点のものです。

生命科学部生命科学科



教授 一石 昭彦
ICHIISHI, Akihiko

1号館3階第3研究室

主な担当科目
生化学 I, 遺伝子工学, 生命実験化学

学位
博士 (学術)

自己紹介, 学生へのメッセージ

生命科学の分野は, 近年急速に発展をとげています。昔では高度な研究が, 現在では普通に出るようになってきてます。このような可能性に満ちた新しい分野で共に学びましょう。

オフィスアワー

火曜日 13:20~14:50
それ以外でも在室している場合は受け付けます。



教授 伊藤 政博
ITO, Masahiro

1号館3階第2研究室

主な担当科目
極限環境微生物学, 微生物生理学, 生命科学史

学位
博士 (工学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

私たちの研究室が研究対象にしている生物は, 極限環境微生物といって私たち人間がとても生活できないような過酷な環境を好んで生息しています。その中でも高アルカリ性環境を好んで生育する微生物 (好アルカリ性細菌) が持っている“特殊な能力”を解明し, 社会に役立つ研究を推進しています。好アルカリ性細菌が生産する酵素やそこから作り出される産物は, 私たちの社会の中で役立っています。詳しくは, 講談社ブルーバックス Web に記事 (<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/59091>) を書いていますのでそちらをお読みください。

オフィスアワー

春学期: 月曜日 12:00~13:00, 秋学期: 月曜日 12:50~13:10



教授 角谷 昌則
KAKUTANI, Masanori

1号館2階第61研究室

主な担当科目
教育学概論, 教育の制度と経営, 道徳教育論

学位
Ph.D. (Comparative Education/比較教育学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

大学では教員養成課程の教育学関連の専門科目を担当しています。近年では道徳教育に関する仕事も手掛けることが多くなりました。教育学を専門領域としており, 教育行政学, 開発教育学, 比較教育学で学位を取得してきましたが, もっと大きな視座からこの世界を捉え, そこから「生きる」ということの意味について模索しています。まずは私たちの存在を支えているこの世界のしくみや私たちの存在の根底にある生命について問い直し, そこから私たち「人間はいかに生きるべきか」という問いに対する手掛かりを探りながら, そうした生を生き抜くために私たちは「いかに学び成長するべきなのか」という問題への答えを見つけ出そうという試みです。最新の物理学が解き明かす世界像から, いわゆる自己啓発と呼ばれる分野の動向にまで広く関心をもっています。

教職は, そうした「生きることの意味」について, 指導的立場から児童生徒たちと一緒に探究していく職業です。文部科学省の意向に沿いながら教科書を教え, あとは部活をしていれば務まるというものではありません。ですから, 単に「教員免許があると何かの役に立ちそうだから」という功利的な理由や, あるいは「人に教えることが好き」といった表面的な動機ではなく, 児童生徒と共に人間の成長について考え悩むことのできる人に教職課程を履修してもらいたいと思っています。

オフィスアワー

火曜日 13:20~14:50



教授 **金子 律子**
OHTANI-KANEKO Ritsuko

1号館3階第13研究室

主な担当科目

生物学Ⅰ, 生殖生物学, 組織/病理学概論, 動物生理学, 発生・再生生物学

学位

医学博士

自己紹介, 学生へのメッセージ

自分が面白いと思ったことを、面白いと思っただけで終わりにしないで、調べる努力を惜しまないようにして下さい。自分達の体を含めて、生物は不思議なことに満ちています。「生物のしくみは、面白いなあ、上手く出来ているなあ」と感じたことを、少しずつ自分達で調べたり実験したりして、その仕組みを解明していきましょう。

オフィスアワー

火曜日 12:45~13:15



教授 **川口 英夫**
KAWAGUCHI, Hideo

1号館3階第24研究室

主な担当科目

脳科学, 基礎化学, 分析化学, 医用工学概論, キャリアデザインⅠ

学位

博士(工学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

脳や神経細胞の謎に挑戦してみたいあなた、一緒に知恵を絞りましょう。個体の行動レベルからのアプローチ、逆に細胞レベルからのアプローチの両面を試みています。電子ペン・光・微小電極等を用いた計測技術が基盤ですが、これはあくまで道具で、目的は『脳・神経系の謎を解き明かす』ことにあります。粘り強く実験を重ね、『悟りにも似た新しい理解』にたどりつく醍醐味を味わって欲しいと思っています。もちろん個人々人のできることは限られていますが、『科学技術の進歩に寄与』し、ひいては『社会に貢献する』という志を持って、一步一步着実に進みましょう。

オフィスアワー

月曜日 13:00~14:00



教授 **児島 伸彦**
KOJIMA, Nobuhiko

1号館3階第11研究室

主な担当科目

神経生物学, 細胞機能学, 医生理学, 血液・免疫学概論

学位

医学博士

自己紹介, 学生へのメッセージ

私の専門は神経科学です。学生の頃から本を読むのが好きで、その中の一冊に「狂気と脳-分裂病の精神薬理」(スナイダー著/加藤信訳・海鳴社刊・1976年刊)というのがありました。「こころ」も生物学的な基盤によって生み出され、化学物質によって左右されるものであるという内容に好奇心を刺激され、それが今の私の研究のきっかけになっています。

大学ではたくさんの講義が用意されていますが、4年間の学びの主体は皆さんにあります。講義をきっかけとして、興味や疑問を持ったことを自ら掘り下げていく学びをぜひ実践してください。

オフィスアワー

月曜日 12:45~13:15



教授 清水 文一
SHIMIZU, Bun-ichi

1号館3階第25研究室

主な担当科目

生化学Ⅱ, 有機化学, 植物生化学, 機器分析Ⅰ

学位

博士(農学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

生物たちは、私たちの身近なところでさまざまな生存競争を繰り広げています。道ばたの草花も、土の中の微生物も、それぞれが生き抜くための工夫を進化の過程で獲得してきました。とくに植物は暑くなったり、寒くなったり、外敵が襲ってきて、その場から逃げるのができないかわりに、外敵を追い払い、ストレスに対抗する防御システムを持っています。植物の生産する色素や香り成分といった二次代謝産物の多くが抗菌・抗酸化活性を持っており、防御のために植物が自ら生産・蓄積していると考えられます。私の研究グループでは、この防御の仕組みを詳しく知ることで、病気に強い作物や、植物の持つ機能を利用する栽培法を編み出せないかと考えて研究しています。とくに、植物の防御に関わる二次代謝産物の生合成に関わる酵素・遺伝子を手がかりにして、化学や分子生物学、生化学を道具に研究を進めています。

大学生活では広く学び、分子生物学、生化学、化学などという垣根を取り払った俯瞰的な目で生き物の世界を見てください。

オフィスアワー

月曜日 13:00~14:00



教授 竹井 弘之
TAKEI, Hiroyuki

1号館3階第23研究室

主な担当科目

メディカルバイオテクノロジー, 物理Ⅰ, 物理Ⅱ

学位

応用物理

自己紹介, 学生へのメッセージ

世の中では異なる文化間の連携がますます重要になっている様、学問においても異なる分野の接点から新しい知識や技術が生まれてきています。21世紀は間違いなくバイオの世紀になっていきますが、是非物理もお忘れなく。二刀流をマスターして、将来の科学技術を切り開いていきましょう。人類を新たな感染症の脅威から守ることや、明るく高齢化社会の実現に貢献できるかもしれませんよ。

オフィスアワー

春学期：金曜日 11:00~13:00, 秋学期：水曜日 11:00~13:00



教授 長坂 征治
NAGASAKA, Seiji

1号館3階第22研究室

主な担当科目

地球環境学, 植物分子栄養学, 生物学Ⅱ, 機器分析Ⅱ

学位

農学博士

自己紹介, 学生へのメッセージ

植物が育たない様な不良土壌で生育可能な植物の開発、また、海洋性藻類の円石藻が持つ石灰化という特殊な二酸化炭素の固定機構を対象に研究を進めてきました。人類の旺盛な消費活動、産業活動により地球の環境は大きく変化しつつあります。「環境」という言葉を耳にする機会が増え、多くの人が地球環境に関心を持つようにもなりました。生命科学の分野では、生物の機能を利用して環境を修復する、あるいは環境への負荷を減らすといった試みがなされています。しかしながら、生命現象について我々が持つ知識はわずかで、生物の持つ能力を最大限に生かしてはいません。生物の中に秘められた能力を引き出して、地球を癒してみませんか。

オフィスアワー

春学期：月曜日 12:00~13:00



教授 鳴海 一成
NARUMI, Issay

1号館3階第10研究室

主な担当科目

基礎微生物学, 基礎分子生物学, 微生物利用学, 放射線生物学

学位

博士 (農学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

生物の基本的な生命維持機構であるDNA修復の分子機構解明を通じて、ヒトの一千倍もの放射線耐性を示す放射線抵抗性細菌が、なぜ放射線に強いのかを調べています。また、イオンビームを用いた突然変異育種技術で微生物や植物を改良することにも取り組んでいます。

大学では、生命の謎を解く過程を体験し、科学的な思考能力を身につけるように心がけてください。生命科学に関する幅広い知識と視野を身につけ、「科学技術」と「現代社会」との関わりを多面的な視点で見据えること、これは、皆さんが将来どのような職業に就こうとも必要な事柄です。

オフィスアワー

水曜日 12:40~13:20



教授 長谷川 輝明
HASEGAWA, Teruaki

1号館3階第15研究室

主な担当科目

糖鎖科学, 基礎有機化学, 生物有機化学, 危険物管理概論

学位

博士 (工学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

我々人間は膨大な数の細胞から構成された「多細胞生物」です。バクテリアなどに代表される単細胞生物との大きな違いは、多細胞生物のなかでは個々の細胞がおのおのの役割を持ち、周りの細胞とコミュニケーションを取りながら、一つの生命体としての調和を維持している点です。この多細胞生物特有の現象に、細胞表面の「糖鎖」が深く関与していることが明らかとなりました。つまり、核酸やタンパク質に加えて糖鎖の機能を解明することが、我々人間の体の仕組みを理解する上で重要なのです。しかし糖鎖は多種多様であり、構造も複雑で存在量も少なく、個々の糖鎖の詳しい役割は未だ全く分かっていません。このように人類はもっとも身近な存在である我々の体の仕組み自体でさえ、いまだに全く理解できていないのです。21世紀は間違いなく生命科学の時代です。みなさんもこの刺激的な学問分野を我々と一緒に探求してみましょう。

オフィスアワー

金曜日 9:00~10:30



教授 廣津 直樹
HIROTSU, Naoki

1号館3階第30研究室

主な担当科目

ゲノムインフォマティクス, 植物科学, 物理化学, 植物環境生理学

学位

博士 (農学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

あなたやあなたの身の回りの生物を構成するエネルギーは、元をたどると全て植物が光合成によって獲得したエネルギーです。イネやトウモロコシといった私たちにとって重要な植物は、生命の設計図ともいわれるゲノム配列が解読されました。とはいえまだまだ分からないことだらけです。たとえゲノム配列が全て分かっても、人為的に光合成能力を高めたり、植物の生長を完全に制御したりすることは、現在の人類の英知では不可能なものです。ゲノム情報はものを考えたり作ったりする材料に過ぎず、それだけでは役に立ちません。ゲノム情報をうまく利用して、植物の巧妙でダイナミックな営みの一端を覗いてみましょう。そこから植物のポテンシャルを引き出す糸口が見えてくるかもしれません。

オフィスアワー

春学期: 水曜日 11:10~12:40, 秋学期: 火曜日 13:20~14:50



教授 藤村 真
FUJIMURA, Makoto

1号館3階第16研究室

主な担当科目
分子遺伝学, 真核微生物学, 現代生物学

学位
博士 (学術)

自己紹介, 学生へのメッセージ

農作物の病害被害は、主に真核微生物に属する植物病原菌により引き起こされます。我々は、糸状菌の病原性と形態形成や環境応答に関わるシグナル伝達経路の研究を行っています。また、遺伝子診断技術を農業分野に展開し、植物病原菌を検出する技術を開発しており、農作物の安定的生産と食の安全・安心を志向して研究に取り組んでいます。基礎研究と応用研究、先進性と独創性を重視したOnly oneの研究室を目指しています。

オフィスアワー

春学期：水曜日 13：20～14：50, 秋学期：水曜日 13：20～14：50



准教授 江口 智子
EGUCHI, Tomoko

1号館2階第50研究室

主な担当科目
Integral English I, Integral English II

学位
英文学博士 (PhD English)

自己紹介, 学生へのメッセージ

主に1年生の必修英語授業を担当しています。専門は19世紀の英文学ですが、最近では英語教育や動物と関連付けた研究に興味を持っています。

あるイギリスの馬術オリンピック選手は「競技会での演技は何年もの訓練の成果」と語り、日々の基礎トレの重要性を家の土台づくりに喩えて主張しています。

英語の学習も基礎事項を理解した上で練習を積み重ねることが上達の鍵だと思います。英語が得意な方も苦手な方も、それぞれ目標を定めて一緒にがんばりましょう。No pain, no gain!

オフィスアワー

水曜日 13:30～14:30



助教 郡司 芽久
GUNJI, Megu

1号館2階第60研究室

主な担当科目
ライフサイエンス英語, 生物学実験

学位
博士 (農学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

私の専門は解剖学で、生き物の身体の構造や身体の動かし方を研究しています。解剖学は身近な学問ではないかもしれませんが、私たちも自分の身体を動かして、日々生活しています。様々な動物の身体の構造や動きを知ることには、自分自身を知ることにも繋がっていきます。

「この動物はどのようにこんな姿をしているのだろうか?」「曲がる時はどんな風に身体を動かしているのだろうか?」自分の目でじっくり観察することは、「理解する」ことの入り口で、「好きになる」ことの第一歩です。身近な自然現象をじっくり観察し、誰も答えを知らない謎に取り組んでいきましょう。また、大学は「自分の可能性は無限である」ことを確認する場です。これまで存在も知らなかったような新しい価値観や領域にたくさん触れて、みなさんが「可能性を賭ける価値があるもの」を探すお手伝いがしたいと思っています。「この生き物の研究をしてみたいのですが、どうすれば研究できますか?」という質問も大歓迎です。

オフィスアワー

ToyoNet-Gの教員プロフィールにてお知らせします。



英語講師 **アシュトン ジョージ スティーヴン**
ASHTON, George Steven

1号館2階第52研究室

主な担当科目

English Communication I/II, English Speech & Presentation,
English Reading & Writing

学位

Master of Science (MSc) in Technology and Industrial Organisation
Bachelor of Science (BSc) in Physics

自己紹介, 学生へのメッセージ

I'm British, and was born and raised in London, where I worked mostly in the financial services industry. Here in Japan, as well as being a teacher, I'm also an actor and voice actor, so you might see or hear me on television occasionally.

I like to use drama techniques in my classes, but please don't worry - you don't need any acting skills or experience to take part.

It's a fun way to learn, and can help you relax, be creative, improve your teamworking abilities, and build confidence - these are all skills that good scientists, entrepreneurs and innovators need.

If you see me on campus, please don't be shy - just come up to me and say hello.

オフィスアワー

Spring : Wednesday 9 : 30~11 : 00, Autumn : Thursday 13 : 20~14 : 50



英語講師 **ガルシア ヒブラン**
GARCIA, Gibrán

1号館2階第51研究室

主な担当科目

English Communication I/II, English Speech & Presentation,
English Reading & Writing, スペイン語

学位

博士 (学術) Ph.D. in Education

自己紹介, 学生へのメッセージ

Hello, everyone!

My name is Gibrán García. I am from Oaxaca, one of the most culturally diverse states in southern Mexico. I hold a doctoral and master's degree in Education and a bachelor's degree in Teaching English as a Foreign Language. Throughout my professional career, I have worked as an English and Spanish teacher, writing tutor and research assistant. I am very interested in foreign language education, intercultural communication, education technology and positive psychology. In my free time, I like spending time with my family, learning new things and exercising.

I am looking forward to meeting you all.

¡Hasta luego!

オフィスアワー

Wednesday 11 : 10~12 : 30

生命科学部応用生物科学科



教授 梅原 三貴久
UMEHARA, Mikihisa

1号館3階第37研究室

主な担当科目

植物バイオテクノロジー, 植物生理学, 植物遺伝育種学

学位

博士(理学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

植物は食糧、環境、エネルギーなどさまざまな場面で我々の生活に貢献してくれています。世界規模で様々な課題に直面する昨今、持続的な社会を構築するためには、まだ知られていない植物の潜在能力をうまく引き出す必要があります。私の研究室では、植物の形を制御する植物ホルモンや人の健康に関わる機能性成分など、植物が生産する物質に注目した研究を進めています。植物の栽培が好きな方、新しい発見が好きな方、社会貢献につながる研究がしたい方、是非いっしょに研究して議論しましょう。

オフィスアワー

月曜日 12:40~13:20 この時間以外でも手が空いていれば対応します。



教授 柏田 祥策
KASHIWADA, Shosaku

1号館3階第32研究室

主な担当科目

環境倫理, 分析化学, 生態毒性学

学位

博士(農学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

環境健康科学研究室を主宰しています。研究内容は、①人間活動が生態系を汚染するメカニズム、②汚染された生態系に棲息する生物が受ける毒性影響や人間に与える影響、③汚染が起こらないようにするための社会システム構築への貢献など、です。研究室での実験研究は、毒性学をベースに、分子・細胞・組織・臓器・個体・個体群レベルで行っています。対象とする生命システムは神経系・内分泌系・免疫系です。研究成果は、私が構築した世界9か国13研究組織と共有して、国際共同研究を展開しています。また日本政府代表研究者の一人として国内法規制による環境保全にも貢献しています。

オフィスアワー

月曜日 11:00~12:00



教授 小柴 和子
KOSHIBA, Kazuko

1号館3階第27研究室

主な担当科目

動物生理学, 動物バイオテクノロジー, 病態生理学

学位

博士(理学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

動物の体を構成する個々の器官の形がどのようにしてできるのかに興味をもち、四肢、網膜から始まり、最近では心臓に着目して研究を行っています。心臓の形は動物によって様々で、一見単純な構造に見える魚類の心臓(一心房一心室)も実は水中生活に適した形になっています。興味深いことに二心房二心室の心臓をもつ哺乳類も発生の過程で魚類のような心臓の形態をとります。進化発生的なアプローチから形や機能の多様性が生じたメカニズムを明らかにし、将来的にはヒト疾患の発症原因の解明につなげていきたいと考えています。

自分たちの体がどのようにできてきたのか、一緒にその謎に取り組みませんか？

オフィスアワー

月曜日 13:00~14:00



教授 椎崎 一宏
SHIIZAKI, Kazuhiro

1号館3階第4研究室

主な担当科目
分子生物学Ⅰ, 生命環境科学, 環境健康科学

学位
博士(医学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

遺伝子組み換えマウス、ヒトの培養細胞や組換え酵母を使って環境化学物質の毒性メカニズムを解明する研究を行っています。

本学に着任するまでは、製薬企業や国研などあちこちで働き、多くの人の助けによって研究を続けてきました。若い人たちは、まずは多くの人とコミュニケーションを取ってください。性別や年齢にかかわらず、気の合う人物がいたら本音で話せるような関係を築いて下さい。豊かな人間関係は必ず豊かな人生に結び付きます。

オフィスアワー
水曜日 15:00~17:00



教授 角野 立夫
SUMINO, Tatsuo

1号館3階第35研究室

主な担当科目
水処理工学, 環境修復学, 公害防止総論, 廃水処理システム学

学位
農学博士

自己紹介, 学生へのメッセージ

地球温暖化や環境汚染など地球環境の変化が急激に生じています。将来に残す地球環境をどう保全すべきか議論されている時代です。この変化の時代を切り開いていく中心を担うのは学生である君たちひとりひとりです。水環境保全技術など「環境修復学」「公害防止総論」などを学ぶことにより、地球環境の生態系のあり方について考えてみませんか。

オフィスアワー
金曜日 15:10~17:30



教授 道久 則之
DOUKYU, Noriyuki

1号館3階第19研究室

主な担当科目
分子生物学Ⅱ, 酵素工学, 基礎化学

学位
博士(工学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

生命科学の分野は、まだまだ未開の分野であり、それだけに世界中の誰も知らないことを自分自身で発見したり、開発したりするチャンスが多い分野です。特に極限環境微生物の研究分野は、このようなチャンスの多い分野です。極限環境微生物や極限環境微生物の生産する酵素に興味のある方、ともに研究しましょう。

オフィスアワー
月曜日 10:00~12:00



教授 **根建 拓**
NEDACHI, Taku

1号館3階第31研究室

主な担当科目
細胞生物学, 細胞工学, 基礎生物学

学位
博士 (農学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

私たちの生活は多くのストレスにさらされています。「ストレス」というとネガティブなイメージが付きまといませんが、ストレスとなりうる刺激であっても、適切な量・頻度であれば、かえって体に良い影響を持つこともあります。

私は現在、(1)筋細胞を使った運動やストレッチ効果、(2)神経細胞のストレス応答制御、(3)栄養と細胞機能などの細胞レベルでの研究を通して、ストレスとうまく付き合うためにはどうしたらよいか?について研究を行っています。

ストレスや動物細胞の研究に興味を持っている方、ぜひ一緒に楽しく研究しましょう!

オフィスアワー
金曜日 12:00~13:00



教授 **山本 浩文**
YAMAMOTO, Hirobumi

1号館3階第6研究室

主な担当科目
有機化学, 植物代謝化学, 植物機能利用学, 薬物生体作用学

学位
薬学博士

自己紹介, 学生へのメッセージ

様々な植物が毒薬として使われてきたことを知ってびっくり, 実はこれらの植物は医薬品として重要であると知って二度びっくり。植物がなぜこれらの“薬”を作るのか知りたくてこの道に入り, 植物という“生き物”の生き様を知ってまたまたびっくり。植物という玉手箱, まだまだ“びっくり”のネタを隠しています。「なぜ, どうして」という知的好奇心を胸に, 植物の中の宝探しを始めてみませんか?

オフィスアワー
水曜日 12:00~13:30



教授 **吉永 淳**
YOSHINAGA, Jun

1号館3階第34研究室

主な担当科目
基礎数学, 生物統計学, 情報処理基礎, 情報処理演習

学位
博士 (保健学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

数学や統計学などを担当しています。みなさんが大学4年間で科学的な思考を身につける基礎として役立つよう願っています。

オフィスアワー
春学期: 火曜日 13:00~14:00, 秋学期: 火曜日 12:00~13:00



准教授 **伊藤 元裕**
ITO, Motohiro

1号館3階第33研究室

主な担当科目
生態学, 生物資源科学, 生態制御学

学位
博士 (水産科学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

道端を歩いていてふと気になる野生動物への小さな疑問は大きな科学的問いへの入り口です。身近な、フィールドに出て、動物を調べることで動物の生態や環境とのかかわり詳しく知ることが出来ます。

好奇心と野心と双眼鏡や釣り竿をもって、まずは一緒に大自然に出かけましょう。

オフィスアワー
月曜日 13:00~14:30



准教授 **高品 知典**
TAKASHINA, Tomonori

1号館3階第1研究室

主な担当科目
生化学Ⅰ, 環境微生物学, 古生物学, 機器分析, キャリアデザインⅠ・Ⅱ

学位
博士 (工学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

製薬企業の研究所で10年以上にわたり、微生物・天然物由来の医薬品を探し続けてきました。この間、常に驚かされてきたことは「微生物は計り知れない未知の力を秘めている」ということです。高温、高アルカリ、高圧、高塩濃度などの極限環境に生息する『極限微生物』も、そういった微生物の1つです。その中には'おむすび'のような三角形で平べったい形の菌もいます。これから一緒に研究し、新しい可能性を持つ微生物を探してみませんか。新しい能力を持つ微生物を創ってみませんか。

オフィスアワー
月~金曜日 12:40~13:10 (春・秋学期授業期間中)



准教授 **東端 啓貴**
HIGASHIBATA, Hiroki

1号館3階第7研究室

主な担当科目
生化学Ⅱ, 極限環境微生物学, 先端遺伝子工学, アストロバイオロジー

学位
博士 (工学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

自然界には、培養できない微生物が99%を占めると言われており、まだ人類が知らない性質・機能を持った微生物が存在するはず。「未知なる微生物の発見・その微生物の持つ新規酵素の単離」に挑戦してみませんか?。特に、超好熱菌の酵素について研究したいと考えています。超好熱菌は80℃以上で生育でき、「生物進化の解明」と共に「耐熱性酵素の産業応用」という二つの側面から注目されている微生物です。一緒に「HOT」な研究をしませんか?

オフィスアワー
火曜日 9:30~11:00



准教授 **三浦 健**
MIURA, Takeshi

1号館3階第26研究室

主な担当科目
微生物学, 微生物利用学, バイオエネルギー

学位
博士(工学)

自己紹介, 学生へのメッセージ

「微生物は、私たちの生活でどのように利用されていますか?」と質問されたとき、皆さんだったら、どのように答えますか?

身近なところで、食品・飲料、エネルギー、医薬品などが思い浮かぶと思います。そのような微生物は、我々が生活している環境は、もちろんのこと、深海・地殻内、温泉などの極限環境にも生存しています。残念なことに、これまでに発見されているのは、ほんの一握りで皆さんが見つげ出してくれるのを待っています。このような状況から、社会に役立つ新しい能力を持っている微生物を発見するのは、あなたです!

自分の可能性を信じて、「必ず、発見する!」というチャレンジ心と強い忍耐力がある学生諸君、一緒にやりましょう!

オフィスアワー
水曜日 13:30~14:30



助教 **李 沁潼**
LI, Qintong

1号館2階第55研究室

主な担当科目
基礎生物学演習, 基礎化学演習, ライフサイエンス英語

学位
博士(生物科学)

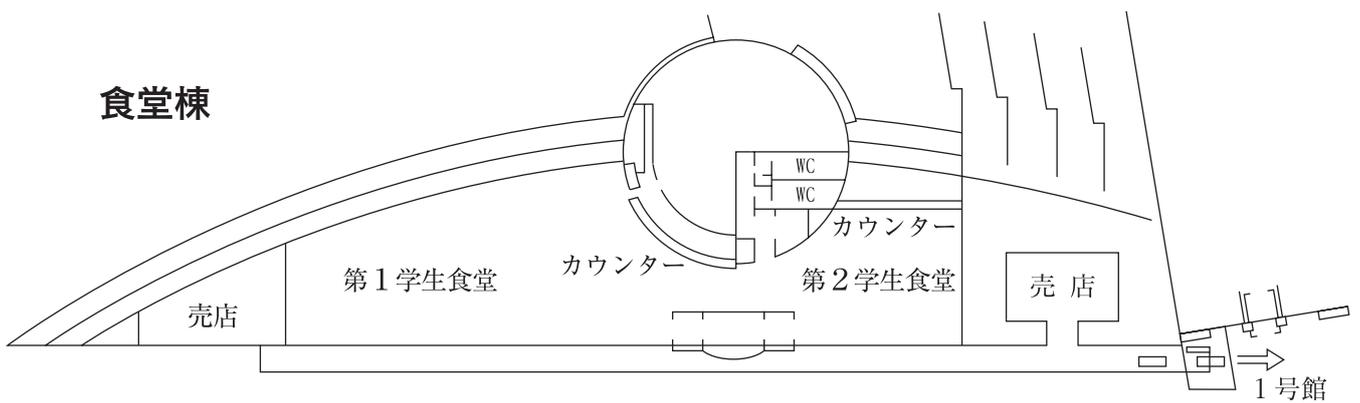
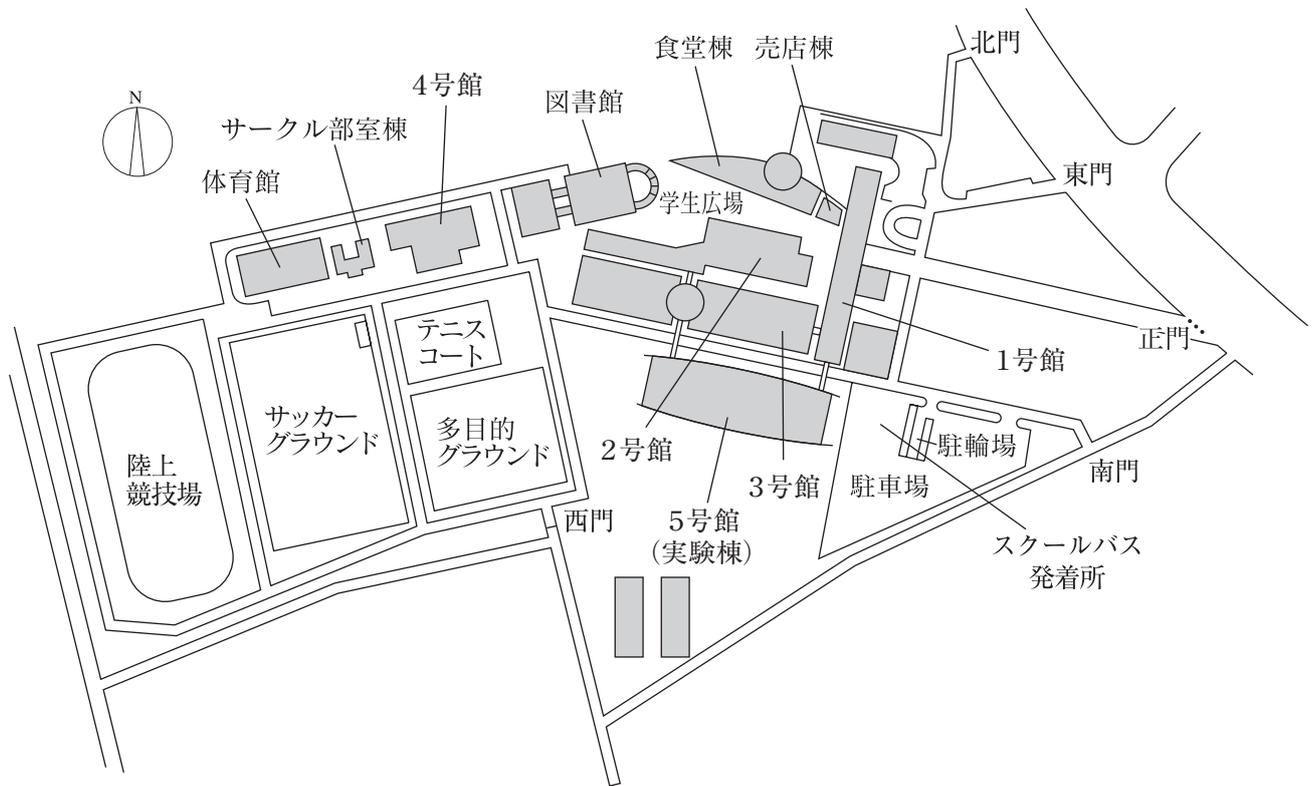
自己紹介, 学生へのメッセージ

地球上の物質って、毎日循環しています。例えば「窒素」を見てみると、空気中の窒素は、すごく複雑なプロセスを経て、卵や肉などになって我々の食卓にやってきます。そして食卓にあった食物中の窒素や、生活・工業廃水中の様々な有機・無機態の窒素は、結局空気の中に戻るのです。こういった物質循環過程では、「分解者」と呼ばれる微生物たちが、重要な担い手として働いています。環境中のほとんどの微生物はまだ私たちには未知の状態で生息しています。こんな小さな微生物がどんな大きな役割を地球の物質循環に果たしているのか、一緒に探究してみませんか。

オフィスアワー
水曜日 13:30~14:30

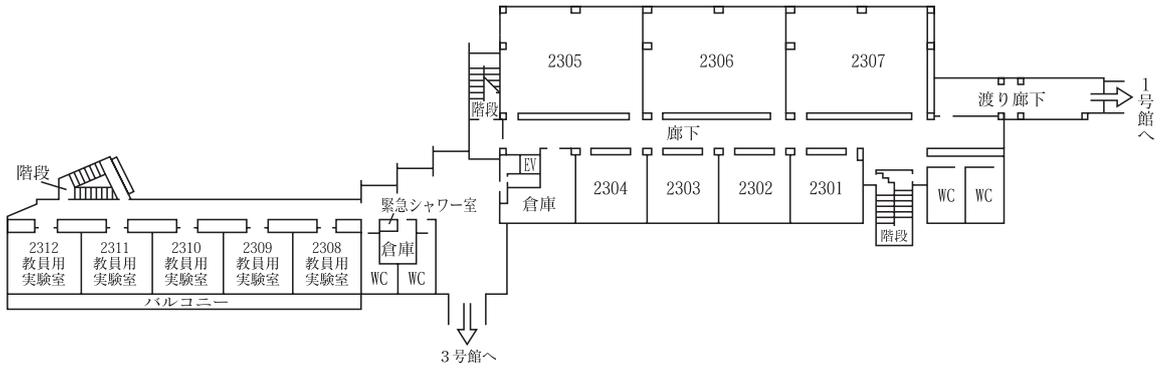
板倉校舎案内図

〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1

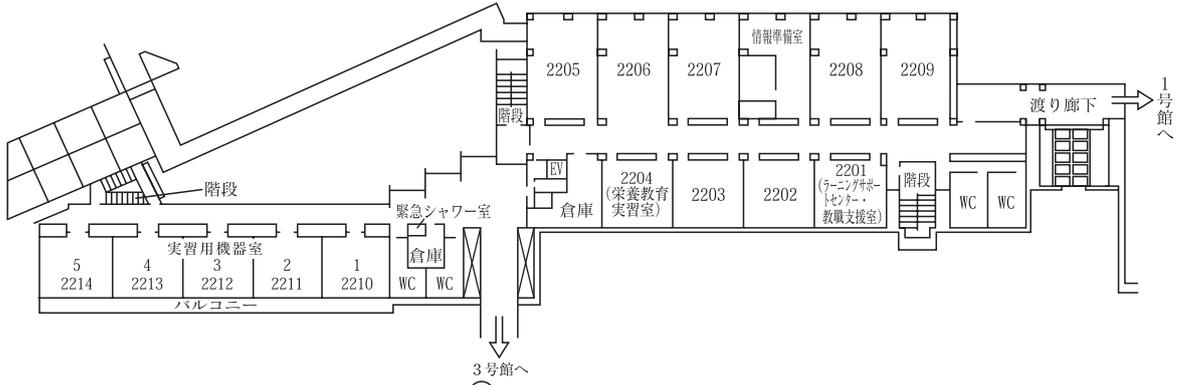


2号館

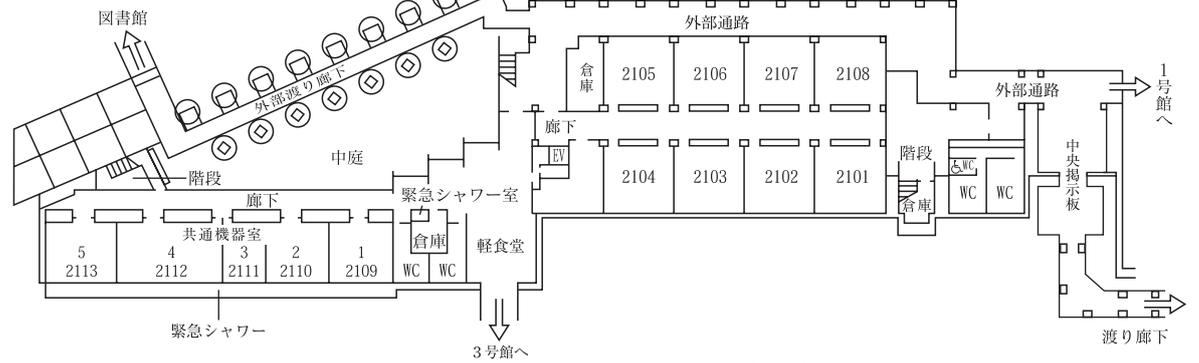
3F



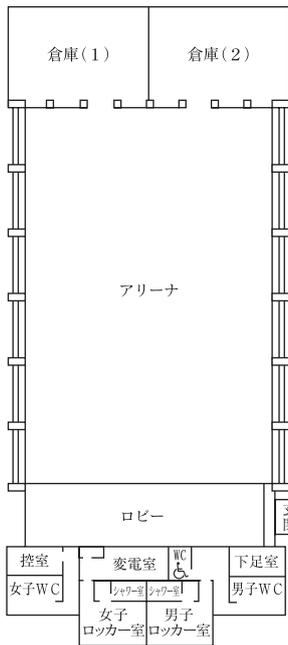
2F



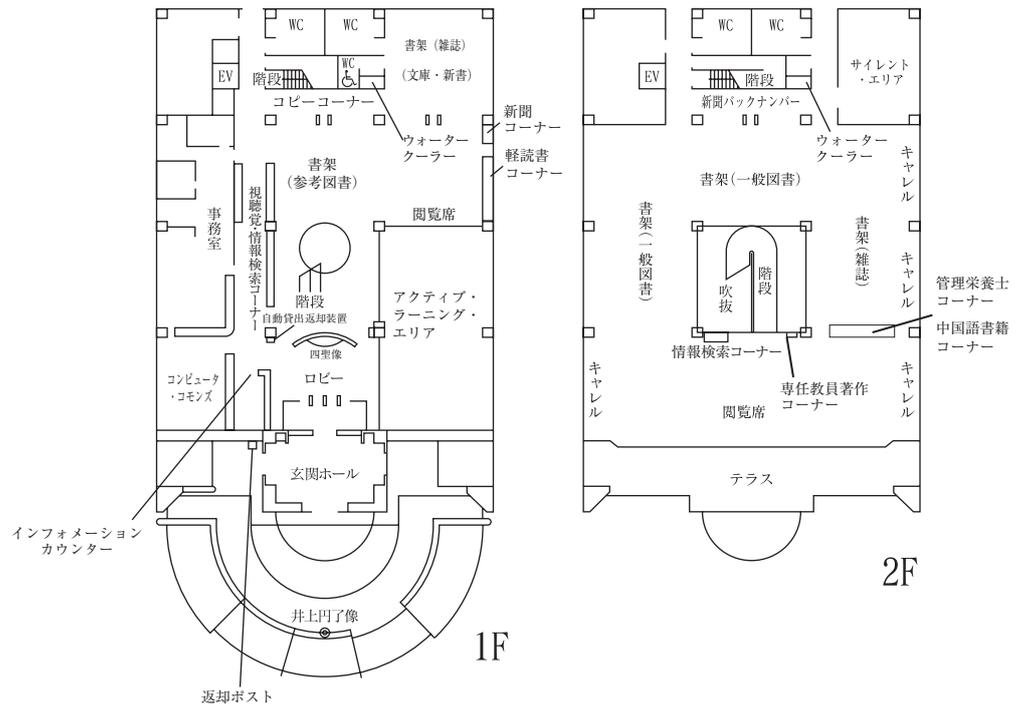
1F



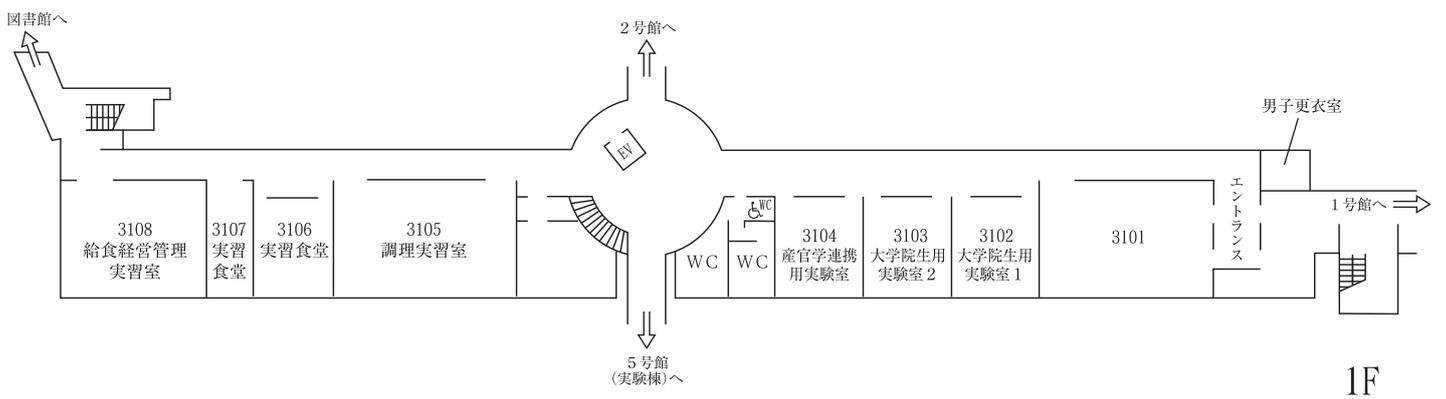
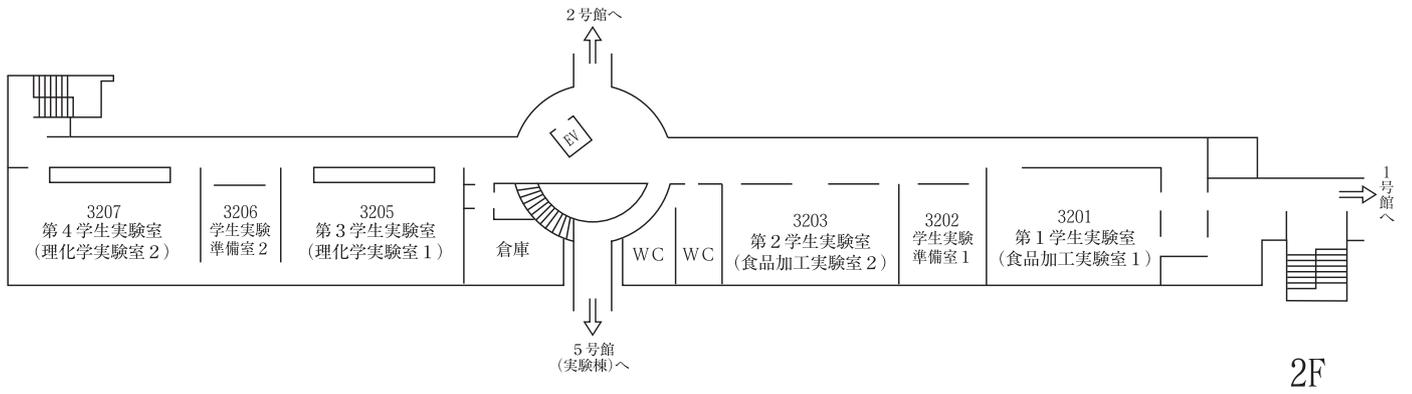
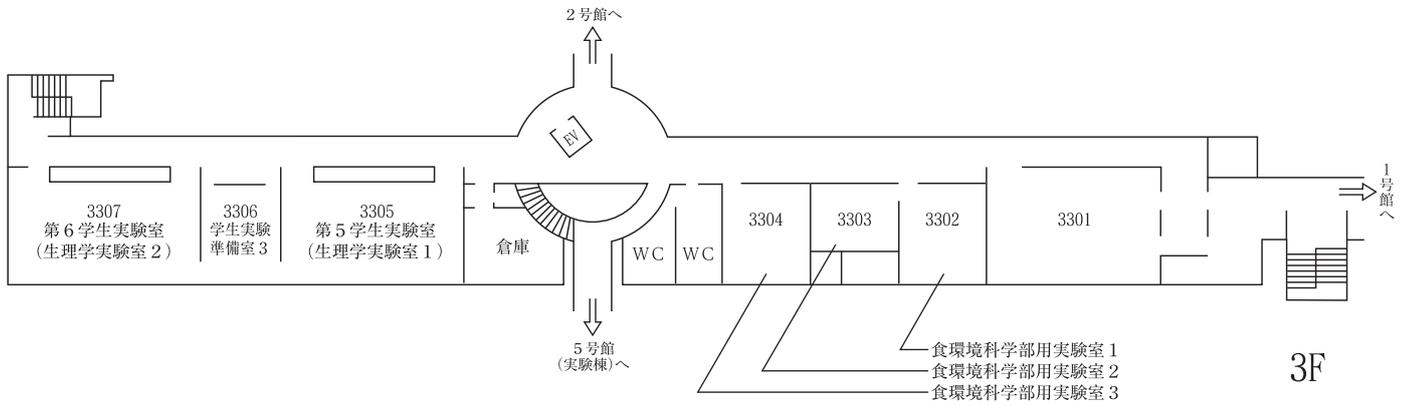
体育館



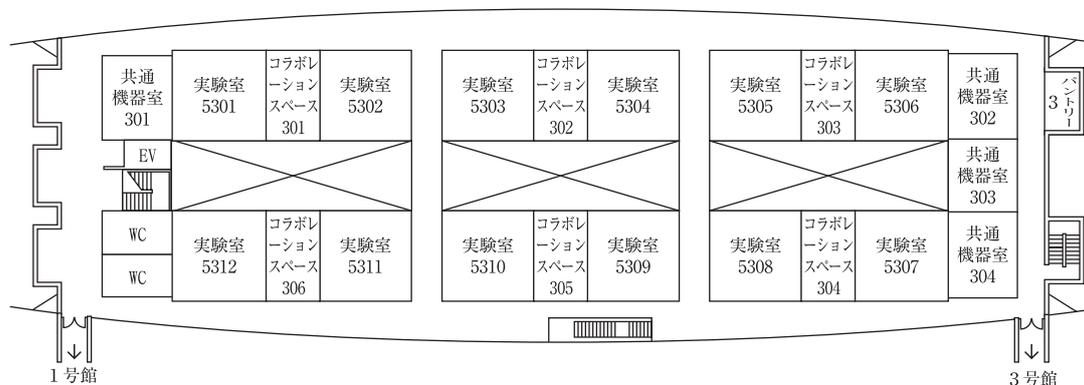
図書館



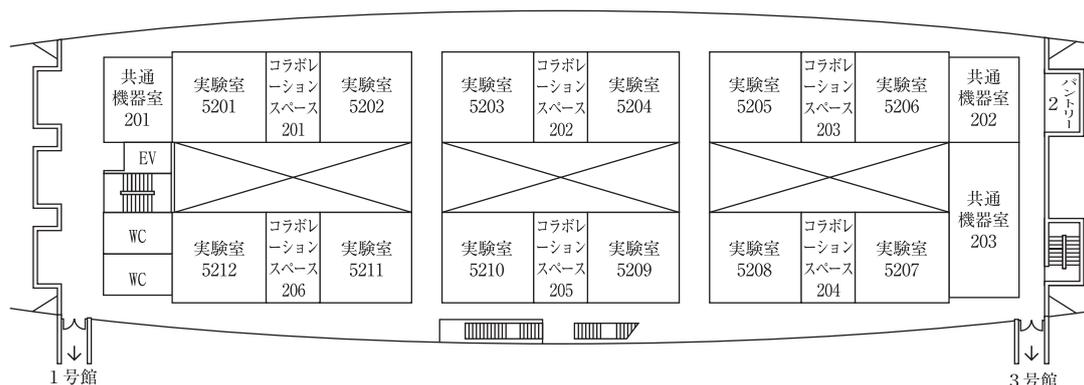
3号館



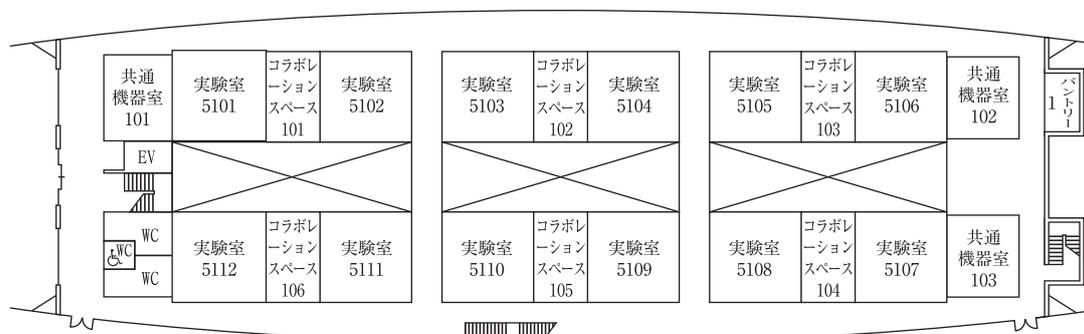
5号館 (実験棟)



3F



2F



1F

2021 生命科学部 履修要覧

2021年4月発行

編集 東洋大学生命科学部
発行

〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1

TOYO UNIVERSITY

<https://www.toyo.ac.jp>